

S52.3.3 森山中
(#12小)

研究集録第13集
昭和51年度

ひとりひとりを生かす 特別活動の
指導のあり方

昭和52年3月3日

東京都小学校特別活動研究会

目 次

- | | | |
|------------|--|----|
| 1. 「児童会活動」 | ひとりひとりを生かす委員会活動の進め方 | 5 |
| 2. 「学級会活動」 | ひとりひとりが意欲的にとりくむ学級会活動の指導
—話し合い活動を活発にする手だて— | 31 |
| 3. 「クラブ活動」 | ひとりひとりが喜んで参加するクラブ活動 | 53 |
| 4. 「学級指導」 | 発達段階に応じた学級指導のあり方 | 79 |

— 今までの研究集録一覧 —

- | | |
|--------------|-----------------------------------|
| 第1集(昭和39年度) | 特別教育活動における指導計画作成上の諸問題 |
| 第2集(昭和40年度) | 特別教育活動の本質をふまえた指導計画のあり方 |
| 第3集(昭和41年度) | 特別教育活動の本質をふまえた望ましい指導計画と実施計画 |
| 第4集(昭和42年度) | 望ましい指導計画による実践事例とその考察 |
| 第5集(昭和43年度) | 望ましい指導計画による実践事例とその考察 |
| 第6集(昭和44年度) | 改訂指導要領実施のための具体的方策と問題点 |
| 第7集(昭和45年度) | 改訂指導要領実施のための具体的方策と問題点 |
| 第8集(昭和46年度) | 新教育課程実践上の諸問題 |
| 第9集(昭和47年度) | 教育課程実践上の諸問題
—各内容相互関連と他の領域等の関連— |
| 第10集(昭和48年度) | 特別活動と他領域との関連 |
| 第11集(昭和49年度) | ひとりひとりを生かす特別活動の特質と指導のあり方 |
| 第12集(昭和50年度) | ひとりひとりを生かす特別活動の特質と指導のあり方 |
| 第13集(昭和51年度) | ひとりひとりを生かす特別活動の指導のあり方 |

研究集録によせて

東京都小学校特別活動研究会

会長 白井健二

平素会員各位のあたたかいご協力により、ここに研究集録第13号が発刊できましたことは何よりも感激に堪えません。

本年度は、6月17日の定期総会を起点として、各地区の貴重な実践活動をよりどころに、活発な研究活動を推進し、予期以上の成果をおさめることのできましたことに深く敬意を捧げる次第です。

このたび教育課程の基準の改善に伴い、特別活動に課せられた期待と関心は、過去3回にわたるそれ以上に大きいものがあるように考えられます。

その中でも「学校裁量の時間」の設定については特に注目されていると思います。申すまでもなく、この時間の活動すべてが特別活動だけではありませんが、その中核と考えるのも過言ではないと思います。

全国小学校校長会では、この時間を学ぶ者の立場にたって充実した活動に発展するため、次の目標を提唱しています。

「学校裁量の活動」は、地域や学校の特色を生かし、児童の実態に即した有効な教育活動を積極的・継続的に実施することにより、児童の健全な自主性と豊かな創造性や社会性をはかるとともに、うるおいのある充実した学校生活を築こうとする実践的態度を育てることをねらいとしている。

さらに、1月7日付の朝日新聞の社説に、新設された「自由時間」とそ学校教師の総意を生かすために、大いに活用されるべきだが、その成否は、現在の学校教師の意欲と能力を問われる試金石となるであろうと報道している。

新年度から、各学校の実態に基いた創意工夫により、学校生活の充実が望まれるわけですが本研究会でも今後これらの課題にこたえるべく、研究活動の推進に全力投球したいと思います。

さいごに、各部長さんを中心に執筆された各位と資料提供にあたられた各学校に、厚くお礼申し上げます。

本年度の研究をふりかえって

専門部長 外村 近

49・50年度は、「ひとりひとりを生かす特別活動の特質と指導のあり方」に取り組み、研究活動を続けた。そして、年々その成果は光ってきた。しかし、一方では、同じテーマによる2か年の継続研究で会員の課題意識にも少しずつ変化が見られるようになった。そこで、本年度は、研究の重点を「ひとり…の特質と指導のあり方」という二頭だてから、「ひとりひとりを生かす特別活動の指導のあり方」に一本化を図り、研究を進めてきた。

テーマが設定されると、第一に特活の特質を充分踏まえた研究であることを全員で共通理解し、認めあい、さらに、6つの研究の視点や9つの研究方法のあることを話し合った。6つの視点とは、① ひとりひとりの要求や意欲を充足するには、どうしたらよいか。② 興味・関心の度合はどのように変容しているか。③ 相互活動としての積極性がどのように育ってきているか。④ 集団の中で、個人の能力や態度がどのように変容してきているか。⑤ 個性の伸長(発見)への手がかりはどのように進められているか。⑥ 集団意識が高まってきているか。しかも、できるだけ教育課程の基準の改善に伴う資料の収集・整理・分析や今後の方向づけまで究めようと努力した。

その結果、児童会活動では、委員会活動に対して、児童の側の意識調査をほぼ全都にわたる17校1,500名に対して生の声を聞くことができた。新しい意味で今後の特活の指導の在り方に大きな示唆を与えてくれた。具体的で子供たちの顔や心に触れる思いがする。学級会活動では、話し合いを活発にする手だてが学年別に、具体的に、実践報告されている。教師の指導がひとりひとりに向けてきたことが実証された。クラブ活動は、3か年間、発展的継続的科学的研究が続けられ、個人カルテを中心に指導の足跡が克明に記録され、研究も指導も一体となって終着駅に近づいた感じがもたれる。学級指導もまた、昨年度の研究を一步進めて、ひとりひとりを生かすための指導の苦心が具体的に克明に綴られ、今後の実践の目印として大いに役立つ多大の成果を収めている。全体的には、① 研究が各部ごとに到着点に近づいたこと。② 研究が専門的に深くなったこと。③ 新しい教育課程の編成や実施に多大の示唆が含まれていること等が特長といえよう。

このように数々の輝かしい業績を収めえたのも、会長さんや役員の方々の励ましや援助、ベテラン研究部長のリーダーシップの発揮、講師の先生方、諸先輩の御指導のたまものと深甚の感謝をする次第である。

東京都小学校特別活動研究会

記

1. 日 時 3月3日 (木) 午後 1:30 ~ 4:00
 2. 会 場 千代田区立今川小学校
 3. 研究主題 ひとりひとりを生かす特別活動の特質と指導のあり方
 4. 時 程 1:30 1:50 2:20 2:30 3:00 3:40 4:00

受 付	全 体 会	移 動	分科会(児童会・学級会・クラブ・学級指導別)		
	あいさつ オリエンテーション		研究発表	研究討議	講評

5. 研究会

- (1) 全体会 1:50 ~ 2:00 進行 庶務部長 佐藤 弘
 ・開会のことば 副会長 久納 六郎
 ・あいさつ 会長 白井 健二
 ・祝 辞 東京都教育委員会
 ・ " 全国特別活動研究会
 ・オリエンテーション 専門部長 外村 近
 ・閉会のことば 副会長 立川 弘

(2) 分科会 2:30 ~ 4:00

	児童会	学級会	クラブ	学級指導
テ - マ	ひとりひとりを生かす 委員会活動の進め方	ひとりひとりが意欲的 にとりくむ学級会の指導	ひとりひとりが喜んで 参加するクラブ活動	発達段階に応じた学級 指導のあり方
運営部長	松野 彰夫(志村一)	笠井 光夫(北野)	小川 国寿(桜川)	安岡 正凱(光和)
司 会	石田 正子(西田) 星野 隆治(桃三)	竹内 郁夫(赤羽台東) 松元 美德(今川)	池田 和栄(千駄木) 蛸井 聡(白金)	新倉 剛(太子堂) 重松 誠(高輪台)
発表者	小川 進一(西戸山) 米本 滋雄(葛飾) 渡辺 寿(開進三)	薩日内信一(本村) 岩堀 早苗(数矢)	大谷 徹夫(神宮前) 志田 時晴(小島) 甲賀 春晴(田柄)	水野 稔(大山) 小林 晃(元加賀)
記 録	宮下 花子(西町) 津端いつ子(稲田)	岡本 正治(済美) 鎌田 清美(駒本)	根本 正路(西中野) 野本 重子(林町)	野々村勝男(柳町) 鈴木 和子(白金)
助言者	墨田区立第四吾孺小長 大西 弘 江戸川区立第二葛西小長 古橋 宏 町田市立南第二小頭 島田 泰介 文京区立窪町小教頭 竹石 善一	練馬区立富士見台小長 久納 六郎 清瀬第八小長 小谷 威 北区立堀船小頭 広瀬 英二 足立区立竹之塚小頭 峰田 渉	目黒区立油面小長 立川 弘 江戸川区立小岩小長 小島 明 八王子第七小頭 岩園 敏明	荒川区立第七峽田小長 中田 英義 文京区立駒本小頭 佐藤 弘(欠席) 文京区立柳町小頭 石川 和男 世田谷区立桜小 岩下 紀夫
※全体の助言者 全国特別活動研究会 会長 高橋 幸三郎				

I 児 童 会 活 動

テーマ 「ひとりひとりを生かす委員会活動の進め方」

1. ま え が き	7
2. 委員会活動への児童の参加意識	8
(1) 意識調査のねらい	8
(2) 意識調査(その1)	10
(3) 意識調査(その2)	16
(4) 調査結果からの考察	20
3. 活動の現状	22
(1) 栽培委員会の活動事例	22
(2) 広報委員会の活動事例	23
(3) 保健委員会の活動事例	24
(4) 給食委員会の活動事例	25
4. ひとりひとりを生かす望ましい委員会活動をめざして	26
5. 研究の反省と今後の課題	28

○ 研究の経過

- 5 1. 6.1 7(木) 総会后, 組織づくり, 研究主題の検討
- 5 1. 7. 6(火) 研究の方向づけ, 委員会活動の組織, 運営面の検討
- 5 1. 9.2 8(火) 委員会活動の活動内容の検討
- 5 1.1 0.2 6(火) 委員会活動への児童の参加意識調査についての検討
- 5 1.1 2. 2(木) 全上 調査結果の集計
- 5 1.1 2.1 8(土) 全上 調査結果の考察, 検討
- 5 2. 1.1 3(木) 委員会活動の望ましい条件の検討, 執筆・発表分担の決定
- 5 2. 1.2 9(土) 集録原稿の内容検討
- 5 2. 2.2 6(土) 発表の準備・打ち合わせ

研究・執筆者名簿

部長	松野 彰夫	板 橋・志村一小	(司 会)	星野 隆治	中 野・桃園三小
副部長 (発表者)	渡辺 寿	練 馬・開進三小	(司 会)	石田 正子	杉 並・西田小
副部長	佐藤 秀夫	中 野・武蔵台小	(記 録)	津端いつ子	北 ・稲田小
"	小泉 美夫	世田谷・多聞小		嶋根 弘子	板 橋・三園小
(発表者)	小川 進一	新 宿・西戸山小		神戸 のぶ	練 馬・上石神井小
	池田 令子	文 京・千駄木小		斉藤 邦広	練 馬・中村西小
	吉仲ミチ子	文 京・柳町小	(発表者)	米本 滋雄	葛 飾・葛飾小
(記 録)	宮下 花子	台 東・西町小		谷 トシ子	八王子・上老分方小
	青山 啓子	品 川・小山小		大場 良枝	三 鷹・三鷹五小
	三田 進	目 黒・東山小		宮沢 正夫	青 梅・青梅四小
	大竹 敏	目 黒・宮前小		脇本 周子	東村山・回田小
	渡辺 弦	世田谷・奥沢小		中村恵美子	狛 江・狛江一小

1. ま え が き

(1) 研究主題について

児童会活動研究部においては、過去3年間にわたって全校集会活動を取り上げ、その特質や望ましい条件をさぐってきた。3年間も継続研究を行ってきたのは、全都的に集会活動がまだ十分に定着していないという実態の上に立ったからである。

今年度の発足にあたっては、過去3年間の研究成果が、部内においても高く評価され、一応の区切りをつけてよかろうということになった。そして、今度は「委員会活動の中でのひとりひとりの生かし方」に視点を当てて研究に取り組み、現場においてまだまだ問題点の多い委員会活動の道標となるべきものを生み出す努力をしてみようということになった。

(2) 研究への取り組み

研究主題を追求するにあたっては、次のような手順を考え、取り組んでいくことにした。

- ① 委員会活動の組織・運営面の検討
- ② 委員会ごとの活動内容の検討
- ③ 子どもの活動意識についての実態調査の実施と考察
- ④ ひとりひとりを生かす「望ましい条件」の設定
- ⑤ 望ましい条件を観点としての授業研究
- ⑥ 観点に基づく検証

私どもの研究部の歩みをふり返ると、委員会活動についての研究は、昭和39、40、41、43、45年度に取り上げられている。特に45年度は、活動内容の精選について、実態調査に基づいた考察から、一応の解明が試みられている。

また、昨年度の都教育研究員グループ、教育の現代化委員会においても、委員会活動のあり方についてのメスが入れられている。

これらの研究の成果を土台にしながら、今年度の研究を進めていくことをまず考えたわけである。そして、今までの研究の反省として、子どもの実態のとらえ方も教師サイドの頭の中で考えたものでなく、あくまで子どもサイドの意識調査を中核にすえていくことになった。

子どもたちの生々しい声に耳を傾け、その中から、子どもにとってほんとうに望ましい委員会活動というものは、どのようなものでなくてはならないのか。ひとりひとり生かすためにはどのような配慮が望ましいのかということの究明に取り組んでいくことにした。

2. 委員会活動への児童の参加意識

(1) 意識調査のねらい

従来の研究においては、とかく教師の推測や独断が少なからず入り込んでいたように思う。そこで、今回の研究では、委員会活動に参加する子どもたちに直接問いかけ、日常の活動で子どもたちが、どう思い、どう感じているか、6つの観点から質問して、その実態を明らかにしようと試みた。

そして、その分析の結果から、ひとりひとりを生かす委員会活動にするための手がかりを得ようと考えたのである。

<調査内容項目設定の考え方>

望ましい集団活動が行われるための要因と考えられるものを6つの観点にしぼって設問項目を設定した。

① 活動の目標(A)

一つの集団が共同の目標を持って活動しているかどうかということは、その集団の士気にかかわることであり、その中で活動する子どもたちの生きがいに関係してくる重要なことであると考えた。

② 活動の内容(B)

はっきりした活動の内容がおさえられているかどうかということは、子どもたちが集団活動を好きになるかどうかの重要な決め手の一つであると考えた。自発的な活動が可能になるのは自分が何をなすべきなのか明確に知っていなければならないものと考えたからである。

③ 活動の組織〔人間関係〕(C)

目標や内容がわかっているとしても、それを実践活動に移すための組織が望ましいものでなければ円滑な運営は望めない。そのためには、協力的な仲間関係が必要であり、そのような仲間なら当然、名まえを知っているのが普通であろう。名まえも知らないような関係では望ましい集団活動など、望むべくもないであろうと考えた。

④ 指導者〔教師・仲間のリーダー〕(D)

集団活動では、必然的にリーダーについての問題を考えなくてはならない。委員会活動においては、担当教師がヘッドシップをそなえたりリーダーであると考えられる。このリーダーが専制的なリーダーであるか、放任的なリーダーであるか、民主的なリーダーであるかによって、その集団の活動の様子は大きな影響を受けざるをえないと思う。

専制的なリーダーにおいては、委員会の仕事ははかどり、一見、活動が活発で望ましい状態であるとみられるが、子どもたちの意見はあまりとり入れられず、不満が増大し、ひいては、自主性や創造性の芽が育たないことになってしまうだろう。このような活動では、ひとりひとりを生かす委員会活動にはなり得ないだろうと考える。また、放任的なリーダーでは、子どもたちは、何をどのようにやったらよいのかわからず不満が増大し、やがては士気の低下をきたし、活動意欲をなくしてしまうことだろう。

民主的なリーダーは、両者の中間的な立場をとり、もっとも望ましい集団活動が行われ、結果的に、ひとりひとりを生かす活動が可能になるものと考えた。

これらのことは、担当教師ばかりでなく、仲間の中から選出した、委員長や副委員長についてもいえることである。したがって、委員会活動においては、この両者のリーダーがどのような実態にあるのかを、知る必要があると考えたのである。

⑤ 活動時間の取り方(E)

最近の子どもたちは、非常に忙しい一日の生活を送っている。そのため、放課後に残って委員会活動をしたり、休み時間に仕事をするをあまり好まないであろうという前提に立って設問をつくってみた。ゆとりある教育課程の改訂がさげばれているときでもあり、今後の委員会活動の時間設定の重要な決め手の一つでもあると考えた。

⑥ 興味・関心・満足感(F)

ひとりひとりを生かす委員会活動にしていくためには、子どもたちが、どのような仕事の種類や内容のときに、すきであり、きらいであるのか、また、委員会活動をしているどんなことに楽しさを感じるのか。どんな仕事や内容のときに満足感を持つのかなどについて、知りたいと考えた。

それから、ひとりひとりを生かすためには、ひとりひとりの活動を認め、承認する場を設けてやることの必要性がいわれているが、子どもたちは、どの程度、それを望んでいるのか明らかにしたいと考えた。

以上述べてきた6つの観点を13の設問項目に分けて実態をさぐろうとしたわけであるが、必ずしも充分であるとは思えない。それゆえ、最後の14項目に、委員会活動に関して自由に意見や感想を書いてもらうことにより、この調査項目の不備を補なおうとつとめたつもりである。

(2) 意識調査(その1)

A…目標, B…内容, C…組織, D…指導者

児童への 設問項目		学校名ナンバー	①	②	③	④	⑤	⑥
		学校規模	A	A	A	A	A	A
		調査人員	79	76	78	69	81	75
1 A あなたの委員会は, どんなことを めあてにして活動すればいいのかわ っていますか。	はい	55	51	52	35	46	29	
	いいえ	24	25	26	39	35	46	
2 B あなたのやる仕事は何か, はっき りきまっていますか。	はい	47	55	64	60	62	48	
	いいえ	27	21	14	9	19	27	
3 C あなたの委員会の友だちは, みん な協力的なよい友だちだと思ってい ますか。	はい	28	42	27	23	15	32	
	いいえ	4	21	14	8	3	11	
	わからない	45	11	37	37	63	32	
4 C あなたの委員会の友だちの名まえ をどれだけ知っていますか。	全部	7	16	5	3	7	1	
	半分くらい	30	44	31	40	38	43	
	少し	27	16	21	26	36	28	
	知らない	4	0	1	0	0	3	
5 D あなたの 委員会の受持 ちの先生につ いて, あては まるものがあ ったら, いく つでもいいで すから○をつ けなさい。	もっとさしずしてほしい。	12	8	14	9	12	9	
	もっとまかせてやらせてほしい。	4	10	4	7	11	9	
	もっと意見をとり入れてほしい。	3	11	4	10	20	17	
	気があわないのでやりにくい。	11	2	4	5	3	7	
	いまのままでよいと思っている。	56	58	61	53	49	53	
6 D あなたの 委員会の委員 長について, あてはまるも のがあったら いくつでもい いですから○ をつけなさい。	もっとさしずしてほしい。	30	30	26	11	18	24	
	もっとまかせてやらせてほしい。	2	8	4	4	9	6	
	もっと意見をとり入れてほしい。	17	23	16	16	25	16	
	気があわないのでやりにくい。	6	12	10	16	11	4	
	いまのままでよいと思っている。	42	32	40	34	39	35	
7 E あなたは 放課後に残っ て委員会の仕 事をやらなけ ればならない ときに, どう 思っています か。	よろこんでやっている。	24	30	24	15	6	17	
	いやだと思うがしょうがない。	13	7	13	20	23	13	
	じゅくなどに行くので困る。	3	7	3	2	0	7	
	できれば放課後以外にしてほしい。	38	31	28	26	47	37	
	そのほかのわけ。	4	5	10	8	5	1	

E...時間のとり方, F...満足感 ※学校規模 A25学級以上, B24~15学級, C14学級以下

⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	合 計	
A	A	A	B	B	B	B	B	B	B	C	人数	%
93	75	86	65	85	69	65	108	220	71	83	1,478	
49	44	69	53	60	46	50	77	143	49	21	929	63.5
31	31	15	12	21	23	15	30	77	22	61	533	36.5
33	58	70	51	53	49	59	73	116	62	66	1,026	70.8
43	17	13	14	32	20	6	35	102	9	15	423	29.2
31	33	53	31	31	16	34	52	67	15	27	557	37.7
10	18	13	11	9	22	10	23	92	17	18	304	20.6
39	24	18	23	42	31	21	32	85	39	37	616	41.7
2	8	10	26	13	10	39	19	38	5	50	259	18.1
29	48	47	28	49	35	21	62	136	50	26	757	53.1
50	19	26	11	20	24	5	21	46	16	7	399	27.9
0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	13	0.9
14	11	12	7	9	10	5	11	34	7	12	146	8.7
5	7	5	6	6	12	3	6	31	9	13	148	8.8
9	10	14	3	10	16	5	12	25	6	16	191	11.4
2	9	6	2	8	13	2	11	22	7	14	128	7.6
61	45	60	54	62	41	55	80	158	51	56	1,053	63.5
21	12	21	26	26	24	27	46	52	23	25	442	24.5
6	4	4	8	6	2	3	2	21	16	6	101	5.5
19	9	14	17	24	14	12	23	42	12	23	322	17.9
7	11	7	10	8	16	20	17	40	9	8	212	11.7
47	42	43	25	38	27	34	43	129	37	41	728	40.4
34	21	27	21	22	19	24	18	50	12	25	389	25.2
14	16	6	14	22	24	11	34	71	27	23	356	23.1
1	4	4	2	9	3	1	5	20	11	7	89	5.7
27	27	39	28	34	24	24	43	81	32	26	592	38.6
5	6	6	4	7	7	5	18	14	4	5	114	7.4

8F あなたは昼休みや10分休みに委員会の仕事をやらなければならないときどう思っていますか。	よろこんでやってる	28	39	36	12	12	32
	いやだがしょうがない	22	22	18	28	35	17
	できればやりたくない	20	16	26	26	34	26
9F あなたの仕事を友だちの前で、発表したり友だちにみとめてもらえる時間がほしいと思いますか。	はい	22	42	20	9	7	13
	いいえ	28	18	28	24	27	23
	わからない	30	16	30	36	47	39
10F あなたは、あなたの委員会の仕事に満足していますか。	はい	63	54	59	58	48	57
	いいえ	15	22	19	11	33	18
11F あなたの受け持っている仕事の中で、好きな仕事はなんですか。 あなたの受け持っている仕事の中で、きらいな仕事はなんですか。							
12F あなたの委員会にはいって「楽しかった」「よかった」と思ったことはなんですか。							
13F あなたの委員会にはいって「つまらなかった」「いやだ」と思ったことはなんですか。							
14F あなたの委員会についての意見や感想を、自由に書いてください。							

☆ 具体的な12委員会の例(11F, 12F, 13F, 14Fの回答より)

① 集会委員会

② 飼育委員会

11F すきな仕事	11F きらいな仕事	すきな仕事	きらいな仕事
○司会 ○飾りつけ ○台上での発表 ○一年生の世話 ○アンケート調べ △指図がうれしい	・司会 ・コント ・人の前での話し ・低学年の世話 ・各委員会との連絡 ・放課後の話し合い	○動物の世話 ○餌づくり・餌あげ ○巣箱づくり ○動物と遊ぶ ・小屋掃除	・小屋の掃除 ・糞の始末をする ※朝早くて帰り遅い ・手が汚れる ※夏・冬休みの当番
12F ○みんなに役だち喜んでくれる。 ○「よくやった」と言ってくれた時。 △みんなの前でしゃべれる。		12F ○なついた動物は、かわいい。 ○小鳥と話をしている気分になれた時。 ○チャボの子がうまれた。△卵をもらった。	
13F ・集会が失敗した時、さぼる人がいる。 ・残りの仕事がある。臨時に集まる。 ※委員長がいばり、意見を取り入れない。		13F ・チャボやうさぎが死んだ時。 ・汚れたところの掃除。※休みの当番。 ※黒うさぎが死んで、ぼくのせいにされた。	
14F ○先生にたよらないで、自分たちでやってみたい。○もう一度入りたい。		14F ○見ていると簡単だけれども、やってみると…… ※網戸・小屋を修理して。	

39	21	41	27	24	16	35	16	86	18	28	510	36.2
23	29	19	21	25	32	12	37	66	21	21	448	31.8
17	20	20	17	31	23	18	49	57	30	34	451	32.0
27	21	17	24	17	12	22	25	42	23	18	371	18.4
18	24	39	14	30	23	17	61	68	22	16	1,028	51.1
34	28	24	27	38	34	26	21	108	26	49	613	30.5
68	38	64	50	56	47	53	85	147	45	58	1,062	73.0
11	37	17	15	26	22	12	15	70	26	24	393	27.0

☆ 集計上の配慮事項

- ① アンケートの中から、頻度数の多いものと、特色のあるものを、重複しないようにまとめた。② 子どもの生の声を、そのまま記述するように心がけた。③ 例示の左につけてある記号の見方は、下記の通りである。

- ……主として子どもの考え方や活動が望ましいと思われるもの
 △……主として子どもの考え方や活動に問題があると思われるもの
 ※……主として教師側に問題があるもの ・……その他

③ 栽培(園芸)委員会

すきな仕事	きらいな仕事
○種まき ○水まき ○球根の植えつけ △ ○草とり ○耕し △用具の整とん	・雑草とり ・朝・冬の水まき ・植木を運ぶ ・耕し ※肥料をまく △
12F ○花が、りっぱに咲いた時。 ○いっしょにくふうし、育て方がわかった時。 ○花をクラスにわけて歩いた時。	
13F ○球根や花をふみつける人がいる。 ・植えるのをまちがえた時。分担が不公平 △力仕事や草とり、肥料のにおい。	
14F ○空いている花だんに花を ○花が、ちゃんと育ってよかった。	

④ 放送委員会

すきな仕事	きらいな仕事
○アナウンス ○放送の機器操作 ○レコード選び ・朝会時の準備 ※電話の呼びだし	・朝・休み・昼・放 課後の放送 ※マイクなどの準備 ・インタビュー △放送ノート
12F ○レコード、テープをきめる時。 ○不安だが、放送が無事終了した時。 △学校の中心になって活動ができる。	
13F ・仕事が、どうしてもものびる。 ※ ※先生に叱られた時、委員長に積極性なし。 ※塾がある時。 ※女ばかり掃除。 △	
14F ※型をやぶりたい。 ※マイクもつと。 △念願の委員会に入ってもらいたい。	

⑤ 新聞(広報)委員会

すきな仕事	きらいな仕事
○記事集め	・記事集めと調べる
○ガリ版刷り	・話をまとめる
○思ったことを書く	・記事を書く
○企画相談	・仕事が少ない
○新聞配り	※指図される
12F ○自分の記事が、好評だった時 ○みんなが楽しく読んでくれる ○期限まで、間にあった。○5・6年協力	
13F ・発行回数少ない ・話し合い長い ・女子だれもいない ・個性発揮できない ・記事にのせてくれない △六年がぶつ	
14F ○もっと早く発行したい ※委員長はもっと、しっかり指図をして	

⑥ 保健委員会

すきな仕事	きらいな仕事
○下級生のめんどう	※石けん配り
○統計グラフづくり	※日計表集め
※石けん配り	※トイレの紙配り
※けがの手当て	※ふとんたたみ
※トイレの紙配り	△カード・調査日誌
12F ○「ありがとう」といってくれる ○世話の仕方がわかる △委員長になった ※薬の使い方がわかる	
13F ※話し合いが不まじめ、うるさい △委員長がばかにした ※仕事のない時 △手当てをやらせてもらえない	
14F ※男の子も、もっと入ってほしい ※手当ての用具をもっとふやしてほしい	

⑦ 図書委員会

すきな仕事	きらいな仕事
○本の貸し出し	・本の貸し出し
○本の整理	・図書の整理・修理
○ポスター	・※図書当番, 記録
○日誌つけ	△読書調査
○本の紹介や発表	※朝早い登校
12F ・図書カードの分類法をおぼえた ○六年生、ていねいに教えてくれた △いつでも借りられる ・本が読める	
13F ※退屈な本の貸し出しと残り当番 ○放課後の見まわりと整理 △同じ組の男の子にいじめられた	
14F ○みんな、もっと本を借りてほしい ※明るい委員会でなくておもしろくない △	

⑧ 掲示委員会

すきな仕事	きらいな仕事
○ポスターづくり	・ポスター書き
○掲示物のはりかえ	※早く終る
○掲示物のとりはずし	△話し合い
○はること	
12F ○委員長が、はっきりしている ○運動会の飾りつけ ※おしゃべりできる △ポスターを一番初めに見られる	
13F ※集まりが悪い ※話し合いが多い ○ポスターではない仕事をしてみたい ※もっと、にぎやかにやりたい, 大仕事を △	
14F ○はり出すものの工夫と量の増加を ※厳しさたりず, もたもたした宣伝活動	

⑨ 給食委員会

すきな仕事	きれいな仕事
○目標カレンダー ※献立表 ※食器の整理整頓 ※他人に注意する △残量調査	・日誌を書く ・ポスター色ぬり ※牛乳入れ物洗い ※カウンター調べ ※残菜まとめ・調査
12F ○主事さんたちが、「助かった」 「よくやってくれた」と言ってくれた時。 ○給食台をきれいにした。△調査をする時。	
13F ○仕事をしない不まじめな人がいる。 ※他の委員会がうらやましい。※残量調査。 ※休み時間に遊べない。※注意を聞かない。	
14F ※給食のおばさんの手伝いうれしい。 ※先生の案ではなくて、ぼくたちの案で…。	

⑪ 美化(整美)委員会

すきな仕事	きれいな仕事
○ポスターづくり ※掃除箱の整理整頓 ※ロッカーなど点検 ※窓ふき ※傘たての整とん	※掃除用具の補給 ・流しの掃除 ※掃除道具の点検 ※校内見回り ※窓ふき
12F ○学校が少しでもきれいになり…。 ○下級生がなついてくれた。先生の注意。 △自分の書いたポスターをはってくれた。	
13F ○仕事がつらい △楽な仕事ばかり。 ※掃除用具配り。 ※放課後の見回り。 ・話し合いが、はかどらない。	
14F ○仕事はつらいが、がんばりたい。 ○つまらない時もあったが、役だって…。	

⑩ 体育委員会

すきな仕事	きれいな仕事
○ボールの空気入れ ○ボールの貸し出し ※体育倉庫の鍵あけ ※ラインカー掃除 ※石灰を入れる仕事	・ボール・なわとび などのかたづけ ・砂場の整理 ※体育倉庫の鍵開閉 ※体育倉庫の清掃
12F ○男子に、まじめな人がいる。 ○先生がおもしろい。○友だちが手伝う。 △先生が来るまでに、ふざけられる。	
13F ※同じ入ばかり働かし、他の人は…。 ※ラインカーの掃除。 ※体育館・体育倉庫の掃除とかたづけ。	
14F ※放課後、集めないでほしい。 ※野球をやらせてくれた。これからレクを。	

⑫ 生活(安全)委員会

すきな仕事	きれいな仕事
○遊び道具の後始末 ※児童用自転車点検 ○ポスターづくり △雨天昇降口清掃 △月目標の色ぬり	・ごみ・石拾い ※昇降口清掃 ※バッチ 下駄箱 ※傘たてなどの点検 ※おとしもの後始末
12F ○先生に「ごくろうさま」と言われ ※おとしものが少なくなってきた。 ○一年生の面倒 △校舎見回り・点検	
13F ※委員長とうまくいかない。怒る。 ※注意をしても聞かない。文句を言う。 △同じクラスの人がない。	
14F ※仕事をもっと! ※仕事を少なく。 ・一年中、一年生の世話がしたい。	

(3) 意識調査(その2) (A区, B校)

委員会活動は、学校という集団の中で行われる。教師としては、自分の学校で児童の調査をする必要があるのではないか。その調査結果をもとに全教師で、委員会活動は、本物になっていくのではないかと。ここに、B校の5・6年を対象

	質	問	回
目標	1.	あなたの委員会は、どんなことを、めあてに活動すればいいのか知っていますか。	
内容	2.	あなたのやる仕事は何か、はっきりきまっていますか。	
組織人間関係	3.	あなたの委員会の友だちは、みんな協力的な、よい友だちと思っていますか。	
	4.	あなたの委員会の友だちのなまえを、どれだけ知っていますか。	
指導者	5.	あなたの受け持ちの先生について、あてはまるものがあつたら、いくつでも○をつけてください。	<input type="radio"/> もっとさしずして仕事を <input type="radio"/> もっとまかせてやらせて <input type="radio"/> もっと意見を取り入れて <input type="radio"/> 気が合わないので、やり <input type="radio"/> いまのままでよいと思っ
	6.	あなたの委員会の委員長について、あてはまるものがあつたら、いくつでも○をつけてください。	<input type="radio"/> もっとさしずして仕事を <input type="radio"/> もっとまかせてやらせて <input type="radio"/> もっと意見を取り入れて <input type="radio"/> 気が合わないので、やり <input type="radio"/> いまのままでよいと思っ
活動の時間	7.	あなたは、放課後に残って委員会の仕事をやらなければならないときに、どう思いますか。	<input type="radio"/> よろこんでやっている。 <input type="radio"/> いやだと思うが、しょう <input type="radio"/> じゅくなどに行くのにま <input type="radio"/> できれば放課後でない
	8.	あなたは、昼休みや10分休みのときに委員会の仕事をやらなければならないとき、どう思っていますか。	<input type="radio"/> よろこんでやっている。 <input type="radio"/> いやだと思うが、しょう <input type="radio"/> できればやりたくない。
興味・満足度・関心	9.	あなたの仕事を友だちの前で発表したり友だちにみとめてもらえる時がほしいと思いませんか。	
	10.	自分の委員会に満足していますか。	

児童の実態を正確につかみ、児童は何を考え、何を求めているか、自分の学校において「本校における委員会活動」についての真剣な話し合いがもたれたとき、その学校の調査した結果を示す。

答	飼育	栽培	新聞	保健	放送	集会	図書
○ はい	19	19	15	9	14	13	12
○ いいえ	7	7	9	14	10	11	11
○ はい	17	18	17	15	10	14	9
○ いいえ	9	7	7	7	14	13	13
○ はい	8	8	8	3	13	11	4
○ いいえ	11	7	4	10	6	9	7
○ わからない	6	11	12	10	4	6	12
○ 全部	5	0	3	4	3	13	2
○ 半分くらい	13	21	18	12	16	10	13
○ 少し	8	5	2	7	4	2	8
○ ぜんぜん知らない。	0	0	0	0	0	0	0
すすめてほしい。	2	4	1	3	2	3	5
ほしい。	4	0	3	2	4	8	7
やってほしい。	6	0	0	0	3	4	6
にくい。	3	0	1	3	5	2	4
ている。	20	23	20	17	23	17	6
すすめてほしい。	9	5	9	1	4	6	6
ほしい。	2	1	2	2	1	4	5
やってほしい。	6	2	7	1	2	7	5
にくい。	4	1	3	4	4	9	3
ている。	13	18	15	16	20	11	11
がないのでやっている。	7	8	3	5	11	8	3
にあわないので帰りたくなる。	8	6	9	10	4	7	10
きに委員会の時間をつくってほしい。	2	1	2	2	3	2	2
	6	10	9	4	8	12	8
がないのでやっている。	8	15	8	12	15	11	6
	5	9	7	8	6	7	6
	7	1	8	3	4	9	9
○ はい	1	3	7	2	5	5	5
○ いいえ	7	9	7	9	9	9	5
○ わからない	16	15	9	12	11	12	11
○ はい	19	19	18	18	20	15	8
○ いいえ	5	7	5	5	5	9	14

	質 問	飼 育	裁 培	新 聞
興 味	11. あなたの受けている仕事の中で好きな仕事	○やさしい切り 6	○たねを植えたり球根を植えたり、ぬいたりする仕事 11	○記事の取材 11
		○えさをあげること 6	○水まき 11	○新聞づくり 4
		○そうじ 5	○ポスターづくり 1	○マンガ・クイズ 2
				○書記の仕事 2
	きらいな仕事	○そうじ 6	○ざっ草とり	○取材するとき 3
		○ふんのしまつ 6	○水まき	○新聞を書くこと 1
		○冬、水で洗うこと 4	○球根の植えかえ	
		○みみずとり 1		
関 心	12. あなたの委員会にはいって、「楽しかった」「よかった」と思ったことはなんですか。	○動物といっしょに遊んだとき 7	○外に出て土をたがやしたり球根を植えたりすること 5	○協力して新聞を作った 7
		○班がえしたとき 2	○6年生と友だちになったこと 2	○新聞コンクールの仕事 4
		○6年生と友だちになったこと 2	○ポスターづくり 2	○新聞を読んでもらって 2
		○みんながきてくれたとき 1	○植物のことがわかったこと 1	○グループの人と気が合 2
		○たまごをもらったとき 1		って 2
満 足	13. あなたの委員会にはいって、「つまらなかった」「いやだ」と思ったことはなんですか。	○寒いときの水洗い 2	○話し合い 4	○班の中での仕事 4
		○自分一人しか来なかったとき 2	○水あげの仕事 3	○の分担・協力の不満 4
		○リーダーがしっかりしない 2	○ざっ草とり 2	○放課後の仕事 2
		○朝が早い 1	○球根うえ 1	○新聞コンクールのしんさ 2
		○そうじ 1	○友だちがいや 1	
		○班を変えたとき 1		
		○無責任な人がいる 1		
度	14. あなたの委員会について意見や感想を自由に書いてください。	○委員長が話をまとめてほしい 1	○もっと花や花だんをふやしてほしい 3	○期日に遅れないように発行したい 2
		○動物をふやしてほしい 1	○球根うえが楽しい 2	○グループをかえてほしい 2
		○あみ戸のこわれをなおしてほしい 1	○日記のことを話してほしい 2	○もっと多く発行したい 1
		○話し合いに参加してほしい 1	○仕事をふやしてほしい 1	○新聞コンクール以外のこともやりたい 1
		○うるさい人がいる 1	○もっと協力したい 1	○かたぐるしい 1
			○話し合いに参加してほしい 1	

<考 察> ○ 7委員会平均で40%程の児童が自分の委員会の目標をとらえていないことは遺憾であるが
○ 同じく40%強の児童が自分の仕事が、はっきりしていないということは、なしとげようと
○ 定例月1回の委員会活動では、友だちとの心のふれ合い、教師との心のふれ合いはなかなか
○ 指導教師への不満よりも、委員長に対するものの方がかなり多い。これは、委員長に対する

保 健	放 送	集 会	図 録 査 閲 (書
<ul style="list-style-type: none"> ○出欠カードのまとめ 7 ○せっけんくばり 6 ○けがのせわ 6 ○ポスターかき 2 ○ほとんど全部 1 	<ul style="list-style-type: none"> ○昼の放送 14 ○きかいのそうじ 8 ○レコードえらび 1 ○原案づくり 1 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童朝会の司会 9 ○係など仕事の実行 5 ○全部すき 4 ○低学年のめんどう 2 ○学校行事への参加 1 	<ul style="list-style-type: none"> ○本のせいり 13 ○本の貸し出し 4 ○本の修ぜん 4 ○ポスターかき 4 ○書記のしごと 1
<ul style="list-style-type: none"> ○せっけんくばり 6 ○ポスターかき 1 ○出欠カードのまとめ 1 	<ul style="list-style-type: none"> ○放課後遅くまでの仕事 5 ○アナウンス 3 ○レコードさがし 2 ○15分休みの放送 2 ○黒板の書記 1 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童朝会の司会 10 ○低学年のせわ 2 ○放課後の話し合い 1 	<ul style="list-style-type: none"> ○本の修ぜん 7 ○本のせいり 6 ○本の貸し出し 2 ○貸し出し以外の仕事 2 ○ポスターかき 1
<ul style="list-style-type: none"> ○ポスターかき 3 ○けがのせわ 3 ○運動会の係 1 ○ポスターかはられて 1 ○委員長になったこと 1 	<ul style="list-style-type: none"> ○アナウンスができて 5 ○きかいがそうさできて 5 ○他学年の友だちができて 3 ○班がまとまって協力した 2 ○行事に係として参加 1 ○放送をきいてもらって 1 ○ほめられて 1 	<ul style="list-style-type: none"> ○朝礼台の上でしゃべった時 5 ○学校行事の係 4 ○自分の考えを生かして 2 ○意見が言えた 1 ○友だちができて 1 ○みんなといっしょに 1 ○行動したこと 1 	<ul style="list-style-type: none"> ○ポスターづくり 4 ○本のせいりせいとん 3 ○感想文コンクール 1 ○本をたくさん読めた 1 ○本がたくさんあることを知った 1 ○協力してできた 1
<ul style="list-style-type: none"> ○ポスターかき 4 ○友だち関係 2 ○話し合い 2 ○放課後の仕事 1 	<ul style="list-style-type: none"> ○放課後遊べない 3 ○放課後一人のとき 1 ○機械の調子の悪いとき 1 ○学級めぐり 1 ○発言がないとき 1 ○委員長の進行のまずさ 1 ○批判された 1 ○先生が勝手にきめた 1 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童朝会の失敗 3 ○話し合いのとき 2 ○おこられたとき 2 ○話し合いの長びき 1 ○計画がたっていないとき 1 ○委員長の言うことをきかないとき 1 	<ul style="list-style-type: none"> ○仕事、活動が少ない 3 ○意見を認めてくれなかった 3 ○ふざけ半分の話し合い 2 ○感想文をえらぶとき 2
<ul style="list-style-type: none"> ○委員長しっかり！ 2 ○もっと仕事がしたい 1 ○計画どおり実行したい 1 ○たのしくやりたい 1 ○ポスターかき以外の仕事がしたい 1 ○今のままでじゅうぶんだ！ 1 	<ul style="list-style-type: none"> ○ちがうレコード、テープをかけたい 3 ○いろいろ計画を 2 ○きかいの調子をよく 1 ○2週間続けて放送したい 1 ○レコードが見つからない 1 ○委員長はてきばきと 1 ○さすとき、考える時間を 1 	<ul style="list-style-type: none"> ○委員長はまじめに、じょうずにやってほしい 8 ○委員長はみんなの意見をきいて実行！ 3 ○話し合いに参加しよう 2 ○たのしい 2 ○5年生はもっとしっかり 1 ○終了時刻を守ってほしい 1 	<ul style="list-style-type: none"> ○修理、せいりばかりでなく、ほかのことも取り入れてやってほしい 3 ○5年生しっかり 3 ○もっと本をふやして 2 ○まじめに静かに 2 ○貸し出し2冊に 1 ○たのしく協力したい 1

教師は委員会活動のねらいや本質にどのくらい精通しているだろうか。

する意欲、ひいては委員会活動への参加意欲がなくなるのではないか。

得られないのではないか。(質問3・4より)

指導不足、委員全体に対する指導不足もあるのではないか。

(4) 調査結果からの考察

都内17校の5・6年生、1,478名の委員会活動についての意識調査の結果をまとめるとP.10～P.15のようになる。また、B校の詳細な結果もP.16～P.19に紹介されている。これらの集計結果をもとに、ここでは調査のねらいに照らしての考察を試みたい。

① 活動目標が明確にとらえられていない

約3.7%もの児童が目標がわからないと答えている。このことは教師自身が目標を明確にとらえていないという反省につながる。活動の大前提として目標を具体的にはっきりとおさえるための、教師の共通理解がたいせつである。

② 役割分担がはっきりしていない

約30%がやる仕事ははっきりきまっていないと答えている。役割分担がはっきりしなければ、活動の見通しも立たない。活動時間のとり方と合わせて効率的な役割分担を考えていかなければならない。

③ 協力的な活動が育っていない

協力的でないと答えている者、約21%、わからないの答が約42%、また、委員会の中の友だちの名まえをほとんど知らない者が、実に30%近くもいる。

このことは、協力的な活動を通してのよりよい人間関係が育っていないということになる。学級別の機械的な分担ではなく、十分に話し合っつくれたたてわりの組織によって協力的活動をおし進めるくふうがたいせつである。

④ 指導教師への要求が多い

「もっと委せて」「もっと意見を取り入れて」の合計が約20%、その他を合わせると実に3分の1以上の者が、何らかの要求をもっている。その他に自由記述では、施設・設備や器具等についての要求も見られる。

自治的・自発的に活動できる望ましい場を設定する努力が、教師側に足りないということがうきほりにされている。

⑤ リーダーへの不満が多い

委員長への不満を合わせると約60%、3分の2以上の者がリーダーに満足していない。

これは、活動の計画、実施、反省というサイクルの中での話し合いが充分に行われていないということにもつながるのではないかと考えられる。

分担活動を行っていく中で、リーダーの望ましい素質を養っていくと共に、よきフォローを育てていく努力も指導教師の大きな課題である。

⑥ 活動時間に対する不満が多い

放課後に仕事をしたくないという者が約44%、休み時間の仕事は、できればやりたくないとする者が32%もいる。その他に、いやだと思いがしょうがないという答も多い。

委員会活動の時間の取り方はどの学校でも苦勞しているのが現状であるが、ゆとりのある教育課程を指向する中で配慮すべきたいせつな事がらであると思われる。

また、設問10の仕事の満足度と関連して、仕事に対しての成就感・使命感を高める配慮も忘れてはならないことであろう。

設問11から14までの自由記述の内容についても考察では一応触れたが、記入例のおもなものについて、紙面の都合で集計結果の欄にのせられなかったので、資料としてまとめたしておく。

〔資料〕 自由記述の記入例(おもなもの)

すきな仕事	きらいな仕事	
<ul style="list-style-type: none"> ○仕事への興味関心 例・器具がいじれる ○仕事への役割自覚 例・けがの手当て ○仕事を通した心情 例・せわがができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○仕事が単純 例・石けん配り ○仕事の後始末 例・記録, 反省会 ○仕事と人間関係 例・逆らう, いばる 	<p>「つまらない」「いやだ」と思ったこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人, 仕事, 時間への不満 例・先生がいない, リーダーがいばる 仕事の量が多い, 汚れる仕事はいやだ 休み時間には遊びたい, 夏休みの仕事はいやだ, 塾があるので帰りたい。 ○悲しいこと 例・動物が死んだ, 花が枯れた
<p>「楽しかった」「よかった」と思う時</p> <ul style="list-style-type: none"> 例・ほめられた, がんばった, わかった わかってくれた, 生まれた, うれしい 楽だ, 自分が活躍できる 		<p>意見や感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ○反省, 要求, 要望 例, みんながまとまっている時がよかった。 もっと大きな仕事をやらせてほしい。 もっとしっかり教えて, 指図して。 自由な考えやアイデアを生かして。 マイクやプレイヤーの量が少ない。

3. 活動の現状

(1) 栽培委員会の活動事例 (C区D校)

① 活動のめあて

① 学校内の花だんや鉢栽培を分担して行い、学校環境の美化に進んで取り組む。

② おもな活動内容と役割分担

5・6年生の8学級から希望により入部した児童は合計36名。担当教師は2名である。

前年度までは、教師の指導性が強く、子どもたちの自発的活動が少なかった点が反省され2人ずつのグループで花だんと数個の鉢を分担し、それぞれが年間の栽培計画を立て、全体の話し合いで予算に合わせて調整を行い、活動を進めていくことになった。

③ 活動時間のとり方

学期の始めと終わりは1単位時間の会議活動の時間を確保。それ以後は、毎週月曜日の放課後に割当てされた教室に集まり、簡単な打ち合わせをすることになっている。この時間帯には教師側の行事を組まないように配慮している。それ以外の活動は、休憩時、放課後等を当てている。

④ 活動の実際

教師指導の活動のときは、消極的で熱意を示さなかった児童も、自分の責任分担が明確にされ、栽培計画も委されると、極めて意欲的になる。分担を明示する氏名札も古材を利用して、それぞれがくふうして作成した。毎朝登校すると必ず自分の分担場所をのぞき水をやる。打ち合わせ会では、育て方についての質問も出るようになり、熱心な者は図書室へ行って調べようになった。

10月の打ち合わせ会で5年生から「自分たちの育てた花で卒業式場を飾りたい」の提案が行われ、その計画は職員室でも受け入れられた。水仙やチューリップなどの鉢を卒業式の日に合わせてうまく咲かせる苦勞が始まった。2月末にはフレームから出し、5年以下の各教室へ配りみんなの力で育ててもらうことになった。苦勞してみごとに開花した鉢は、卒業式場を飾り、そのいきさつが紹介されると、参会者の感動をよんだ。

⑤ 問題点と考察

この活動事例を通して、活動のねらいと分担を明確にしていくことが、活動意識を育てるのにいかに大切であるかがよくわかった。このような活動を育てる教師の姿勢と予算上の配慮が重要な課題であろう。

(2) 広報委員会の活動事例 (E区F校) (対話型) 指導者の会員委員等 (C)

- ① 活動のめあて
- ア. メンバーの自発的活動や創意が活発にできるようにする。
 - イ. メンバーの各自が全校的な視野にたって学校の生活事象がとらえられるようにする。
 - ウ. 新聞を発行することによって、学校生活を楽しくしようとする意欲と自覚をもって活動できるようにする。

② 活動組織とおもな活動内容

委員会は5年生以上の児童で構成している。各学級から2～3名、児童の希望、また各学級での話し合いによる選出といった方法で決められる。各委員会の経験をできるだけ多くもたせるため、年二期とし交代制をとっている。

12名という小人数なので、あまり細かい組織にせず、委員長、副委員長、書記を互選し他は分担し合って活動している。

活動内容は①編集方針の話し合い、②記事の種類、内容、執筆者について、③収集した記事の検討、④紙面の割り当て、⑤記事書き、⑥できあがった新聞の検討、⑦PR。

③ 活動時間

活動時間は月一回、月曜日の第六・七校時を割りあてている。

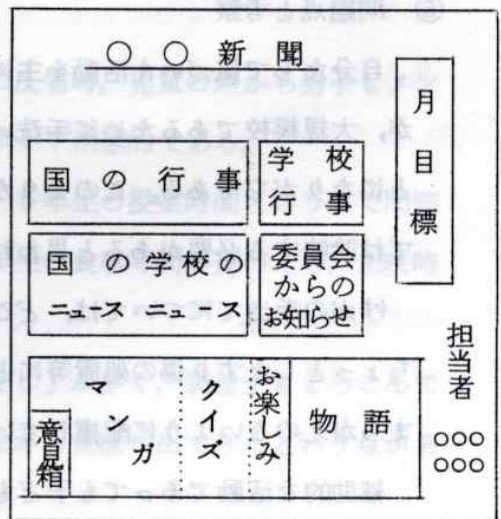
④ 活動の実際

(ア) 掲示新聞～月一回発行。印刷新聞～月二回発行。

(イ) 活動の計画

担当 内容	4月	5月	6月	7月	反省
学校行事	市川 山田	中山 保泉	※ 掲 示 の 担 当 表 は 担 当 の 部 屋 に	※ 者 前 月 ご と か 反 対 し て を 当 て る 。月 の 変 わ る 。担 当	※ 集 新 会 聞 で の 行 っ て は 土 曜 日 の 児 童
国の行事	佐藤 田中	○ 山田			
委員会のお知らせ	山田 吉田	佐藤 田中			
ニュース	松本 甘利	山田 吉田			
物語	鈴木 谷沢	松本 甘利			
クイズ	中山	鈴木			
マンガ	保泉	谷沢			

掲 示 新 聞



⑤ 問題点と考察

随時随所で行なう常時活動が多いので、その時間のとり方が問題である。現在は児童自身の活動に委せているが、学校として配慮していきたい。

(3) 保健委員会の活動事例 (G区H校)

① 活動のめあて

① 学校全体の児童が、より健康で明るく清潔な生活ができるように、自分たちで気づいた仕事に取り組みさせる。

② おもな活動内容と役割分担

- 保健に関するポスターづくり
- 歯の治療状況のグラフづくり
- けがの集計グラフづくり
- けがの手当ての補助、個人票の記録
- 石けん配りなど。
- 役割分担……5・6年10学級より各3名、合計30名が6班に分かれ、毎日5名ずつ交代で、保健室の日直となり、せわをする。

③ 活動時間のとり方

毎週金曜日の第6校時が会議活動の時間で、保健室に委員全員が集まり話し合いにより、計画を立てたり反省をする。それ以外は常時活動として行う。

④ 活動の実態

保健室の日直は、中休み、昼休み、放課後に保健室でけがの手当ての補助やせわをする。また、その時間帯の中で、話し合いにより分担したポスターやグラフの作成をする。

作成したポスターの掲示は日直が行う。グラフ等についての発表は、毎週実施される児童集会を利用して行い、その後、保健室前に掲示する。おがみ洗いなどの望ましい洗い方についても劇化して集会で発表する。石けん配りや手洗い場の見まわりは、日直が分担して実施する。

⑤ 問題点と考察

自分たちで気づいた活動を主に、補助的な活動を従にと考えて活動させるようにしているが、大規模校であるために手洗い場の数も多く、石けん配りなどは保健委員の手を借りることになりがちである。このような縁の下での力持ちな仕事を喜ぶ子も多いが、活動内容としては吟味する必要があると思われる。

けがの手当てについては、どこまで子どもたちに委せていいか問題になるところであるがちょっとしたすり傷の処置等にとどめるよう指導し、処置のしかたは保健室内に図示して、まちがえのないように配慮している。

補助的な活動であっても子どもたちは意欲的に取り組んでいるが、活動のねらいに即したものにするためには、教職員のより深い共通理解が必要と思われる。

(4) 給食委員会の活動事例 (I区J校)

① 活動のめあて <給食を楽しく食べるために、くふうしてみよう>

② 主な活動内容と役割分担

昨年までの活動内容をもとにして今年度の話し合いをし、次のようになった。

・一口ことば、給食スライド、紙芝居、目標カレンダー、運搬車手伝い、ポスター

・一口ことば — 毎週火金5グループで3人	・給食スライド 4・5月、6年が1年
・紙芝居 — 毎期に1回グループ別全員	・目標カレンダー 月の初め頃、全員で
・ポスター — 月の終わり頃全員で相談	・運搬車手伝い 月～金5年生1日6人

③ 活動時間のとり方

第一回委員会時の児童の意見として、定例委員会(月1回)は計画と反省(話し合い)、その他の準備、練習、資料集め等は休憩時や放課後を使うということになった。

④ 活動の実際 <楽しく開く一口ことば> (5分～10分)

火曜と金曜は、給食委員会からの「一口ことば」の発表の日となっている。放送室から生の声で、主にその日の献立の中から、肉、魚、くだもの、野菜等の名まえ、産地、栄養等を短くわかりやすく3分～5分で話す。最後に今の話の中からクイズを4問ぐらい出す。各教室では食べながらそれを聞き、最後のクイズを楽しみにしている。低学年あたりは、指名されないのがわかっていながら、「ハイ、ハイ」と手をあげる。担任が指名すると、よろこんで答え、正解が発表されると拍手して大喜びをしている。放送の最後は「みんな楽しく食べられましたか」と聞く。あわただしい一日の生活の中での、楽しいひとときである。

⑤ 問題点と考察

・2年前までは給食委員は女子のみだったが、50年度の反省時、児童の声から男子もメンバーに加わった。歴史が浅いためか、男子委員は活動がやや消極的である。

・1年生への給食スライドは、1年生からは喜ばれたが、6年生の授業時間という点で問題点があった。2回目からは、給食時を使用した。1年生の食事時間が長いので、上映時間が短くなるという難点が出てきた。

・上記の仕事以外に、残量調査をやった。昨年よりも「なし」が多く、調理士もよろこんでくれた。その成果の陰には、一口ことばで楽しく話しながら食欲が出てきたという点があるのだろうか。

◎とかく管理的、あるいは目標突進型になりがちな給食委員会もその運営のしかたによっては、児童の自発的・自治的な活動へと進められるのではないだろうかと考える。

4. ひとりひとりを生かす望ましい委員会活動をめざして

委員会活動に参加する児童の意識調査の結果については、20ページにおいて考察を試みているが、ここでは、その結果と実践事例の問題と考察をもとに、「望ましい条件」を導きだしたい。

(1) 目標をひとりひとりに明確につかませる

調査結果に見られる、目標を知らない児童が40%弱もいるという事実は何を物語るものであろうか。おそらく、十分な話し合いもなく教師やリーダーの指図によって何となく動いているなどのことが想像できる。新年度当初の話し合いで、「この委員会の活動目標は何なのか」明確におさえると共に、個人の活動記録カードなどに、きちんと記入させておく配慮が必要である。

委員会としての目標がしっかりつかめれば、そこからグループとしての、また個人としての活動目標を導きださせることも容易である。このようなきめの細かい指導を行う体制を年度当初に確立しておきたい。

(2) 活動内容や分担をはっきりする中で活動をくふうさせる

栽培委員会の実践事例でも述べているように、活動内容と分担をはっきりさせれば、いろいろとくふうをこらして長期的見通しをもって活動を行っていく。そこから成しとげた喜び・満足感も生まれ、それが、より高い次の活動目標へと発展していくのである。

活動内容の中には、止むを得ず委せている補助的活動も実際には存在するが、その中でくふうさせる手だてが特に必要である。給食委員会の実践事例は、その点で参考になるものと思える。

(3) 委員会のメンバーの人間関係をたいせつにする

委員会メンバーの名まえを知らない者が多いという事実は何と解釈したらよいであろうか。調査の時期が11月であったので、前・後期性をとっている学校では、まだまわりのメンバーを知らない者が多いということもある。また、分担が明確になっているために、同じグループ以外の者はよく知らないということもあると考えられる。しかし、調査結果にあるように協力的でない、協力的かどうかわからないとする者の合計が60%を越えているという点に注目したい。上級生がいばる、ぶつなどということもそれにかかわることであろう。人間関係が深まっていれば、そのようなことは起こり得ない。

指導者たる教師が、まず自分の指導のあり方が専制的であるか、放任であるか、ひとりひ

とりのよさを伸ばそうと努力しているかを厳しく反省することがたいせつである。ひとりひとりのよさを伸ばすということは、人間関係をよくしていかなければ成し得ないことであろうと考える。指導教師への要求が多いという厳しい現実の姿に照らして、特にこのことを深く反省しなければならない。

(4) リーダーの養成と教師の指導助言のあり方に配慮する

このことは、前項の人間関係改善のための努力にもかかわるたいせつなことである。民主的なリーダーを育てるためには、まず指導者自身が民主的で、円満な人格の持ち主でなければならない。指導すべきことはきちっと厳しく指導し、たとえ失敗があっても創造的、意欲的なものであれば、あたたかく励まし、認めてあげる教師、このような指導の中から、よきリーダーを育てていくものである。よきリーダーの育成と共に、よきフォロワー育てる配慮を忘れてはならない。

活動内容を指導する際には、他校の情報や資料を提供してやる配慮もたいせつである。

「このようにしなさい」ではなく、「こんな活動をしている学校もあるよ」「こんな場合には大体このような3通りの方法があるけど、どれを取り入れたらいいか」など、子ども自身に選択させる助言がなければ、自発的活動は育っていかないであろう。

(5) 活動時間を教育過程に位置づけてゆとりをもたせる

休み時間や放課後の活動を喜んでやっているのは、30%前後で、残りは「しかたがない」「いやだ」という反応を示している。

指導事例の中には、毎週1単位を6校時に位置づけている学校がある。また、7校時ではあるが、一斉に活動する時間を設けている学校もある。

それぞれの学校の実情に応じて、ゆとりのある活動時間を教育課程に位置づけることが望まれる。

6校時以内に位置づけるということは、時間割を週の窓口で見ないで、年間の総時間数から巨視的に見ていくことである。年間の授業時間数をきちんと計算し、各教科や領域の指導にわりふっていけば、余裕の時間が生じる。これを月または週にわりふって委員会活動の時間に充てることが可能になってくるのである。

(6) 活動への取り組みを認め励ます場を多くとる

活動状況が目立つ委員会への希望は多いが、あまり目立たない委員会への希望は少ない。

そこで、そのような委員会の活動を紹介する集会を設けたり、朝会で校長などから、縁の下力持ちになって活動している子どもを紹介してやるなどの配慮もたいせつである。

5. 研究の反省と今後の課題

(1) 研究の成果

都内の全域におよぶ区・郡・市の17校、1,478名の児童について、委員会活動についての生の声をとらえることができたのは、大きな成果である。今までは、ともすると教師側の頭の中で「望ましい委員会活動はかくべきである」と考えがちであったが、多くの子どもたちの声には、傾聴に値するものがより多くあることがよくわかった。

委員会活動への子ども意識という実態の上に立って、委員会活動の望ましいあり方を指向し、その観点を生み出すことができたことを大いなる喜びとしたい。

研究の過程において、各校の資料・情報の交換に努めたことも大きな意義であった。集録にまとめる努力の中で、実践上の悩みを話し合い、その解決策を話し合ってきたことが、参加者の各校での実践を高めるのに、とても役立ったとのうれしいニュースも多く聞かれた。

研究メンバー約20名が固定し、毎回のメンバーが入れかわって研究がはかどらないというような悩みも、今では昔の語りぐさと化してしまっている。

(2) 今後の課題

研究への取り組みの段階では、参加児童の意識調査から、「ひとりひとりを生かす委員会活動の望ましい条件」を設定し、その条件を観点にした授業研究による検証を試みようと考えた。しかし、調査内容を充実したものにして、その分析をより確かなものにすることに精力を注ぎ、「望ましい条件」の設定までに本年度はとどまった。

したがって、4つの委員会の活動事例は、授業研究としてのものではなく、まだまだ改善の余地があるものと考えている。

来年度は「ひとりひとりを生かす委員会活動の望ましい条件」をまた異った角度から検討して固め、それを基盤としたより確かな授業研究へと進んでいきたい。

(3) おわりに

都特活発足以来13年、毎年の成果を基盤にしなが、研究体制が強固なものになり、強力なメンバーが増え、内容が充実してきたことをうれしく思う。

終りにあたり、研究討議のために快く会場を提供して下さった各校の校長先生や先生方資料提供をして下さった先生方、時のたつのを忘れ遅くまで熱心に研究に参加して下さった先生方に心から感謝の念をささげたい。

1年間のささやかな研究の成果が、各校の実践に少しでも役立てば幸いである。

Ⅱ 学 級 会 活 動

テーマ 「ひとりひとりが意欲的にとりくむ学級会活動の指導」

－ 話し合い活動を活発にする手だて －

1. ま え が き	31
2. 話し合い活動を活発にする事前の手だてと指導	32
(1) 話し合い活動を活発にする事前の手だてと指導	32
(2) 話し合い活動を不活発にする要因	34
3. 授 業 研 究	35
<プレゼントやかざりを作ったのしいたん生会をしよう(2年)>	
(1) 学級の実態と今までの経過	35
(2) 実施計画の大要	35
(3) 話し合い活動の概要	36
(4) 話し合い活動を活発にするところみ	37
(5) 反省と考察	39
4. 実 践 事 例	40
(1) 議題ポストの作り方をくふうして(4年)	40
(2) 議長団の構成を考えて (6年)	42
(3) 学級会カードを持たせて (5年)	44
(4) 資料の提示をくふうして (3年)	46
(5) 会場の作り方に変化をもたせて (1年)	48
5. 研究の反省と今後の課題	50

○ 研究の経過

- 5 1. 6. 7 (月) 総会, 部会, 組織づくりと研究の進め方。
 5 1. 7. 1 (木) 学級会活動の現状, 当面する指導上の問題点の研究協議。
 5 1. 9.1 4 (火) 研究主題についての共通理解, 研究の深め方の研究協議。
 5 1.1 0.2 6 (火) 実践事例による研究。
 5 1.1 1.2 5 (木) 授業研究<プレゼントやかざりを作って楽しい誕生会をしよう>
 - 江東区立数矢小学校・2年・岩堀早苗教諭 -
 5 1.1 2. 9 (木) 授業の分析と研究協議。
 5 1.1 2.2 1 (火) 集録プロットの検討, 執筆者・発表者の決定。
 5 2. 1.2 0 (木) 原稿のまとめ, 内容の検討。
 5 2. 1.2 7 (木) 原稿のまとめ, 内容の検討。

研究・執筆者名簿

部長	笠井 光夫	板 橋・北 野 小	有村 久春	中 野・新 井 小
副部長 (発表者)	薩日内信一	港 ・木 村 小	井田 益彦	板 橋・大谷口小
" (司 会)	竹内 郁夫	北 ・赤羽台東小	野毛 久子	練 馬・光 和 小
" (司 会)	松元 美徳	千代田・今 川 小	桜井 悦子	練 馬・大泉南小
	木内 悦雄	新 宿・東戸山小	北野 康子	江戸川・上一色南小
(記 録)	鎌田 清美	文 京・駒 本 小	名取 幹夫	江戸川・葛 西 小
	佐々木洋子	文 京・元 町 小	川上紀代子	江戸川・瑞 江 小
(記 録)	岡本 正治	台 東・済 美 小	望月 幹夫	八王子・長 沼 小
(発表者)	岩堀 早苗	江 東・数 矢 小	吉田 斉子	立 川・第 六 小
	三浦 勲	品 川・城 南 小	川島 春美	三 鷹・第 一 小
	橋本 京子	品 川・第三日野小	井上 和代	調 布・染 地 小
	小川 年枝	目 黒・東 根 小	山中 忠雄	狛 江・第 二 小
	加藤みね子	大 田・赤 松 小		

1. ま え が き

(1) 研究主題について

学級会活動は、ひとりひとりの児童が、よりよい学級生活をめざして、学級の中から問題を見つけ、その問題解決の方法を学級全員で話し合い、なんらかの社会的な役割りを分担しあって行なり自発的・自治的な実践活動である。しかし、学級会活動の現状は、児童の活動を教師が干渉しすぎたり、児童に任せっぱなしでありすぎたりしてじゅうぶんな指導がなされているとはいえない。児童の自発的・自治的な実践活動をよりよく育てるためには、教師が学級会活動の本質に目をむけ、きめ細かな配慮のもとに指導をすすめることが、なによりもたいせつなことである。

この反省にたって、「ひとりひとりが意欲的に取り組む学級会活動の指導」はどのようにしたらよいかをテーマとし、「話し合い活動を活発にする手だて」を追求してみた。特に、研究の焦点を「話し合い活動の事前の手だて」におき研究した。

(2) 研究への取り組み

「きょう中に学級新聞を発行しよう」などと、児童が意欲的・積極的に活動している学級があるとおもえば、一方では、「議題が見つからない」などと、学級会活動の出発点でつまづいているクラスもある。このような学級会活動の実態を出し合うことから研究のスタートをした。

- ① 幹事各校・各地区の学級会活動の現状やその問題点を持ちより共通理解をはかった。
- ② 問題点を分析検討し、テーマとのかかわりをたしかめた。
- ③ この問題解決のための指導のあり方や手だてを具体的な指導により追求した。
- ④ 「話し合い活動を活発にするところみ」として、事前における手だての仮説をたて、授業研究をした。
- ⑤ 話し合い活動の学年別めやすを検討するとともに、話し合い活動を不活発にする要因について分析検討した。

この研究をすすめるにあたって、具体的な学級会活動の指導を通して児童の変容をみつめめることを基本姿勢とした。

以下のページは、これらの研究を整理しまとめたものである。

2. 話し合い活動を活発にする事前の手だてと指導

(1) 事前の手だてと指導のめやす

話し合い活動を活発にするには、次の点に留意することが大切である。

- なるべく全員が発言し、全員が納得のいく決定ができるようにすること。
- 一部の児童だけの発言に終始する話し合い活動にならないようにすること。
- 話し合いの結果は即実践化に結びつけること。

上記の三点を指導者は常に頭において活動を展開させるわけであるが、次に児童の発達段階に即した話し合いのめやすを考えておく必要がある。

「話し合い活動の各学年のめやす」

1年	自分の思うことを進んで発言できるようにさせたい。
2年	友だちの意見を聞いて、自分の意見を発表できるようにさせたい。
3年	司会者を中心に話し合うことができるようにさせたい。
4年	計画し議題を決め、話し合うことができるようにさせたい。
5年	実践を重視し、適切なまとめができるようにさせたい。
6年	問題の解決にくふうを図り、話し合いの内容を深めるようにさせたい。

次に話し合い活動にはいるまでに、どのような手だてが必要か述べてみる。

① 問題の発見

毎日の学校生活の中でおこるさまざまな問題の中から、学級会の議題にふさわしい問題を発見させるには、まず日常生活の問題を話し合う朝や帰りの相談の時にでる話題の中から選び出させたらどうだろう。学級全員にかかわる話題、学級行事にかかわる話題などは、その場で解決せず、次の学級会の議題として残しておくようにする。そうした経験を通して、子どもたちは自分たちの手で問題を発見していく力をつけていくと思う。

② 議題箱の活用

議題箱に投函する記事の内容は、当初学級会の議題と限定しない方がよい。投書箱のような性格を持たせ、投函された種々雑多な意見の中から、全員で問題別に意見を分け、分類していく作業を通して、やがて議題箱に投書する内容はどんなことが適切なのか理解していくであろうし、そうした作業が問題発見にもつながっていくのである。

議題箱について注意したい点は、箱の設置した当座は投書も盛んだが、ほどなくマンネリ化してしまうことである。運用のくふうが大切である。

③ 議題の選定

前述したように、議題箱に投函された議題をどのように処理していくかで、話し合いの質や意欲が変わってくる。議題の中には、今すぐ解決を必要とするもの、子どもたちの切実な願いのこもっているもの、学級内では処理できないもの等、さまざまである。それらを子どもたちと相談ずくで選り分け、てきばき処理していくことである。そのことが、次の学級会の話し合いを盛り上げるもとになる。議題は常に児童にとって、新鮮なもの、身近なもの、実現可能なものでありたい。学年が進むにつれて、計画委員などを作り、話し合う内容について、準備していかせるように指導したい。

④ 話し合いの雰囲気

話し合いは全員が発言し、全員が納得のいく決定が理想である。そのためには、日常の学級経営の中で、いつでもだれでも安心して発言できる雰囲気、人間関係をつくっておくことが大切である。失敗を笑ったり、一部の児童の発言に押し切られてしまう力関係のある雰囲気では活発な話し合いにはならない。日常生活の中で、教師と児童、また児童相互の信頼関係が培い育てられていないと、話し合い活動はうまくいかないものである。その点に私たち教師は深く留意しなければならない。次に決定した議題は必ず実践させる。このことも次の学級会への意欲を盛り上げる大切な事柄である。「決めたことは実行」これをしないで、決めばなしで終わってしまうと次第に話し合い活動に対する意欲を失っていくものである。常時活動の中で、自分たちで決定した事柄には責任を持たせ、最後までやりとげさせることが学級会を自分たちのものとして大切に考えていくもとになる。

事前における手だては、学校や学年の実態によりケースバイケースによる流動的なものである。前述した手だては、極めて一般的なものであるが、学級会活動の事前指導の一例として考えられるものである。

(2) 話し合い活動を不活発にする要因

話し合い活動を活発にするためには、それを阻害している要因をつかみ、除去することから始めなければならない。要因のとらえ方は、いろいろあるが、ここでは次の3点から考えてみた。

① 児童の話し合い活動能力の低さ

話し合い活動が不活発な理由には、話し合いそのものに対する児童の能力や態度が育っていない場合が多い。挙手し、指名されてから発言するとか、友だちの意見や発言をよく聞きとるなどの、話し合いに必要なきまりがじゅうぶん身につけていない場合である。

また、自分なりの考えをまとめて、みんなの前で話す訓練や友だちの意見と自分の意見を比べて考える態度が、ふだんから積み重ねられていないと、議題に対する自分の考えも持てず、話し合い活動に参加する意欲も欠けるからである。

国語の学習だけに限らず、学校生活のあらゆる機会をとらえて、話し合いをだいに育てる平素の指導が必要である。

② 話し合い活動場面のふんいきの片寄り

発言がいつも限られた児童に片寄り、一部のものの話し合いで終始する傾向は、学年が進むにつれて深刻である。これにもいろいろな原因があるが、話し合い活動場面のふんいきも疎かにすることができない。まちがったり、失敗したりすると、みんなに笑われたり、批難されたりするふんいきであれば、思ったことを自由に話し合うことは望めないし、話し合いを深めることもできない。

だれの、どんな意見であっても、多数の中の少数の意見であっても、たいせつに聞き合うふんいきづくりを育てたいと思う。

③ 教師の細かな指導・助言の不足

話し合い活動を育てる教師の指導・助言の不足も、話し合いを活発にするだいな要因である。子どもたちに、身近なところに問題があることに気づかせたり、話し合う議題の予告や掲示をして関心をもたせたり、議長団に話し合いの流れを考えさせたりする助言がじゅうぶんでない場合では、不活発になりがちである。

また、発言カードを持たせ、事前に意見をまとめさせておいたり、話し合いの過程に小集団の活動を取り入れたり、座席づくりのくふうも欠ける場合が考えられよう。

話し合いは、学級会活動におけるだいな活動である。上にあげた要因を克服し、話し合い活動がより深まるような取りくみをしたい。

3. 授 業 研 究

プレゼントやかざりを作って たのしいたん生会をしよう

<2 年>

(1) 学級の実態と今までの経過

1年生の時は、クラスのみんで困ったことやよかったことなどを出しあって、その中から、学級会の議題となるものを見つけて話し合い活動をすすめていた。

2年生になって、学級ポストを設けて、友だちや先生、係の人に言いたいこと、聞きたいこと、やってほしいことを書いて入れるようにした。そして、帰りの会でポストに入れられた手紙を発表した。個人的なことやその場で解決できることは、その場で処理し、みんなで話し合った方がよいと思われることは、学級会の議題とした。

学級における話し合い活動の実態は、次のとおりである。

- 男子4・5名は、たいへん活発に意見を発表するが、他の児童はあまり発言しない。
- 思いつきの発言がめだつ。
- 自分の意見の理由づけは、まだ十分にできない。
- 質問などがでると、話し合いがわき道へそれ、深まりに欠けがちである。
- 司会などの役割りになれていない。

「おたのしみ会」についての手紙は、10月終り頃から数多く学級ポストに入りだした。そこで、11月4日に「どんなお楽しみ会をするか」話し合い、「おたん生会」をすることに決った。

(2) 実施計画の概要

議 題	プレゼントやかざりを作って、たのしいたん生会をしよう。
提案者	高橋幸江, 鈴木顕子, 橋本直美 他
提 案	<ul style="list-style-type: none"> ○ みんなでプレゼントを作って、プレゼントのこうかんをしたい。 ○ 教室をかざると、教室が明るくきれいになって、おたん生会が楽しくな
理 由	<ul style="list-style-type: none"> ○ と思う。

議長	泉俊彰	副議長	添田清美	書記	佐藤則之(ノート) 齊藤美智子(黒板)
話し合いの順序					資料
1. はじめのことば 2. 議題をたしかめる 3. 提案理由を聞く 4. 質問をする 5. 話し合いをする ○ プレゼントはどんなものを作るか。 ○ 教室のかざりはどんなものを作るか。 6. 決ったことを発表する 7. 先生のはなし 8. おわりのことば					○ おたん生日の表 ○ おたん生会のプログラム ○ 学芸会の招待カード ○ プレゼントや飾るものの見本 ○ 学級会ノート

(3) 話し合い活動の概要

議長の開会のことばについて、提案者から提案理由の説明があり、話し合いに入った。

議長 プレゼントは、どのようなものにしますか。

児童 自分の家にあるものを持ってくればよいと思います。

児童 お金を使わないで、家にある折り紙などで作ったらいいと思います。

児童 メダルや首飾りを作って、お友だちにあげたいです。

児童 折り紙やつつみ紙で作ったらいいと思います。例えば……………。

教師 何か考えてきたの。作ってきたの。みんなにわかるように見せてあげて……………。

(他の児童は、期待と喜びでしばらくの間ざわつく。高く持ちあげて見せる。)

児童 男の子にはかっこいいもの。例えば、メダルやかんむりやえんぴつ立を作ってきたらいいと思います。

教師 みんな自分で作ってきたものがあったら、見せながら話をしていいのよ。

児童 折り紙でいろいろなものを作ってきたらいいと思います。

児童 男の子でも女の子でも、みんなが嬉しがるものを作ったらいいと思います。

児童 この箱には、男の子に飛行機、女の子にはちょうちんが入っています。

児童 手さげができます。おとうさんが仕事で使ったもので、もう使わなくて、ごみ箱にすてた紙で作ってきました。

児童 動物を折り紙やはっほうスチロールで作れます。(わにを見せる。)

児童 女の子には、こういうかざりに「おめでとう」と書いてあげます。男には、カードに「おめでとう」と書いてあげればよいと思います。

議長 ほかにありませんか。では、このなかでどれができますか。きめてください。

児童 手さげはできません。材料はないし、ひもが弱くて切れてしまいます。

児童 材料は、おとうさんの仕事でいらなくなったのがあります。ひもは二重に使うと切れないし、はとめをすればだいじょうぶです。(はとめの説明をする。)

議長 グループで話し合ってください。(しばらく話し合う。)

児童 カードはいやです。

教師 (学級会の招待カードを見せながら説明。もらったうれしいと納得する。)

議長 ほかにありませんか。では、教室のかざりは、どんなものを作りますか。

児童 この旗は、ぼくたち3人で集って作りました。紙はうちにあったのを使いました。こういう旗をみんなで作ってかざればよいと思います。

児童 色紙で、花やこういうかざりを作って、糸を通してかざればよいと思います。だれかわたしといっしょに作りませんか。

教師 まだ、持ってきたもので見せてないものがあったら見せてください。

(うちで作ってきたものを出し合って、うれしそうに見せあったり、まわりの友だちと話し合ったりする。輪かざり、折り紙の動物、ケーキ、花、かんむり、かみかざりなどが、作りたいものとしてだされる。)

議長 このなかで、作れないものがあったら言ってください。相談してもいいです。

(グループで話し合い、全部作れそうということで話し合いは終わった。)

議長 きょう、決ったことを書記から発表してもらいます。

書記 決ったことを発表します……………。

(4) 話し合い活動を活発にするころみ

① 学級ポストの使用

友だちのつげ口やけんかのことを報告にくる児童が多かったが、「お楽しみ会をしたい」「係のことをお願いがある」といってくる児童が、この頃ふえてきた。そこで、これらの

ことを、児童の手で話し合わせ解決させたいと考え、学級ポストを設置した。この学級ポストは、学級会の議題だけを入れるためのものでなく、個人的な願いなども入れるようにした。学級生活への問題意識がだんだんと高まってきたように思われた。

◎ ポストに入れる 3種類のカード

<p>学級会ぎだいカード ○月○日 名まえ() ○学級会でそうだんしたいこと ○そうだんしてもらいたいわけ ○おねがいやそのほかのこと</p>	<p>○○さんへのてがみ 名まえ() ○気のついたこと (見たこと聞いたこと) ○考えたこと思ったこと</p>	<p>○○さんへのへんじ 名まえ()</p>
--	--	--------------------------------------

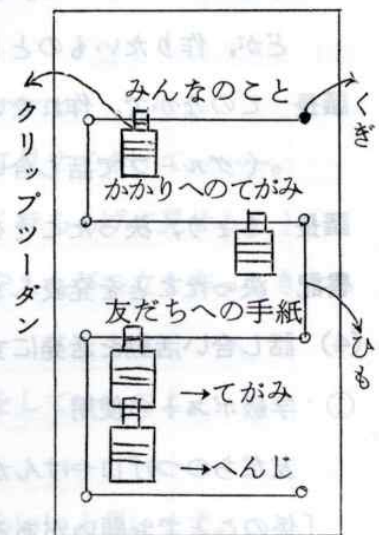
② ポスト掲示板の利用

ポストに入れられた手紙を掲示する作業を通して、学級会の議題は、個人的なものではなく、学級全体のことであり、みんなで話し合って解決・実践していくものがよいことを理解させたいと考えた。この作業を通して、児童は、学級会ではどんなことについて話し合ったらよいかを考えるようになってきたが、望ましい議題についての児童の理解はむずかしい。これからも、ポスト掲示板やポスト窓口のしわけなどの手だてをこらじて指導に力を入れたいと考えている。

◎ ポスト掲示板の手紙の分け方

- みんなのこと
 (楽しいクラスにするため。みんなでやるとうれしいことなど。)
- かけりへの手紙
 (かけりに言いたいこと。気のついたことなど。)
- 友だちへの手紙
 (おねがいしたいこと。気づいたことなど。)

<ポスト掲示板>



③ ポスト係の設置

ポストの手紙を掲示する児童が必要になり、9月の「係をきめよう」の学級会で、ポスト係をつくった。ポスト係を希望する児童が多かったが、男女各2名ずつにきまった。

＜ポスト係のしごと＞

○ ポストの中の手紙を出し、三つに分けて掲示板にクリップでとめる。

○ 返事としてきた手紙を、もとの手紙の下にクリップでとめる。

○ 議長・副議長・書記のしごとを分担し、学級会をすすめる。

この手紙を分類して掲示する活動により、児童がみんなのための議題ということに、わずかではあるが、目を向けるようになってきた。

④ 議題の予告

今までは、議長と教師で「この議題はどうしたら話し合いができると思う」と相談する程度であったが、話し合いの柱立てを議長団と一緒にした。その話し合いの柱にそって、自分の考えを学級会ノートに書いてくるように指導した。

議長団は、話し合いの流れが頭に入り、また、学級の児童も自分の考えをまとめてきていたので、話し合いも活発になり意欲がもりあがった。

(5) 反省と考察

＜資料＞ 全員に呼びかけて資料を持ちよったことは、ひとりひとりの児童が、おたん生会のことを想像しながら作ったと思われ、参加意欲をもりあげた。児童の資料を前もってあつめ、分類・整理をしておく、もっと効果的であったろう。

話し合い活動は、児童の手作りの資料を活用することにより、児童ひとりひとりが生き生きと話し合いに参加するだけでなく、学級会に大きな関心と期待をもつようになる。

＜発言＞ たいへん活発な発言があり、おたん生会のムードが高まってきた。しかし、「手をあげてもさしてくれないからつまらない」という理由で、挙手を止めてしまった児童がいた。副議長が発言をチェックして、指名されていない児童に発言の機会をあたえるよう指導しているが、時間的な理由など、指名されずに終わってしまった。このような場合、話し合い後、「先生の話」のところで不満を解消させているが、何かいい手だてはないものかと模索している。

この他、短冊、カード、小黒板などの利用方法も、事前指導の一環として、議長団や係と打ちあわせておくことにより、ひとりひとりの児童が意欲的に話し合い活動に取りくむようになるであろう。

4. 実践事例

(1) 議題ポストの作り方をくふうして 【4年】

① 問題点

学級会の話し合い活動をすすめていく過程で、いくつかの問題が生じている。その一つとして「議題が出てこない」という問題がよくあげられる。本学級においてもその例外ではなかった。

4月当初に学級会のきまりについて話し合い、議題が決定されるまでの手順が次のように決まった。

ア. 議題カードに議題案を書き議題ポストに入れる。

イ. 議題案を計画委員会で検討し、議題を全員で選定する。

議題ポストについては、一人の児童が作ってくるということで簡単に決まった。

ところが学級会活動がスタートしてみると議題ポストに議題案が入らず、計画委員会で議題案を出し議題を決定するという状態であった。4月当初に望ましい議題についての指導をしてあったために、かえってそれを意識しすぎてしまったようである。

そこで再度、議題例をあげながら話し合いをした。それから何回か議題案がポストに入るようになったが、なおも次のような問題点が残った。

- 生活上の諸問題に気づく児童がほんの一部に限られている。→ 問題意識や話し合いへの意欲不足。
- 問題に気がついても、ひとりだけポストに入れるのがはずかしいという気持ちがある。
- また、どういった議題が良いものかがわからず、ポストに入れる自信がない。

② 手だてと考察

上記のような問題を解決するためには、多方面から手だてや指導を考えなければならないが、その一つとして議題ポストそのものの作り方をくふうすることにより、議題に対する意識が高まり、それによって一人一人が話し合い活動に、より意欲的に取り組めるのではないかと考えた。

そこで、考えてみたのが図Ⅰのような議題ポストである。これは今まで使用していたポストをくふうしたもので、中に入れた議題カードが見えるように前面にセロファン紙をはった。

また、全員で議題を決定する際に、議題ポストに入っていた議題案の枚数やどんな内容

のものが入っていて、どんなふうに計画委員会で話し合ったかを報告するようになった。

このポストを使用し、上記のように議題案を処理する方法をとった結果、次のような変化が見られた。

○ 議題ポストの利用が増え始めた。

これは、ポストに入った議題カードを見ることにより「議題カードが入っているから自分も入れてみよう」という意欲が出始めたと言えよう。

○ 計画委員会での話し合いが活発になった。

いくつかの議題案の中から学級会で話し合う議題を選ぶには、多くの話し合いをしなければならない。

◎ 学級会での話し合いで一人一人の意欲が増してきた。

議題の意識が高まると次の学級会が待ちどろしくなる。その結果、学級会の話し合いそのものに対する関心が高まってくることになる。

また子ども達からは、

◇ 議題カードが入っているのを見たら、話し合いができると思いうれしくなりました。

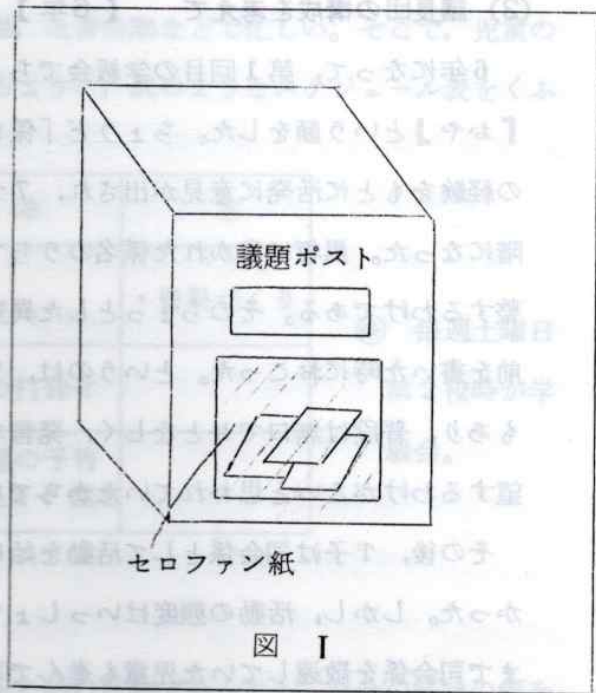
◇ このクラスを楽しくしたり良くするために考えている人がいるかと思うとうれしくなり、私も入れてみようと思いました。

◇ ポストに入っている議題カードの、話し合ってもらいたいことの欄を読んだら僕と同じ考えでした。なんだかうれしくなり、学級会が待ちどろしくなりました。

という感想が聞かれるようになった。

③ 今後の問題点

○ 適切な議題がどんなものがまだわからない子もいる。適切な議題のあり方を考えさせるために、議題カードを色で区別（例えば、学級内のきまりに関すること—黄色、系の活動に関すること—緑色、集会活動に関すること—水色など。）して使うようにしてやってみている。



(2) 議長団の構成を考えて 【6年】

6年になって、第1回目の学級会でちょっとした異変が起こり、クラスの児童たちが、『おや』という顔をした。ちょうど「係を決めよう」という議題のときであった。それまでの経験をもとに活発に意見が出され、7つの係が決まった。次いで、各自の所属を決める段階になった。黒板に書かれた係名のうちで、自分の希望する係のところに名前を記入し、調整するわけである。そのちょっとした異変は、Tという女子が、司会係のところに自分の名前を書いた時におこった。というのは、T子は心臓が弱く、あまり強い運動ができないこともあり、普段は無口でおとなしく、発言などめったにしない児童だったので、司会係など希望するわけがないと思われていたからである。

その後、T子は司会係として活動を始めたが、テキパキ会を進めるというわけにはいかなかった。しかし、活動の態度はいっしょうけんめいだった。このことがきっかけになり、今まで司会係を敬遠していた児童も進んで司会係に入るようになった。

① 司会係の誕生

最初、児童は司会の仕事をクラスの係活動として考えていなかった。そこで、次のような観点から、学級会の司会を係活動として位置づけ、指導をこころみた。

ア. 学級生活に関する問題について扱うこと。

イ. 協力しあって会の運営ができること。

ウ. 会の運営にともなう準備について、色々たくふうの余地があること。

誕生した司会係は、さらに次のような場でも経験を積ませていくようにした。

・ 朝・帰りの会の話し合いを一人で行わせる。

・ 計画委員会での話し合いの司会をさせる。

・ 学習の場においても話し合いの司会やまとめをさせる。

このようにして、話し合いをすすめたり、まとめたりする仕事に慣れさせ、係りに取り組む意欲や興味を育てるようにした。

② 司会係の活動内容

ア. 計画委員会(8つの班から各1名ずつ交代で出席)を運営し、実施計画を立てる。

イ. 帰りの会で議題、話し合う各項目を予告し、コーナーに掲示する。

ウ. 記録ノート、実施計画ノート、学級会ノートの作成をする。

エ. 資料づくり(発言カード、発言回数表など)をする。

オ. 学級会当日の進行・記録をする。

なお、6年生は委員会の仕事、学級の係活動、当番活動などで忙しい。そこで、児童の負担が過重にならないで、計画的に活動できるように、次のようなスケジュール表をくふうして作らせた。

	月	火	水	木
中休み				・資料づくり
昼休み			・係の打合せ	
放課後	・計画委員会の予告	・計画委員会	・議題の予告 ・意見カード配布	

※ 毎週土曜日
第2校時が学級会。

③ 問題点の発生と対策

係の仕事は、どれもクラスを向上・発展するための活動であること、自分の経験の幅を広げるためにも役立つことなどから、どの係も一度は経験するよう助言をあたえた。特に司会係は全員に経験させたいと考えていた。しかし、司会係が発足した当時から所属を希望するのは、ある程度司会をすることが得意な児童になってしまう。毎学期新しく司会係に加わるのは1～2名で、5年生を終わった段階で34名の児童中司会係の経験者は、やっと20名であった。6年の1学期にT子のほか2名が新しく司会係に加わったので、これを機会に児童全員に係活動として交替してやれるよう指導をすることにした。

以下、具体的な指導の取り組みについてふれてみたい。

- ア. T子の司会係参加を強調し、だれでも司会係ができることを強調した。
- イ. 司会係は学級の中でもだいたいの係であり、全員一度は経験しておくべきことなので、まだやっていない人に、どうしたら司会をやってもらえるか考えてもらうよう朝の会で提案した。
- ウ. イでなされた提案にそって、「ゲスト議長」を設置することが決った。即ち、司会係が、ほかの係のまだ司会を経験していない児童を順番に議長として迎え、一つの議題が終るまで、計画委員会を開いて一緒に実施計画をたてたりして応援をしてあげるといいうわけである。

現在、このようにしてゲスト議長がいっしょけんめい活動している。このゲスト議長を設置してから、クラス全体がさらに大きくまとまってきたことを感じる。

(3) 学級会カードを持たせて 【5年】

○「何かありませんか」の発言をとらえて

5年生になって、第一回の学級会の授業を通して考えさせられたことは、まじめで、固い表情の子どもたちの姿だった。「このことについて、何か意見はありませんか。」との議長の繰り返しの発言に、数人の子どもたちの意見が出ると、「賛成です。」と決定してしまう学級会。限られた子どもの発言にまとめられてしまうことを、何とかして、もっと望ましい方向に変えていかなければと思ったのであった。学級の実態に合わせて、計画委員会への指導の手だてと、学級会カードによる意識の高まりを期待したのであった。

・計画委員会についての指導

学級全員が順番に、計画委員となる。「計画委員のメンバーに、なったときには、いろいろな意見を持とう。」をあいことばに、「ぼくはこう思う」「わたしだったらこうしてみる」といった話し合いに重点をおいた。いろいろな立場を理解させることは大切であった。

給食時や放課後に回数を重ねて、指導した。

<学級会カードを持たせて>

学級の全員で決定した議題について、自分の考えをはっきりさせ、何について話し合っているかを考えさせるために、下図のような学級会カードをつくった。(大きさは葉半紙4分の1程度)

議題の事前提案がなされてから。

・5月当初のものをみると、自分の考えが適切に持てず、考え方の足りない意見が多かった。

・当初のもの (5月)	
学級会カード 5の1	
月	日 曜
議題	
提案者	
質問したいこと	
.....	
.....	
ぼくの考え・わたしの考え	
.....	
.....	

<例> 議題「生き物を飼うことについて」(6月)

- ・金魚を飼ったらどうですか。理由、きれいだから。
- ・私の家にいるタナゴをあげます。
- ・飼うことは反対です。理由、世話をするのがめんどうだし、死ぬかもしれないから。

(質問)

- ・お金をどこから出すのですか。

この例にあるように、カードを持たせても、話し合いの深まりはなかった。

決まったことを実践させ、学級カードには少しずつ朱を入れてやったりして意欲を持たせた。またグループでの話

し合いの中で、「隣の人の考えと同じだった。」「わたしの意見がとりあげられた。」等の喜びを取りあげるよう心がけた。この頃は「みんなで聞こう友だちの意見」を約束として聞くことに力を入れた。みんなにわかってもらえるよう、ことに新しい意見は紹介し、それを証明する意見を持たせたり、角度をかえた修正意見を求めたりして、カードの活用に力を入れた。

・2学期から (9月)	
学級会カード 5の1	
月 日 曜	
議 題	
提案者	
自分の考え (自由に書けるように、 スペースをとって)	
質問したいこと	
反省	

・2学期になり、質問したいことよりも、自分の考えを
発表したい。多く書くことが出てきたので、スペース
を少しでも広くしてほしいとの声が出てきた。

<例> 議題「学級文庫の本を入れかえよう」(10月)

- ・この頃、雨の日や給食の前に読んでいた本について
の約束が守れなくなった。本をみんな読んでしま
ったからだ。新しく自分たちの家から持ってき
て入れる。
- ・マンガについて希望はあるが、先生へのお願いと
する。
- ・よその組と交換するのはどうか。低学年へあげる
ことについて。
- ・学級会で、本の紹介をしたらどうか。

・全部入れかえるのではなく、読まなくなった本を調査してからにするといひ。

・今までの本で、一番読まれたのを調査して発表する。これから集めるのにいいから、童
話よりSF小説があったらいい。(図書館で童話は読めるから。)

・物語だけではなくて、趣味の本もいいのではないか。たとえば、電気の本、モデルガン
の本、実験の本でもいいのではないか。(女の人も考えるといい)

以上一部ではあるが、考えを出そうという方向が出てきたと思われる。

○学級会をより活発にするために

計画委員会をはじめ、学級会カードによる指導の中にもたくさん問題がある。今後の
指導として、話し合い活動の中で、みんなで考え、自分の意見の向上をはかるために弾力
あるメモのとり方、能力的に低い子への思いやりと指導等、集団の一員としての喜びを味
あわせてやることへの課題を持って指導を深めていきたい。

(4) 資料の提示をくふうして 【3年】

中学年の学級会活動を見てみると、児童が、話し合いの中にとけこまず、議題の意味がわからないままに話し合いが進められている。児童ひとりひとりが、その議題にとりくむことで、学級会活動がいつそう活発になろうと考えた。議題の理解ということから、資料を使うことをくふうしてみた。

① 問題点

議題の意味を子ども達全員がわかっていないことが多い。議題名だけは、計画委員が、学級会の前日に背面黒板に記して知らせるのでわかっているが、その議題がクラスのどういう人から、どんな状況ででてきたのか、どうして話し合わなければいけないのかが、児童には十分理解できない。学級会の提案者の口頭だけでは、ひとりひとりが、その議題にとりくむ状態までもっていけない。どうしても学級の中には、「僕には関係ない話し合いだ。」とか、考えられない子が出てきてしまう。提案者も自分がほんとうにわかってほしいことを十分にまとめきれない。みんなも提案者の言いたいことがわからない。この状態で学級会を進めていっても「わからない。」で終わってしまう。この提案内容を明確にさせたいと考え指導を試みた。

② 指導の概要

上のような事から、提案理由の説明の時点で、児童にその日の議題理解を深めさせ、提案者の立場にたち、ひとりひとりが意見をもつように、提案理由の際に資料を使用した。

(ア) 議題 ポールの使い方を考えよう。

(イ) ねらい 今までのボールの使い方について困っていることを考えて、クラスみんなが楽しくボール遊びができるようにさせたい。

(ウ) 実施の概要

前もって提案者に、どういう状態になっているかを調べさせた。すると3つのことをあげてきた。

○男子ばかりがボールをつかう。

○男子が遊びの中に、女子を入れない。

○ひとりの子が、いつもボールを使っている。

という理由であった。この理由を絵にし、子どもが興味をもち、また、自分の生活経験をその絵のパターンから引き出してほしかった。また、提案者に、同じ学年の他のクラスの使い方を調べさせておき、決める段階において、一つの具体例として資料を用いた。

アの理由



イの理由



ウの理由



また、体育係に今までのボールの使い方を確認する意味で発表の準備をさせておく。

(エ) 考察

児童にとって、ことばだけの提案理由でなく、目にとまるものを示した方が、考えやすくなったようである。その絵をみて子どもなりに具体的に考えていたようである。困ったことも、自分の経験から引き出していた。しかし途中で、やはりボールを日頃使っていない子は、どうしても具体例がおもいつかなくなり、話が中断してしまった。そこで、次の資料として、他のクラスの使用例を話し合いの流れの中に入れ、話し合いの方向づけと、盛り上がり考えた。このことによって、具体例が出てきたようである。

中学年では、ことばだけでは、提案理由を明確にすることはたいへんである。その提案理由を明確にするための資料を、児童といっしょにつくることによって、話し合いへの興味がわき、話し合い参加への意欲が増すようである。また、目にうったえることによって話しの内容が意識づけられ、児童の経験を引き出す手助けになったようである。

話し合い活動を指導する前に、子どもの思考を手助けすることからも、また、ひとりひとりの子どもに、話し合うことがらを適確につかませるということからも、このような資料は、是非とも準備しておきたいものである。

(5) 会場の作り方に变化をもたせて 【1年】

学級を一つの集団として成立する学級会活動は、低学年、わけても入学当初の児童にとってはむずかしいことである。しかし、この時期の指導いかんが、中学年以降の実践活動を左右することを忘れてはならない。そこで、入門期の指導で「自分たちの学級会だ」という気持ちを培わせるために自由に話し合えるくふうの一つとして、話し合いの会場に変化をもたせてみた。

① 議題 どうぞよろしく

- 会場 机を後ろに下げ、いすだけで半円に座った。
- ねらい 自己紹介をしながら、仲間意識を持たせたい。
- 実施の概要



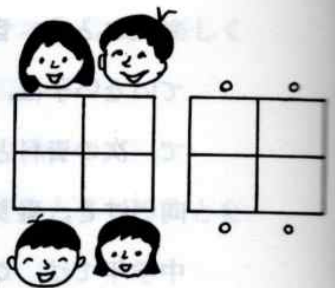
「こんにちは、どなたです。」と教師が歌う。児童は自己紹介と好きなことを言う。「ああああーそうですか。」と一人ずつさしていった。「ぼくは〇〇です。カレーが好きです。」「わたしは□□です。お人形遊びが好きです。」次に、知っている友だちのことを話してもらい、最後にみんなで外へ出て遊んだ。

○ 考察

話し合いだけでなく集会的な内容も含んでいたため、ほとんどの子どもが、「楽しかった。」「またやりたい。」と言っていた。前半の自己紹介は、教師対発表児童だけのつながりであったが、知っている友だちのことを話したり、半円にすわらせたことにより身近さがひとりひとりの子どもに感じられて、生き生きと会が盛り上がった。

② 議題 給食のときのグループの名まえをきめよう

- 会場 隣、前後の友だちどうしてグループをつくり、机を横にして向かい合って座った。
- ねらい 仲よく楽しい給食にするために、少しでも多くの友だちとグループを作り、豊かな人間関係を育てたい。



○ 実施の概要

班は1班から10班まであり、4人グループで給食している。「ぼくは1のかわで1ばんだ。」「幼稚園ではももとかきくという名まえだよ。」「グループの名まえをきめよう。」との子どもたちの声から、グループの名まえを学級会までに考えてくることになった。全体での話し合いでは、昆虫、植物、動物、食べ物、さかななどの名まえが出され、グループで話し合わせた。その時、或るグループで昆虫名と食べ物名のふたつに

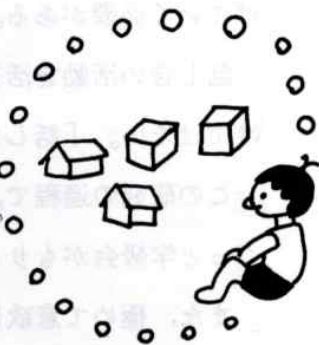
意見が分かれてしまった。そこで、グループ内でじゅうぶん話し合わせ（じゃんけん）で名まえを選ぶことを納得し、昆虫名（とんぼ）をグループの名まえとした。

○ 考 察

初めて試みた4人グループの話し合いは、発言できない子どもが少しでも話すことができる手だてになったようだ。自己中心的な傾向の多い一年生では、グループの話し合いに多くの期待をかけることは無理であるが、全体の中で意見が言えない子どもが、グループになったときには自分の考えをはっきり述べていたように感じた。これからはいろいろな機会をもうけ、グループで話し合わせていきたい。

③ 議題 ハムスターの名まえをきめよう

- 会場 机、いすを後ろに下げ、真中にハムスターの飼育ケージを置き、その回りを囲むようにして円形に一列に座った。
- ねらい 実際に見ながら自由に話し合わせたい。
- 実施の概要



子どもたちが育てているハムスター母・子がだんだん成長して、一つのケージでは狭く、また、けんかが多くみられるようになった。そこで別々のケージに一びきずつ飼うことになり、自由にハムスターを見に行き、動いているようすを見ながら、話し合いを進めていった。母親はハムシロという名まえである。（毛が白いので）

ハムコロちゃん 「ころがってばかり、さっきまわそうとしていたらコロッとおちた。」

チョロちゃん 「チョロチョロしている。」

ハムタロー 「オスの名まえだ。男の名まえをつけたらかわいそう。」

ハム子 「早く言えるから。」

ハムチン 「そこにのぼってチンチンしていたよ。」

ハムコロちゃん・チョロちゃん・ハム子ちゃんにきまった。

○ 考 察

名まえを決めることは一年生の子どもにとってはとても大きな関心がある。まして、生まれたときから見守っていたので、ハムスターはクラスの人気者である。名まえをきめることは前から楽しみにしていたようだ。ハムスターのケージを囲みながらの話し合いは、自由にいろいろな場所に行き実際にようすを見ているので、いかにも一年生らしい発想で名まえをつけることができた。全員が喜んで話し合いに参加できたようである。

5. 研究の反省と今後の課題

「ひとりひとりを生かす特別活動の特質と指導のあり方」をうけて、「ひとりひとりが意欲的にとりくむ学級会活動の指導」のあり方を、話し合い活動を活発にする手だて(事前)を中心にまとめてみた。しかし、この課題は、あまりにも大きく問題点も山積している。一応のまとめはしたものの、研究のいと口をみつけたにすぎない。幹事の先生方ができうる限りの資料や指導例を出し合い研究に取りくんだが、内容的にも方法的にも、もっと深くほりさげていく必要がある。

話し合い活動を活発にする手だての研究は、ただ単に、「じょうずな話し合い」を考えただけではない。「話し合い活動=実践活動」のためのものである。

この研究の過程で、「こんな手だてをこうじて、話し合い活動の指導をしたら、前回よりもぐっと学級会がもりあがった。」と事例報告をされた。

また、極めて意欲に欠ける児童のために、どんな指導をしたら意欲的に取りくむようになるか、その手だてを真剣に討議し合った。

些細にして未熟な研究ではあるが、このような先生方の意欲と姿勢が、学級会活動を支え、前進させてくれるものと思う。そして、このことが、ひとりひとりの児童を生かし、大きく育ててくれるものと信じている。

ひとりひとりの児童は、集団が向上することにより、よりよく成長していく。また、個が質的に高まることにより集団が充実する。ひとりひとりを生かすために、個と集団、集団相互のかかわりなどが今後の課題としてのこされている。

5月以来の研究部会は、必ずしもじゅうぶんであったとはいえない。多用な校務の中で、終始熱心に研究をすすめた先生方に、心から敬意を表したい。特に、授業を公開して下さった岩堀先生はじめ数矢小学校の間簀校長先生・諸先生方に、また、いつも会場をひきうけていただいた今川小学校の白井校長先生はじめ諸先生方に心からお礼を申し上げます。

なお、この研究のためにご指導をたまわりました東戸山小学校長奥宣先生と前野小学校長西川猛先生に厚くお礼申し上げます。

Ⅲ ク ラ ブ 活 動

テーマ 「ひとりひとりが喜んで参加するクラブ活動」

1. ま え が き	53
2. 本年度クラブ活動の実施状況と児童の意識	54
(1) 参加学年・時間のとり方・クラブ数と種類	54
(2) 児童の意識の分析と考察	56
3. 実 践 事 例	58
(1) ソシオメトリック・テストによる指導と考察<その1>	58
(2) 個人カルテによる指導と考察<その1>	62
(3) 活動記録の実践と指導<その1>	64
(4) ソシオメトリック・テストによる指導と考察<その2>	66
(5) 個人カルテによる指導と考察<その2>	68
(6) 活動記録の実践と指導<その2>	71
(7) 個人カルテ作成の一例とその使用法	72
4. 研究の反省と今後の課題	76

○ 研究の経過

- 5 1. 6.1 7 (木) 定期総会, 分科会, 組織づくり
- 5 1. 7. 8 (木) 研究テーマの検討・研究の方向づけ
- 5 1. 9.1 3 (月) 研究テーマのほり下げ・持ち寄り資料の検討
- 5 1.1 0.1 9 (火) ひとりひとりを生かすための手だての検討
- 5 1.1 1.1 6 (火) 研究内容のほり下げ
- 5 1.1 2. 9 (木) 研究内容のほり下げと研究のまとめの検討
都指導部・大石勝男先生の指導を受ける
- 5 2. 1.1 8 (火) 研究内容の整理・研究集録原稿作成
都指導部・大石勝男先生の指導を受ける
- 5 2. 1.3 1 (月) 研究集録原稿まとめ・研究発表の役割分担の決定
- 5 2. 2.2 5 (金) 研究発表の準備(役割分担確認・発表内容検討・資料準備等)

研究・執筆者名簿

部長	小川 国寿	港 ・桜川小	(記 録)	根本 正道	中 野・西中野小
副部長 (発表者)	大谷 徹夫	渋谷・神宮前小		前田 ヨン子	杉 並・杉並第九小
副部長 (発表者)	甲賀 春明	練 馬・田柄小		中川 茂義	江戸川・大杉第二小
副部長	小野 真澄	葛 飾・葛飾小		中川ミチエ	三 鷹・大沢台小
(司 会)	蛸井 聡	港 ・白金小		新田 重信	千代田・淡路小
(司 会)	池田 和栄	文 京・千駄木小		小林 繁人	新 宿・落合第三小
(記 録)	野本 重子	文 京・林町小		大沢 良一	文 京・真砂小
(発表者)	志田 時晴	台 東・小島小		坂本 玉造	品 川・第四日野小
	上村 和子	台 東・田原小		後藤 貞郎	目 黒・八雲小
	古川 邦正	江 東・毛利小		菅野 信夫	江戸川・鎌田小
	土岐 光子	江 東・八名川小		飯野 稔	清 瀬・芝山小
	東 堅市	大 田・北蒲小		鈴木 初江	清 瀬・清瀬第八小
	竹内 宣	世田谷・千歳小		永井 貞代	東久留米・第七小

1. ま え が き

(1) 研究テーマと研究内容

都のテーマ「ひとりひとりを生かす特活……」を受けて研究3年、まとめの段階となった。本研究部では「児童ひとりひとりが喜んで参加するクラブ活動」をテーマに研究を進めた。

49年度は児童の参加意識を調べ、作文・面接・ソシオグラム等で阻害要因を追求した。

50年度は定量分析的研究(ソシオ)と個人カルテを柱に研究した。児童の実態に基づき目標のある指導でどう変容するか、明確な資料を得ることに努めた。

本年度は過去2年の積み上げをもとに、ソシオメトリック・テスト(以下ソシオ)、個人カルテ、活動記録を柱に、個々の児童に焦点を当てて研究を進めた。

クラブ活動は「担任の手を離れ、他の学級・学年の同好の児童と、共通の興味・関心を集団で追求する活動」である。通り一片の指導では、ひとりひとりを生かすクラブ活動の実現は困難である。個々の個性や能力の理解に基づく指導こそ、テーマに迫る研究であろう。

(2) 研究への取り組み

テーマを追求するために、次のような手順で研究を進めた。

- ① 本年度のクラブ活動の実施状況を調べ、研究の基礎となる現状把握をした。
- ② 個々の児童のクラブ活動への参加意識を調べ、取り組みの姿勢や阻害要因を追求した。
- ③ ソシオによる人間関係(選択・排斥の状況)の把握と疎外児童の集団組み入れを図った。
学期初めを選び、ソシオを実施し一覧表に整理し、周辺・孤立児の発見とその指導をした。
- ④ 2回目のソシオで人間関係のその後の変容をとらえ、指導のより所とした。
- ④ 個人カルテによる個々の児童の意識の把握とそれに応じた指導を進めた。
モデル形式(50年度集録P58参照)をもとに、各学校で工夫し実施した。
- ⑤ 活動記録の実施による個と集団のつながり、活動状況を把握し、指導に生かした。
- ⑥ これらの実践の資料を持ち寄り、実践の歩みの把握と問題点の改善策を追求してきた。

(3) 研究の基本的な考え方

本年度は個々の児童に重点を置いた研究を進めてきたが、もとよりクラブ活動ではクラブ集団を高めるための指導性がポイントであることを忘れてはならない。個の成長への指導と集団の成長への指導が有機的に作用し合っこそ、望ましいクラブ活動の実現が可能となる。

ソシオや個人カルテ、活動記録の作業は活動そのものでもあるし、評価でもある。

今後さらに、内容・形式を単純化して常時実施し、ひとりひとりを生かす活動としたい。

2. 本年度クラブ活動の実施状況と児童の意識

(1) 参加学年・時間のとり方・クラブ数と種類

① 参加学年

年々4年生をクラブ活動に参加させる学校が多くなっているようにみられる。今年度調査した24校のうち17校は4年生参加であり、これは70%にあたる。

学校規模でみると小・中規模校では殆どの学校で4年生を参加させているが、大規模校では指導者や施設の面から5年以上にしている学校もみられる。しかし、クラブ数を増やすことによって4年参加にふみきった学校の例もみられる。

② 時間のとり方

曜日	校時	校数
火曜日	6校時	9校
水曜日	5校時	6校
月曜日	6校時	4校
木曜日	6校時	1校
金曜日	5校時	1校
月曜日	5校時	1校

この調査からみると火曜日の6校時にとっている学校が一番多い。この理由として「放課後の行事を組まない」「時間延長ができる」があげられている。火曜日は教師の出張が多い日であるが、この点は一クラブ担当教師二名以上として運営されている場合が多い。

つぎに水曜日5校時があげられるのは「教師の出張が殆どなく全員で指導にあたる」「職員会議開会を遅らせることによってクラブの時間を延長させることができる」の理由による学校が多い。どちらも「時間延長」の配慮に注目したい。

以下上図の通りである。

クラブ活動を毎週とっている学校は22校中9校で41%である。残り59%は委員会活動とのだき合わせで運営されている。指導要領に示されている毎週一時間を確保していくことはなかなかむずかしいようである。

しかし、多くの学校で教科の一単位時間よりはクラブの時間を長くする努力がなされていることは前述のとおりである。40分で終わる学校は20校中5校のみである。火曜日6校時の場合も、水曜日5校時の場合も60分とっている学校が多い。

1か月に3回のクラブ活動が行われている学校が多いが、活動時間ではこのように時間延長をし、実質では毎週実施したときと同じ時間数をあてているわけである。クラブによっては40分で区切るより60分にしてまとまった活動をする方がよいということもある。

ある学校ではクラブ活動の時間を隔週月曜日の5・6校時をあて80分をあてているという例も報告されている。週1時間とか、月3回という形からはずれるが、学年初め2・3日連続実施をし波に乗せるという方法も工夫できよう。

③ クラブ数

当然なことながら小規模校ではクラブの数も少なく8～10程度が多い。中・大規模校になるにしたがってクラブ数も多くなる。1クラブの人数、指導者、施設などからどの学校でも工夫がなされ運動関係のクラブを細分化したり、音楽を器楽と合唱というように分けたりしている。あるいは一つのクラブの中をいくつかの班編成をし、それぞれの班に指導者がつくという方法をとっている学校もある。今年度の調査で一番多くのクラブを設置しているのは25クラブであった。もちろん大規模校である。

④ クラブの種類

文化的 クラブ	○読書 ○郷土(地理・歴史) 鉄道 紙上旅行 書道 レタリング 童話創作 交通
科学的 クラブ	カメラ ○科学(実験) ○工作 模型 園芸(栽培) 発明 プラモデル 凧 模型飛行機 自転車
体育的 クラブ	○卓球 ○バドミントン ポートボール 野球(ソフト) 球技 リズム ○バレーボール ミニサッカー 陸上 器械体操 スポーツ すもう 剣道 ハンドボール テニス 体力
家庭的	○手芸 料理 ししゅう あみもの 生花 ぬいぐるみ
芸術的	○音楽 ○絵画 ○演劇 焼物 まん画 ゲーム 鼓笛
その他	○囲碁・将棋

調査22校ぶんをまとめてみると上の通りになる。○印は10校以上の学校が設置しているクラブである。どの学校でも運動的なクラブと空間で活動できるクラブが組み合わされて設置されている。全員を運動クラブに所属させるというような学校はみられなかった。どこでも申し合わせたように文化的なクラブ、科学的なクラブ、体育的なクラブ、家庭的なクラブ、芸術的なクラブが含まれている。子どもたちの興味の追求を集団で行なえるクラブが学校規模や児童の実態に即して設置されているといえよう。

(2) 児童の意識の分析と考察

わたしたちは日常、クラブ活動を、真に・子どもたちに期待される楽しい時間にしたい。

・学年学級をこえた集団の中で、ひとりひとりが自信をもって活動する時間にしたい。・集団の中でひとりひとりが新しい自分を発見し、個性や能力を充分に伸ばす時間にしたい。と願いながら指導している。しかし、その願いは満足のできる段階にまで達しているだろうか。達していないとすれば、その原因はどの辺にあるのだろうか。それらを知る1つの手だてとして、次のような実態調査を試みた。以下、結果と考察のみについて記す。

① 児童の意識 実態調査(51年9月、都内18校にて実施)

ア. 今はいっているクラブについて、現在どう思っていますか。

(ア) 楽しい 53% (イ) どちらとも言えない 36% (ウ) 楽しくない 11%

イ. その理由を書いてください。

「クラブ活動について」	(ア) 自分のやりたいことができるから	18%	} 64%
	(イ) いろいろな知識や技能が身についたためになったから	30%	
	(ウ) 他の科目ではできないようなことを勉強したから	16%	
	(エ) 自分のやりたいことができなかつたから	4%	} 36%
	(オ) いつも同じことばかりしているので 18% (カ) 時間がたりないので 7%	7%	
「クラブの友だちについて」	(ア) 友だちが協力的で親切であったから	18%	} 73%
	(イ) 自分の仲よしの友だちがいるから	22%	
	(ウ) 知らなかつた人とも友だちになれたから	33%	
	(エ) ふざける人、ふまじめな人がいるから	18%	} 27%
	(オ) その他(協力せずもんくを言う人、いばる人、嫌いな人がいるから)	9%	
「クラブの先生について」	(ア) 先生がいろいろなことを教えてくださるから	38%	} 75%
	(イ) 先生がいろいろ相談にのってくださるから	9%	
	(ウ) 自由に勉強させてくださるから	23%	
	(エ) クラブの先生が好きだから	5%	} 25%
	(オ) 先生がきびしすぎるから	4%	
	(カ) 先生が相談にのってくださらないから	6%	
	(キ) 先生がいらっしゃらないときが多いから	15%	

ウ. きょうは学校のつごうで、急にクラブの時間がなくなりました。

(ア) 残念だ64% (イ) 何とも思わない24% (ウ) 中止になってよかった12%

エ. 他の組や学年の人と活動して

(ア) 楽しかった56% (イ) 別に気にしない38% (ウ) いやだった6%

オ. クラブ員の名前は (ア) 全員わかる12% (イ) ほとんど56% (ウ) 少し32%

カ. クラブ活動で新しい仲よしが (ア) できた74% (イ) できない26%

キ. 教え合いや助け合いは (ア) 多い17% (イ) 時々51% (ウ) 少ない32%

ク. クラブ活動が (ア) 好きになった54% (イ) 不変37% (ウ) 嫌いになった9%

ケ. クラブ活動で工夫したいことが (ア) ある52% (イ) ない48%

コ. 自分から進んで活動するか (ア) いつも31% (イ) 時々61% (ウ) しない8%

サ. 楽しくできたか (ア) 楽しかった47% (イ) 時々42% (ウ) 楽しくない11%

② 分析と考察

資料を整理してみても最も強く感じたことは、児童の意識に学校差はほとんどなく、むしろ同一校内のクラブ間に差があることである。楽しい・楽しくないは、クラブによって画然としている。クラブが楽しくないと答えた児童が多いところは、いつも同じことばかりしている→ふざける人ふまじめな人がいる→先生が相談にのってくれない、時々来ない時がある→クラブ員の名前は少ししか知らない→教え合い助け合いはあまりなかった→工夫したことがあまりなかった→クラブでやっていることが嫌いになった→クラブが中止になってよかった、という意見が多い。楽しいという回答の多いクラブは、自分のやりたいことでいろいろな知識や技能が身についた→友だちができ仲よしになり協力できた→先生がいろいろなことを教え、相談にのってくれる→クラブ員はほとんど知っている→自分から工夫して進んで活動している→クラブが中止になると残念だ、という意見が圧倒的に多い。

ここで問われるのは、何と言っても教師の姿勢である。大部分の児童は「自分の好きなことで、他の教科では勉強できないようなことの知識や技能を身につける。仲よしの友だちを多くつくり協力して、工夫しながら進んで活動する」というクラブ本来のねらいを自覚している。また、このような欲求を強くもっている。教師がいろいろなことを教え、相談にのってやり、この欲求に応えるべく努力することが第一ではなからうか。活動内容に工夫をこらし、変化を与えること、人間関係を調整し、好ましい集団づくりに努めることが大切である。

この調査の個々のカードには、ここに集録できないような個人的な人間関係の悩みなども数多く記載されていた。これらをきめ細かくとり上げ、解決してやる工夫も大切である。

3. 実践事例

(1) ソシオメトリック・テストによる指導と考察(その1)..... A 校

① 本校の演奏クラブは、6年女児11、5年女児10、4年男児1、女児8の計30名で構成されている。9月の調べでは、別表①のように、6年全員と4年のほとんどからなる19名の第1下位集団と、5年だけで形成する9名の第2下位集団と、それに、各1名の周辺児と孤立児とに分かれた。

人数とか、構成員の男女比とかが、一応望ましいものになれば、好ましいクラブ活動の期待できる条件が整うと思われる。つまり、人数はもう少しほしいところだし、男女の人数比は極端に異なるし、加えて、孤立児も周辺児も厳として存在するし、さらに相互排斥もかなり見られるなど、指導を要する面は、かなりあるものの、救われる点もいくつか見られるのである。それは、下位集団が細分されることなく、いわゆる「きらわれ者」となる $I s s s = 0.3$ 以下の周辺児も、女の中のたったひとりの男で、ただ男だからとか、つき合いがないからとかで、グループを組みたくないとされたのがほとんどで、排斥した9名のうち、同級生は1名だけ、あとは他級や他学年であることを思えば、そう心配することもなからうし、いわゆる「人気者」とされる $I s s s 0.45$ 以上の者が、第1下位集団に5名、第2下位集団に3名計8名、つまり30名中約26.7パーセントいて、集団の中に人気者が少ないとか、偏在するとかしていないので、どんぐりかもしれないが、いわゆるボスは生まれまい。

そこで、この調べから得た資料を生かして、演奏クラブの持つクラブ活動における優位性、つまり、合奏を通して、クラブ員相互の連帯感や所属感を高め得る可能性を考え、合奏に至る過程で、小グループでの個々が満たし得るさまざまなものを期待して、孤立児の及中は、希望を入れながら、下級生だが気の強い河井から、上級生で $I s s s$ の高い海津・佐倉の2人に相手を変え、周辺児の山脇は、被排斥の琴石・佐竹、排斥の徳川・野田・保利から離し、 $I s s s$ の高い上級生、山口・神谷らと組ませたのである。ただ、山脇を排斥している熊井を、あえてこれと組ませたのは、たがいに特別な利害がある訳でなし、一種のテストケースの意味も持たせたのである。

これまで、指導観察中、孤立児は「孤立」を意識せず、周辺児も「楽しげ」にマイペースでパート練習に打ち込んでいたし、個々の練習ではワイワイガヤガヤの趣があったものの、合奏でまとめる段階になると、各自合わせることに努力し、熱中したので、そういう

子供たちの様子に半ばおんぶして、今まで活動を続けて来たのだが、その間全く無策だった訳でもないのに、それは(3)以降でふれることとしたい。

- ② 1月の調べ、別表②によれば、別表①の9月調べに似て、6年や4年のほとんどからなる17名の第1下位集団と、5年全員で作られる10名の第2下位集団と、周辺児1名、孤立児2名に分かれた。確かに、人数の構成や、形の上では、1回目とさして変わる所はないようである。

海津・山口・神谷・小田・河井などCRSの上位を占める子については、2回の調査の間に差異が認められないのに、9月にIsss 0.48の佐倉は、Isss-0.02の孤立児に転落してしまい、第1下位集団にいた琴石が周辺児に、人気者のひとりだった野本はIsss 0.48から0.12へ、先にあげた神谷も、CRSこそ変わらないが、相互選択の激減から、Isssは、0.62から0.19と著しく変わり、逆に、及中は、孤立児から第2下位集団へと仲間入りを遂げた。

相変わらず結束の固いのが5年生で、「人気者」は3人から6人へと倍増した。見ようによっては、なれ合いの感がないでもないがー。

山脇の被選択1が0になったために、かろうじて周辺児だったのが、孤立児になってしまい、被排斥も9から11にふえたのは、いかにも残念である。というのも、この調査をしたとき、別室で同時間帯に代表委員会が開かれており、両方に重なったものは、向こうがすんでからということで、作業開始は、全員一斉といかなかったのである。「組みたい人や、組みたくない人が別になければ、書かなくてもいいですか」と、山脇が聞くので、指導者が「そうね、仕方がないわね」そこへ熊井が入って来るなり、山脇を指して、「あの子、何て子だっけ」「好きなの?」「何さ、あんな子、ふん……」山脇と熊井が相互排斥となったのは、そしてこれは、多分に勘ぐりからだか、11も被排斥があったのは、この一幕があったからではなかったろうか。さらに、特筆できると思うのは、被排斥中の三栗の分は、「競争相手としてがんばりたいから」と理由づけられていて、先回の相互排斥とは、内容的に非常な違いを見せたことである。

新曲を手がけるときに、楽器群の編成は当然変わってくるし、必然的にパートも変わってくる。子供に過去はないという。きのうの敵はきょうの友ではないけれども、動いてどまるところを知らないのが子供の心であろう。調査の結果は至上のものではないけれども、とらわれる意味合いではなく、十分に活用して、よりよいグルーピングを目指したいと考えている。子供自身による開拓と、教師の指導とは、まさにこれからである。

資料マトリックス A 校 演奏クラブア男1人}計30人 基準「グループビング」 S.51928(火調) $Isss = \frac{1}{2}(N-1 + \frac{mc-mr}{d})$ 人名は仮名である。 N...成員数 d...選択排斥制限数

別表①	被選者	選者	第 一 第 二										被排斥	被排斥	C-R	選者	排斥	Isss																					
			海	山	神	小	佐	倉	野	河	德	野							田	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及
6	女	海	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	0	10	4	0	4	0.57	
"	"	山	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	0	10	4	0	4	0.57	
"	"	神	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	8	7	5	0	5	0.62	
"	"	小	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	6	6	2	0	2	0.30	
"	"	佐	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	5	0	5	4	0	0.48	
4	"	野	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	5	0	5	4	0	0.48	
"	"	河	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	5	0	5	3	0	0.38	
"	"	德	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	6	2	4	2	0	0.27	
"	"	野	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	3	1	2	2	0	0.23	
6	"	森	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	2	1	1	1	0	0.23	
4	"	保	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	2	1	1	1	0	0.12	
6	"	熊	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	5	0	3	0	3	0.30	
"	"	幡	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	2	2	0	2	1	0.10	
"	"	齊	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	1	1	0	1	0	0.10	
4	"	琴	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	2	3	-1	1	0	0.08	
"	"	佐	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	2	3	-1	2	1	0.08	
"	"	三	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	2	4	-2	2	1	0.07	
6	"	滝	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	5	9	-4	2	0	0.13	
"	"	堀	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	3	7	-4	1	3	-0.27	
5	女	安	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	9	1	8	5	1	4	0.53
"	"	飯	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	7	0	7	3	0	0.42	
"	"	水	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	7	1	6	5	0	0.60	
"	"	長	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	7	1	6	4	0	0.50	
"	"	牧	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	5	0	5	3	0	0.38	
"	"	深	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	7	2	5	3	0	0.38	
"	"	宮	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	3	0	3	3	0	0.35	
"	"	松	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	4	1	3	3	1	0.25	
"	"	青	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	1	0	1	1	0	0.12	
4	男	山	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	1	9	-8	0	2	-0.33	
5	女	及	津	口	谷	田	倉	野	河	德	野	森	保	熊	幡	齊	琴	佐	三	滝	堀	安	飯	水	長	牧	深	宮	青	山	及	孤	0	2	-2	0	0	-0.03	
選	斥	数	5	4	5	5	4	5	4	5	4	5	5	2	5	5	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	0	3	3	3	3	3	3			
排	斥	数	5	2	0	0	1	1	0	1	2	1	1	5	2	1	5	0	2	1	5	2	5	1	2	1	1	5	2	5	1	5	0	3	3	3	3	3	
計	78	計	76	計	10	計	10	計	10	計	10	計	10	計	10	計	10	計	10	計	10	計	10	計	10	計	10	計	10	計	10	計	10	計	10	計	10	計	10

別表②	選択者		第一グループ											孤山	被選択	被排斥	C-R	選択排斥	排斥相	ISSS																					
	被	選	山	海	小	河	神	德	野	保	森	幡	齊	熊	堀	野	本	竹	三		滝	飯	安	松	牧	長	水	宮	深	青	及	二	周	孤	山	被	選	排	相		
	者	者	海	小	河	神	德	野	保	森	幡	齊	熊	堀	野	本	竹	三	滝	飯	安	松	牧	長	水	宮	深	青	及	二	周	孤	山	倉	倉	倉	倉	倉	倉		
6	女	山口																																	11	0	11	3	0	3	0.49
"	"	海																																	10	1	9	4	0	4	0.56
"	"	小																																	6	0	6	3	0	3	0.41
4	"	河																																	6	0	6	3	0	3	0.41
6	"	神																																	5	0	5	1	0	1	0.19
4	"	德																																	5	1	4	2	0	2	0.27
"	"	野																																	4	0	4	3	0	3	0.37
"	"	保																																4	1	3	3	0	3	0.35	
6	"	森																																3	0	3	2	0	2	0.25	
"	"	幡																																2	0	2	2	0	2	0.24	
"	"	齐																																4	2	2	3	0	3	0.34	
"	"	熊																																	5	4	1	3	1	2	0.22
"	"	堀																																	5	4	1	3	0	3	0.37
4	"	野																																	1	0	1	1	0	1	0.12
"	"	佐																																	1	0	1	1	0	1	0.12
"	"	三																																	3	7	-4	2	0	2	0.13
6	"	滝																																	5	10	-5	1	0	1	0.03
5	女	飯																																	7	0	7	5	0	5	0.62
"	"	安																																	7	0	7	5	0	5	0.62
"	"	松																																	7	0	7	4	0	4	0.52
"	"	牧																																	6	0	6	4	0	4	0.51
"	"	長																																	5	0	5	4	0	4	0.49
"	"	水																																	4	0	4	4	0	4	0.47
"	"	宮																																	4	1	3	3	0	3	0.35
"	"	深																																	4	2	2	3	0	3	0.34
"	"	青																																	1	2	-1	1	0	1	0.17
"	"	及																																	1	1	0	1	0	1	0.10
4	女	琴																																	1	1	0	1	0	1	0.10
6	女	佐																																	1	0	1	0	0	0	0.02
4	男	山																																	0	1	-1	0	0	0	-0.02
"	"	脇																																	0	1	-1	0	0	0	-0.02
選	排	斥																																	計	79	計	74	計	2	
排	斥	数																																	計	48	計	37	計	1	

(2) 個人カルテによる指導と考察(その1)..... A 校

No. 1

クラブ活動個人指導カルテ

1. 演奏クラブ (孤立児から第2下位集団へ) 2・5年3組 及中真紀(男・㊦)

3.	学年	クラブ名	感想 (クラブ長とかリーダーとか)
	4	手芸	まあまあ
	5	演奏	とてもおもしろい
	6		

4. ことし、はいたりかったクラブ

第1	演奏, 好き	第2	体育, きたえる	第3	科学, 苦手
----	--------	----	----------	----	--------

5. 好きな教科

1	音楽	2	国語	3	算数
---	----	---	----	---	----

6. きらいな教科

1	体育	2	図工	3	
---	----	---	----	---	--

7. しゅ味, 得意なもの

ピアノ, 読書, 作文

8. けいこごと

珠算, 学習塾

9. 演奏クラブに入ったわけ(どれか1つに○)

- ()自分の好きなことができる (○)得意だから ()先生にすすめられたから
 ()苦手だから上手になりたい ()好きだから ()友達にすすめられたから
 ()仲よしの友達がいる……その名 ()ほかのよりはましだから

10. 指導の経過(対人関係-協力, 指導性, 協調性, 自主性, 創造性, 態度, 進歩……)

ひとりで黙って行動するため, 毎時間の友達との交流が見られない。指導者(音楽専科E教諭, 3年学級担任S教諭)にも, 自分のパートの楽器についてなどの必要時以外は近づかないが, 本人なりの努力はしている。

〔考察〕 好きで入りたくて入り, とてもおもしろいと言うのだから, 一応の充足感はあるが, それが独り遊び的でも, 本人は一向苦にならないらしく, 従って対人的に多分に閉鎖的であることが問題である。そこで前述の(2)の①のようなグルーピングを試みた訳で, 当時, 佐倉は排斥・被排斥共皆無, 海津は被排斥数0, 排斥数が5を示すものの, その中に及中は含まれておらず, しかも2人共高いI s s sを得ていることから, この2人の上級生にはさまれて, そこはかとなない交流が行われたり, 指導者の方からも, 練習中に, できるだけ声をかけたり, 他の子の, 良い意味での関心が, この子に対して抱かれるように仕向ける工夫を考えてみたい。

No. 2

1. (周辺児から孤立児へ) 2. 4年1組 山脇卓郎(男) 3. 演奏, おもしろい
 4. 第1希望 演奏, 好き 5. 音楽, 体育, 図工 6. 算数, 社会, 国語 7.8.なし
 9. 好き 10. 男児というだけで孤立しがち, 孤立させられがちであるが, 本人は, われ関せずで, 自分のパート練習に余念がない。

〔考察〕 この子の学校からの帰宅を, 母親は, 玄関の戸があく何十秒か前に知ることができ
 るのを常とする。それは, 毎日のように, この子が大声で歌いながら帰って来るからであ
 るという。自主学習(家庭学習)で, 度々, 音楽のワークブックをやってきたり, 自主学
 習ノートに, たて笛や鍵盤ハーモニカの練習とその時間を記録されていることも多い。と
 かく「音楽好き」なのである。(2)の①でも述べたように, ソシオに基づく一応の措置はし
 たけれども, もし, それが期待したほどの効果を現さなかったとしても, この子が,
 「音楽」や「演奏クラブ」をきらうようにはなるまい。だが, ただそれだけでは, クラブ
 活動の意味がぐんと薄れるのであって, 何としても, この子が自分の学級で得ている高い
 被選択度(基準は, 同じくグルーピング)には及ばなからうとも, この子の良さを, 他の
 子から知ってもらえるように仕向けなくてはなるまい。

No. 3

2. 6年1組 熊井由里(女) 3. 3年間「演奏」希望 感想 4年…初めてのクラブだ
 ったが, 6年生がやさしくて, とても楽しかった。5年…続けてやってみようと思った
 6年…とても楽しい 4. 第1希望 演奏 続けてみようと思ったから 第2希望 手
 芸 少しは手芸でもやらなきゃだめかなと思ったから 第3希望 書道 得意だから
 5. 国語, 算数, 社会 6. 家庭, 理科, 体育 7. 習字, 歌うこと 8. 習字, 進学塾
 9. 苦手だから上手になりたくて 10. 前記感想に「楽しい」とあるが, 落ち着かなくて
 協調性の不足が見られ, 好みでない楽器を与えられたときや, あきた?ときは, 歩き回
 って他のパートと話したり, 自分のパートの演奏部分が終わると, 楽器をしまったり,
 勝手な行動が多い。注意しても直らないが, 一心に演奏したこともあった。

〔考察〕 わがままな子で, どういう訳か, それで今まで通って来たようだ。この種の子は,
 往々にして, 学級担任の言うことしか聞かず, ほかの者が何か言っても, 返って来るのは
 返事ぐらいで, あとは適当に自分本位に取捨して聞き流し, 無視して平然としている。こ
 ういった子を批判する友が居るのは当然としても, 好く子もいくらかはあるので疎外はさ
 れていない。

(3) 活動記録の実践と指導(その1) A 校

クラブ員ひとりひとりに、右のような形式で、中	学年 組 氏 名
質紙4分の1大を1回分として記録させている。こ	月 日 ()
こで対象とするのは、11月2日、同15日それに	演奏曲目
同30日、12月7日、同14日の5回分で、以下	パート
2日、15日などと略称を用いることとする。	先生や友達から手助けを受けたこと
① 孤立児から第2下位集団への「及川」の場合	友達の手助けをしたこと
	感想

2日から30日にかけて3回共、友達や指導者から教えてもらっており、特に、新曲になってから2回目の30日の記載には、「6年の方が親切でわからない所を教えてもらった」とある。新曲を得た日である。感想としては、2日の電子オルガンの足では、「足がつかれるが、とても楽しい」15日テノールアコとなると「とてもいい曲だった」30日には「前よりよくひけるようになった」7日「とてもいい感じでよかった」14日「先生にもう少しでおいしい曲になると言われた」とあり、いかにも生き生きと活動している様子うかがえるのである。1月のソシオでただ1つもらった被排斥の理由が「日ごろの態度から」という手厳しいものであっても、同一パート内の上級生にうとまれもせず、指導者に励まされて、そのときそのときに生きがいを感じるならば、この子が、辛うじてではあるにせよ、第2下位集団につながっていることの意味もわかろうというものである。

② 周辺児から孤立児になった「山脇」の場合

友達の手助けは全然していない。いわゆるお呼びでないのであろう。15日、立奏用木琴は初めてということで、指導者から「たたき方を教わった」7日に「木琴を教わった」14日「木琴の階名を教わった」とあって、途中の30日は、一応独りでやっている。そこで感想だが、2日「ときどき失敗してしまって残念だった。」15日「初めてなので、あまりできなくて残念だった」30日「まだ、ずいぶんまちがえてしまう。もう少しうまくなければ。でも楽しかった」7日「まだ、だいたいまちがえてしまう。もっとうまくなりたい」14日「だんだんうまくなってきた。とてもうれしい」となっていて、毎回、張り合いを感じてやっていることが、学級担任としても、よく想像できるのである。資料マトリックスに現れた山脇は、まずは無惨。しかし、クラブという、いそいそと出かけて行き、ほおを火照らせて帰って来る彼。だれも、その彼に対して手を差し伸べようとはしないが、受容の気はあると思える彼に、今、連帯は望めなくても、楽器の演奏に没入できる幸せは十分あると言えよう。

③ 山脇と相互排斥となった「熊井」の場合

手助けは、したこともされたことも皆無。理由は簡単である。最初の記録は、「ピアダ
ルポルカ」のパートが笛で、演奏に休符の個所が多く、難曲でもないから。15日からの
「虹のあなたに」は、4年のときに、他のパートを経験しており、派手なメロディを好ん
だ子供たちが、クラブからの帰りしなに、ほかの楽器もちょこちょこまねていくことが
あったし、曲全体の感じは、すでにつかんでいたということで、演奏クラブ生えぬきの熊
井にとっては「新曲」でも何でもなかったのである。その感想。2日「前までゆっくりだ
ったけれど、今はとても速く上手にできたようだった。(基準のテンポで演奏できたこと)
15日(初めてだったけれど、うまくひけたみたい)(木琴としての意)30日「得意な
所になると速くなるので、これからは気をつける」7日「少しがんばり過ぎたみたいで、
速くなったりした。くたびれた」4日「デザートをつけた。自分としてはうまくいき、お
もしろかった。ハハハ!ハハハ!」と、こうだ。この子の言動を、ものの10分もよく
見ていただければ、この子ならばこう書くだろうと思われるのが、この「ハハハ!」である。
やりたい放題でも、だれがこわいかは知っていて、聞こえてまずいときは小声で、「へん
何だいくそじじい」ぐらい言いかねない。しかも、あねご気取りでポンポンやるのが受け
るのか、はみ出しそうではみ出さない。指導者としても、扱いあぐねているようである。

④ 被排斥の多い「滝花」の場合

30日、同じソプラノアコの4年保利に教えてやっており、保利は、それを多としてか
滝花を選択している。感想の方は、ほとんど「よくできた」で片付けており、まことにそ
っけない。そういう所が、他人の内部に立ち入らない、とは見られないで、「意地悪だ」
とされるのではなからうか。ちょっと見には、冷たく見えなくもない。

⑤ 人気者から孤立児へ転落の「佐倉」の場合

手助けは、したこともされたこともない。感想は、2日「初めの方で、やる所がないの
で、待っている間少しだらけてしまう」15日の新曲については、「のらくらした感じで
あまり迫力がなく困る」30日「入り方と終わりの方でよく分からない所があった」7日
「だいたいまともになった。もう少しやわらかくやりたい」14日「終わりの部分がどの
くらいの長さか、もう少しがんばろう」とあって、態度の急変は見られないので、多分友
達の気持ちさがったことに気付いていないのであろう。

⑥ 人気者の「山口」や「海津」の場合

ほめられたとか、やるぞとかいった式の記述が多く、さこそと思わせるものがある。

(4) ソシオメトリック・テストによる指導と考察(その2)

B 校

第1回(集団構造)マトリックス

(9)月(11)日実施

B校演劇クラブ 男5・女10・計15

被	応	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	C	R	CRS	mc	mr	mc - mr	備
		志田	高村	長谷	熊木	富田	間木	松井	加東か	加東み	渡井	三田	大田	安藤	石田	佐倉井							
1	六の女	志田	◎	○	◎		◎	◎		◎							6	0	+6	5	0	+5	前記書記
2	一の女	高村	◎		◎	○	◎	◎	○	○		×		×	×		8	3	+5	4	1	+3	後期副クラブ
3	三の女	長谷	○			○	◎	○			○	×	×	×	×	×	5	5	0	1	3	-2	前期クラブ
4	六の女	熊木	◎	◎	○		○	◎	◎								6	0	+6	4	0	+4	後期書記
5	五の女	富田							◎	○		×	×	×	×		2	4	-2	1	4	-3	
6	二の女	間木	◎	◎	◎	◎		○				×		×	×	×	5	4	+1	4	2	+2	前期班長 後期クラブ
7	七の女	松井	◎	◎		◎	○		○	○		×	×	×		×	6	4	+2	3	0	+3	前期副クラブ 前期班長
8	八の女	加東か		○		◎			◎	◎							1	0	+1	3	0	+3	
9	九の女	加東み	◎		○	○		○	◎	◎							6	0	+6	3	0	+3	
10	十の女	渡井					×	◎	◎			×	×	×	×	×	2	6	-4	2	1	+1	
11	十一の男	三田		×	×	×	×		×	×			◎	◎	◎	◎	4	6	-2	4	3	+1	
12	十二の男	大田		×	×	×	×		×	×	×	◎		◎	◎	◎	4	7	-3	4	2	+2	
13	十三の男	安藤		×	×	×	×		×	×		◎	◎		◎	◎	4	6	-2	4	1	+3	
14	十四の男	石田	×	×	×	×			×	×	×	◎	◎	◎		◎	4	7	-3	4	4	0	
15	十五の男	佐倉井		×	×	×	×		×	×		◎	◎	◎	◎		4	6	-2	4	1	+3	
選 択 数 計			5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4						
排 斥 数 計			0	1	5	5	5	5	0	5	5	2	5	5	5	5	5						

このマトリックグラフを見ると、周辺児、孤立児がひとりもない。集団として大変まとまったグラフに見える。ところが、志田を中心とした女子グループと、安藤を中心とした男子グループとが、はっきり区別されているのに気づく。6学年ともなると、子どもたちは、異性を意識してか、ちょっとしたことでも、やたらに反発し合っているのをよく見かける。

このグラフも、それをあらわしているようである。

第1回目の活動の日である。演劇クラブに入って来た子は、グラフの示す通り、全員6年生である。全員6年生だから、名前ぐらいは、お互い知っていると思っていたが、「お前だれ?」「名前知らないなあ。」の連発である。そこで、わたしは、何をするにも、まずお互いを知る

ことが大切と考え、①入部動機、②演劇の経験、③クラブでやっていきたいもの、の3点について、自己PRを含めて、話すよう助言し、ひとりずつ発表させた。「みんなと劇をやりたい」という、クラブへの意欲は見られたが、男子5人が、やや傍観的態度である。しかし、お互いを知る上で、役に立ったようである。次回は、役員を選出をしようと約束をし、解散した。

第2回目、役員選出の日である。

ひとり立候補者が出た。長谷(男全員に排斥されている)である。「クラブ長になって、みんなと劇を作りたい。」堂々といい切った。男の子は反対したが、女の子の支持で、クラブ長になったのである。その後、大田、三田、石田の3人は、長谷の言動をとらえては、批判の言動をやっていた。長谷が女だからというのではなく、長谷その者の性格か、態度が気に入らないらしい。ソシオで調べると、やはり互いに排斥の仲だったのである。しかし、長谷の司会で、前期の活動が進められ、みんなの話し合いで、15人が7・8と、名簿の順に奇数番号と偶数番号に機械的に分かれ、男女混合グループで、SFものを創作することになったのである。

第3回目、奇数番号の班は、間木(相互選択4, 相互排斥2)を、偶数番号の班は、松井(相互選択3, 相互排斥0)を選び、劇の筋書きの話し合いに入ったのである。みんなで選んだ班長のせいかな、時折り男子は遊んでいたが、班長が強くよびかけると、仲間に入り、割合、筋の通ったSFものを仕上げたのである。どうも、今考えると、男子は班長のそばに座るよう助言したことが、班の協力につながった感じがする。

第8回目、2班のうち、どちらかを学芸会に出すことに決めた日である。

両方の発表の結果、偶数番号班のものにきまった。しかし、偶数番号班の人だけで発表するのではなく、奇数班の人も、偶数番号班のものに肉付けして発表したのである。その時、安藤、三田の二人はすすんで、「ほくたちは、照明係をやります。」といったのである。

今まで、無意欲で、批判のみ多かった男子に、協力の芽が出てきたのである。

その現われが、第2回ソシオにある大田(R7からR5へ減少)、大田と熊木が相互選択している。三田、安藤、石田の女子への排斥の人数を1人減らしている。佐倉井などは、排斥数0である。これは、何を意味するのであろう。

わたしは、発芸会発表という緊張した場面があったこと、それに、偶数班の劇を学芸会に出すことになったのであるが、全員で、その劇をよりよくするよう、みんなで考え合って、自分の役割りを真剣に守りぬいたことだと思ふ。

しかし、まだまだ、女子グループ、男子グループの間の厚い壁が横たわっていることは、おぼえていきたい。

第2回(集団構造)マトリックス(1)月(17)日実施

B校演劇クラブ 男5・女10・計15

被	応	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	C	R	CRS	mc	mr	mc - mr	備考
		志田	高村	長谷	熊木	富田	間木	松井	加東か	加東み	渡井	三田	大田	安藤	石田	佐倉井							
1	六の女	志田	◎	○	◎	◎	◎	◎	○	○							7	0	+4	4	0	+4	前期書記
2	一の女	高村	◎		◎	◎	◎		○	○							7	0	+4	4	0	+4	後期副クラブ長
3	女	長谷	○		○	◎	◎			○	×	×	×	×			5	4	+1	2	4	-2	前期クラブ長
4	六の女	熊木	◎	○	○	◎	◎					◎					6	0	+6	4	0	+4	後期書記
5	の女	富田							○		×	×	×	×			1	4	-3	0	4	-4	
6	二の女	間木	◎	◎	◎	◎	○	◎			×		×	×			6	3	+3	5	1	+4	前期班長 後期クラブ長
7	女	松井	◎	◎	◎	◎	◎										5	0	+5	5	0	+5	前期副クラブ長 前期班長
8	六の女	加東か	◎	○				×	◎	◎		×					4	2	+2	3	1	+2	
9	三の女	加東み	○	○				×	◎	◎		×					4	2	+2	2	1	+1	
10	女	渡井			○			◎	◎		×	×	×	×			3	4	-1	2	4	-2	
11	男	三田		×	×			×	×	×		◎	◎	◎	◎		4	5	-1	4	3	+1	
12	六の男	大田		×	◎	×		×	×	×	◎		◎	◎	◎		5	5	0	5	5	0	
13	の男	安藤		×	×			×	×	×	◎	◎		◎	◎		4	5	-1	4	3	+1	
14	四の男	石田		×	×	×	×	×	×	×	◎	◎	◎		◎		4	7	-3	4	4	0	
15	男	佐倉井		×		×		×	×	×	◎	◎	◎	◎			4	5	-1	4	0	+4	
選択数計		5	5	5	5	5	5	5	3	5	5	4	5	4	4	4							
排斥数計		0	0	5	1	4	2	2	5	5	5	4	5	4	4	0							

(5) 個人カルテによる指導と考察(その2)

B校

1.....2年連続で演劇クラブを希望した児童の場合

1. クラブ名 演劇クラブ 2. 6年3組 加東かず子(男・♀) 双生児

3. クラブ歴 4. 今年度入部したかったクラブ

学年	クラブ名
5年	演 劇
6年	演 劇

第1	演劇	第2	料理	第3	むかしあそび
----	----	----	----	----	--------

5. 好きな教科 図工(絵)
6. きらいな教科 算数, 社会, 理科

7. しゅみ・特技 自分で絵をかくこと

8. けいごと 学習塾

9. 今のクラブにはいったわけ。(どれか1つに○)

(○)自分の好きなことができる。()先生にすすめられた。

()好きな友だちが、はいったから→その人の名_____

()友だちにすすめられた。()にがてだからできるようにしたい。

10. 指導の経過(対人関係-協力-指導性, 協調性, 自主性, 創造性, 態度, 進歩)

$\frac{10}{28}$ 大道具作成中, ダンボールを粘着テープで接着したところが, どうしても, オーナメント

トカラーがのらない。その時である「マイベットのオーナメント水溶液にたらすと, 色はきれいにのるわよ」と自信ある発言。それもそのはず, 去年演劇クラブで経験していたのである。あの時, みんなが驚嘆し, 加東の喜びは忘れられない。

$\frac{1}{17}$ 「花じいさん」の役をみんなで決めていく時である。男役である役人を, すすんで希望対立候補, 安藤(男)がいたが, どうしても, この役をやると主張, とうとうジャンケンでその役を得る, 根気のよさを見る。

[考察]

2年連続で演劇クラブを希望しただけに, 大へん熱心である。しかし, みんなの前に出て, クラブをリードするようなことはしない。地味である。でも, 一旦活動が始まると, あきずによくやる。加東かず子, 加東みどりは双生児である。ソシオで示すように, 相愛関係であり, また, みどりも, 2年連続で演劇を選んできている。かず子の行動の支えに, 妹のみどりがいたことを忘れられない。

№. 2……………毎回意欲的に取り組む児童の場合

1. クラブ名 演劇クラブ 2. 6年2組 熊木玲子(男・♀)

3. クラブ歴 4. 今年度入部したかったクラブ

学年	ク ラ ブ 名
5年	バドミントン
6年	演 劇

第1	演劇	第2	バレー・バスケット	第3	音楽
----	----	----	-----------	----	----

5. 好きな教科 6. きらいな教科

算数, 体育, 音楽 理科, 社会

7. しゅみ・特技 8. けいこごと

切手 ピアノ, 塾

9. 今のクラブにはいったわけ(○のついたもの)(○)自分の好きなことができる。

10. 指導の経過

$\frac{5}{24}$ 1学期の活動内容をきめる時, 玲子の提案「SFもの」が受け入れられ, SFものがある劇を各班毎に作ることになった。

6/21 松井(班長)を助け、台本作りに取り組む。「こんなふうにつくってみたい」「それじゃおかしいわ」と筋をまとめる発言をつねに連発、いいすぎると、「そうね、それでいいわ」と素直にあやまっている。

11/29 後期書記にすすんで立候補、前期書記と真剣な引継ぎを行なう。

1/17 後期使用の台本作りの日である。印刷がうすいため、各自えんぴつで直すことになったところが、男子全員、筆記用具がない。すると、そくざに「わたしの筆箱からとってもいいわよ」と心暖まる発言をする。

玲子の姿勢は、つねに前向きである。ただ、発言のうらに、なくてはならない配慮が不足がちであった。そこで、「準備は?」「つぎはどうすすめる?」と玲子の発言をよりふくらませる指導に心がけたのである。

何のくったくもない、純真な発言、これが、クラブ全体を明るく、前向きのクラブにしていったのである。

16. 3

1. クラブ名 演劇クラブ
 2. 6年4組 石田喜久男(男・女)
 3. クラブ歴
 4. 今年度入部したかったクラブ
- | | |
|----|------|
| 学年 | クラブ名 |
| 5年 | 模 型 |
| 6年 | 演 劇 |
- | | | | |
|----|----|----|----|
| 第1 | 料理 | 第2 | 演劇 |
|----|----|----|----|
5. 好きな教科
 6. きらいな教科
- 音楽 国語, 算数, 理科, 社会, 図工
7. しゅみ・特技 (なし)
 8. けいこごと (なし)
 9. 今のクラブにはいったわけ(○のついたもの)(○)友だちにすすめられた。
 10. 指導の経過

10/28 体育館での学芸会のための練習に顔を出さない。忘れたいらしい。

11/1 第2回目の学芸会のための練習に遅刻、ふてくされて練習する。

11/9 学芸会, 当日, 退場の際, 観客へピースを出す。

11/24 後期の活動をきめる話し合い中、「ふざけては、注意され」のくり返しである。

12/13 どの脚本にするか、ひとりずつ推せん図書の紹介をする日だが、本はあっても、内容がちっとも話せない。

1/17 台本を決める日、台本が印刷され、みんなに渡されたけど、じっくり落ちついて読まない。すぐあきて、外を眺めたり、友だちに話しかけたりしている。

[考察] (72ページ1~12行参照)

(6) クラブ活動記録の実践と指導(その2).....B 校

ソシオ・カルテを通し、ひとりひとりを生かす指導が重要なのは、いうまでもないが、1つのクラブが、教師の助けを得ながらも、自分たちの手で、クラブを運営しているのだという意識を育てるには、これから述べる活動記録が大切なのである。

〔活動記録例〕

演劇クラブ活動記録

第4回 10月25日(月)		記録者(志田)
活動したところ	初めの話し合いで出た意見	みんなで活動したこと
	○各班で1回練習する(20分)	○3の3と3の4に分れて練習(20分)
	○1班は、2班に見てもらい	○3の3で行う。(20分)
	2班は、1班に見てもらい	○3の4で行う。(20分)
	○どちらの班がよかったか3の4の教室で、話し合いをする。	○3の4で話し合う。(15分)
○どちらの班か決まったら、その班が、もう1回改めて、みんなに見せる。	○2班がやった劇を出すことにきめる。	
反省	終わりの話し合いで出された意見・感想	
	(1班) あまり練習してない。台本を見てやっている人がいる。移り変りが多すぎる。	
	(2班) あまり練習してない人もいたが、おもしろい。棒読みでない。	
	(これからのこと) 2班のを学芸会に出すけど、全員が出られるように人数を多くする。	
次の予定	○ 体育館で劇の練習をする。 ふえる役、語り手、ひとり。 放課後の掃除の時、出る生徒数人。 キュービット、3人。照明係ふたり。効果係ひとり。	
先生のお話	(1班へ) 準備が足りない(キャッチボール用のボール)(体育着) (2班へ) 所要時間が短い。(もの足りない)対話をたくさん入れる。 一致協力があって、はじめて学芸会へ作加できる。そのつもりで、これからの計画に本腰を入れよう。	

〔考察〕

クラブの時間の活動の流れがはっきりするし、次回のクラブの時、前回の記録を読み上げ、クラブに入ると、ひとりひとりのクラブ参加姿勢が変わるのである。

ソシオにあらわれたように、1・2回とも、女子7人に排斥されて、集団における、石田の位置に変容がない。これは、指導の経過に書いたように、毎回、クラブ員にめいわくをかけていることが大きな原因のように思われる。事実そうなのである。

学級担任に事情を話すと、石田は家庭に問題があり、彼の家庭における位置づけができてないことがわかった。これからの指導は、男子集団の中で、石田に、何か1つでもよい真剣に取り組んだ姿勢が見られた時、クラブ員全員にしらせ、みんなのものにして行き、一方では、彼が集団を乱す行動に出た時は、自分で、自分の行動に反省すべきところがあることに気づかせる助言を繰り返して行き、石田をクラブ集団からはみ出させない努力が非常に大切だと思う。

クラブ時間の運営についての配慮が、クラブをおもしろくも、つまらないものにしてしまう。この点、役員計画に対する配慮が、石田を落ちつかせる、キーポイントであると思う。

(7) 個人カルテ作成の一例とその使用法……………C 校

50年度(第12集)のクラブ活動個人カルテを参考にして、児童記入用と教師記入用の2種類に分けた。その理由として、①児童が直接記入できることがらは、児童に書かせるほうが能率的であり教育的である。②教師が記入(指導の経過)した内容を児童に見せなくてすむからである。そして、1枚のカードを4・5・5年と3年間継続して使用することにより、クラブ歴や活動歴などを指導教師が把握することができるようにした。児童自身も、学期はじめと学期末に個人票を見直すことで、クラブ活動に対する意欲づけをはかることをねらった。

ア. クラブ活動個人票(八つ切画用紙半折)……………74ページ参照

学年はじめにクラブの所属が決定したあと、学級担任の指導で1・2・4・5・6と3の「はいりたかったクラブ」を記入させる。次に個人票をもってクラブに参加して、3「クラブ名、役割、先生」に記入して指導教師に提出させる。7は、学期末に各クラブで反省する時間に記入させる。

指導教師は、この個人票を児童の気持ちをつかむ手がかりとして利用する。特に「はいりたかったクラブ」で、第二・第三希望ではいった児童をチェックして、活動意欲を高めてやるような助言指導を配慮する。

イ. クラブ活動指導票(八つ切画用紙半折)……………75ページ参照

学期はじめに、学級担任が「担任」のらんを記入して指導教師に渡す。内容は、特に

指導上留意する必要があると思われる事項（例えば、性格や行動の長所・短所、身体状況、くせなど）である。指導教師が児童ひとりひとりに適切な指導助言ができるような資料を提供することをねらいとする。

学期末に、指導教師が「記録・評価」のらんじんに記入して学級担任に返す。内容は、特に目だった活動・行動や今後伸ばしたい点などを中心にする。

ウ. クラブ反省カード（八つ切画用紙半折）……75ページ参照

毎時間クラブ終了時に、児童がその1時間を反省して記入する。これをもとにして、「クラブ活動個人票」の7「活動の記録」の自己評価をさせると、その場の思いつきによる自己評価をふせぐことができる。また、「クラブ活動指導票」へ記入するときの資料としても活用できる。

個人カルテの使用をとおして

① ひとりの児童を学級担任とクラブ担当教師で観察することにより、児童理解が深まりいっそう適切な指導をくふうすることができた。特に問題の多い児童や目だたない児童について、カルテの内容をこえた連絡をとりあえたのもカルテを使用した効果であった。

② ひとりひとりの児童の指導とともに、クラブ内の人間関係づくりにクラブ担当教師の目が向いてきた。とかく技能面の指導に力を入れがちだったが、個人票にクラブ内の友だちを記入させるねらい（学級外での人間関係づくりのひとつとしてクラブ活動をとらえ、楽しいクラブ活動にするためにもクラブ集団の人間関係を強める必要がある）を理解してもらうことで、担当教師が集団づくりにも努力するようになった。

③ 児童自身も、クラブ活動をとおして新しい友だちをつくっていきたいせつさに気づいてきた。共通の興味・関心を追求していく活動はお互いの心を強くつなぎあわせることになり、その連帯感がまたさらに自分たちの活動を楽しく豊かなものにすることを意識するようになってきている。

④ 個人票と反省カードの記入により、児童は自分の一日一日の活動をたいせつにするようになってきた。そして、学期末の反省（活動の記録への記入）も反省カードをもとにして自己にきびしい内容になってきている。自己評価のできる児童を育てるうえで有効な指導と思える。

⑤ 個人カルテを窓口として、学級担任とクラブ担当教師の連けいが密になった。クラブでの活動のようすを担任がよく理解していることが、児童への励みになるとともに担任と児童の人間関係を深めるのにも役立った。

クラブ活動個人票

1. 性別 男・女

2. 氏名ふりかな

3. クラブ歴

4. 今のクラブに

はいったわけ

(1つに○)

5. しゅみ・特技

おけいごと

7. 活動の記録(特

にがんばったこ

と、勉強になっ

たこと)・反省

(A満足できた

Bふつり, C不

満だった)

年	4	5	6
組			
担任			

年	クラブ名	役割・係	先生	はいりたかったクラブ		
4				1	2	3
5				1	2	3
6				1	2	3

わけ	4年	5年	6年
自分の好きなことができる			
にがてだからできるようにしたい			
たのしそう おもしろそう			
友だちにすすめられた			
家の人にすすめられた			
先生にすすめられた			
好きな友だちがはいった(その名前は)			

年	しゅみ(スポーツ)	特 技	おけいごと
4			
5			
6			

年	はいる前からの友だち	はいつてからの友だち
4		
5		
6		

年	1 学 期			2 学 期			3 学 期		
4	A	B	C	A	B	C	A	B	C
5	A	B	C	A	B	C	A	B	C
6	A	B	C	A	B	C	A	B	C

クラブ活動指導個人票

1. 児童名

年	組	クラブ名	指導者名
4			
5			
6			

2. 指導の記録

年	1 学 期	2 学 期	3	
4	担 任			
	記 録・評 価	計画性 A B C	A B C	A B C
		創造性 A B C	A B C	A B C
		協調性 A B C	A B C	A B C
		遂行性 A B C	A B C	A B C
5	担 任			

() クラブ反省カード 班 年 組 氏名 ()

自分のめあて

月/日	よふ努力したかったら	協力しなかつた	少ふさげませんでした	自分のこと、友だちのこと、クラブ全体のことなどについて、反省をかく。 (よくやったこと、次にはなおしたいことなど)
/	A B C	A B C		
/	A B C	A B C		
/	A B C	A B C		
/	A B C	A B C		
/	A B C	A B C		

今学期の反省

- よくがんばったこと
- 勉強になったこと
- 次の学期にやりたいこと

4. 研究の反省と今後の課題

(1) 研究の成果と反省

本年度は「個人カルテ」を中心に「ソシオ」「活動記録」を使い、個々の児童の特性・意識の理解と指導に重点を置いて研究した。特に周辺・孤立児への手だてに力を注いだ。

クラブの実施状況や児童の意識は共通の内容・形式で実施し、24校の実情がわかった。来年度以降のクラブ実施への示唆となろう。

実践事例では、ソシオ、個人カルテ、活動記録等で個々の児童の心や動きを浮きぼりにしたことが理解できよう。

個人カルテは、モデル形式をもとに、各学校やクラブの実態に即して創意工夫して積極的に実践化に努められたことが印象深い。活動記録についても同様である。

ソシオもテキストで研修し、数校で実践された。本集録では紙数の都合で2枚分に止めたが、来年度からはさらに多くの学校での実践化が期待される。ただし、クラブ活動なるが故の活用の限界や問題点は心して取り組まなければならないことを肝に銘じておきたい。

(2) 今後の課題

「個人カルテ」の「指導の経過」らんの記入上の観点に、対人関係・指導性・協調性・自主性・創造性・態度・進歩を設けたが、実践の中でこれを検証したい。また、記入内容・方法（記号化等）・スペース・紙質・保管保存の方法や期間等、よりよいものを考案したい。

「活動記録」には、個人用・グループ用・クラブ集団用等があり、毎回記録用・特定時期記録用等がある。個・集団向上のため、何をどう使うかをよく考えて実践したい。

さらに、クラブ担当と担任との連繫強化のあり方も個の理解指導評価のため研究したい。

ひとりひとりが喜ぶクラブを求めて3年、どうやら結論らしきものが出た感がある。今後は実践あるのみ。さまざまな阻害条件を克服し、意欲的・創造的にその実践化に努めたい。

(3) おわりに

目を日本の将来や世界に向けたとき、余暇時間の増加は切実な問題であり、生涯教育の立場からもクラブ活動の意義は大きい。ここでドイツ社会教育のクラブ活動の改善の視点をあげる。① おもしろいか（興味） ② だれでもできるか（簡易性） ③ みんなでできるか（協調性・協力） ④ できるだけ同条件か（平等性） ⑤ 考えてできるか（創造性）

各学校のクラブ活動の組織・運営を考えるヒントにしたい。

熱心に参集された幹事の先生方、適切な指導助言を頂いた大石勝男先生に深く感謝しつつ。

Ⅳ 学 級 指 導

テーマ 「発達段階に応じた学級指導のあり方」

1. ま え が き	79
2. ひとりひとりの問題として学習主題をどう位置づけるか	80
3. 人間関係を大切にした学級指導のあり方	81
(1) "おたがいの長所をたたえ合う学級"	81
(2) "友だちの心を大切にする"ということに気づかせる	83
(3) "集団の中の個"という意識を高めるまで	85
4. 学年の発達段階を配慮した指導計画	87
5. 全校体制のもとで、ひとりひとりを生かす学級指導	90
6. 実 践 事 例	93
(1) 主題「整理・整とん」(3年)	93
(2) 主題「班長と班員のあり方を考えよう」(6年)	95
7. 研究の反省と今後の課題	98

○ 研究の経過

- 5 1. 6.1 7 (木) 定期総会后, 組織づくり, 研究主題の検討
- 5 1. 7. 5 (月) 研究主題の決定, 各区各校の現状分析, 研究の方向づけ
研究計画の検討, 各校の指導計画の比較研究
- 5 1. 9.1 6 (木) 学校・学級生活への適応指導に関する指導事例の検討
- 5 1.1 0.1 5 (金) 学校・学級生活への適応指導に関する指導事例の検討
- 5 1.1 1.2 6 (金) 研究授業「整理・整とん」
(文京区立柳町小 3年 吉仲ミチ子教諭)
- 5 1.1 2.1 4 (火) 研究授業「班長と班員のあり方を考えよう」
(豊島区立西巢鴨小 6年 橋本 肇教諭)
- 5 2. 1.1 3 (木) 研究のまとめ, 研究集録のプロット検討
- 5 2. 2.2 5 (金) 研究発表の要項検討, 発表の分担, 準備

○都立教育研究所 指導主事 時松 茂親先生に3回にわたってご指導をいただいた。

研究・執筆者名簿

部 長	安岡 正凱	練 馬・光 和 小		岩崎 博	墨 田・二 葉 小
副部長 (司 会)	新倉 剛	世田谷・太子堂小	(発表者)	小林 晃	江 東・元加賀小
副部長 (発表者)	水野 稔	立 川・大 山 小		長沢 静	江 東・第三砂町小
副部長 (記 録)	野々村勝男	文 京・柳 町 小		佐野 伝七	品 川・鮫 浜 小
副部長 (記 録)	鈴木 和子	港 ・白 金 小		菊地貞次郎	世田谷・松 原 小
	宮崎 和敬	中 央・泰 明 小		橋本 肇	豊 島・西巢鴨小
	瑞秀 政裕	中 央・十 思 小		池田 マス	板 橋・常盤台小
(司 会)	重松 誠	港 ・高輪台小		慶田 尚子	江戸川・西小松川小
	箱崎 重徳	文 京・青 柳 小		仲二見洋子	立 川・立川第六小
	吉仲ミチ子	文 京・柳 町 小		中村 みち	武蔵野・大野田小
	斉木 秀夫	文 京・窪 町 小		森山 裕夫	三 鷹・井 口 小
	田中 三郎	台 東・石 浜 小		笠井 久枝	狛 江・狛江第五小

1. ま え が き

(1) 研究主題について

学級指導が教育課程として位置づけられてから、現場では、指導内容を指導計画に配列したり、時間設定に努力を重ねてようやく定着化してきた。本研究部でも、学級指導の特質についての研究から始めて、学級会との関連、道徳との関連、効果的な資料の活用と研究を進めてきた。昨年度は、生活指導上の諸問題を中心に主題化のくふうをはじめ具体的な指導法について追求してきた。

「ゆとりある学校生活」が叫ばれている昨今である。この「ゆとり」は、単に、時間的なものでなく、児童ひとりひとりが生かされ、学校・学級生活において生き生きとした集団活動が展開される時に、児童に「ゆとり」が実感として受けとめられるであろう。この意味で学級指導の果たす役割は一層大きいと言えよう。

学級指導がお説教の時間になってしまうことは最も戒められることである。学級指導は、児童ひとりひとりが問題を意識し集団活動を通して児童自身が問題を考えるように展開されなければならない。このような指導は、児童の実態・発達段階をよく見つめて、それに応じたくふうが図られることが大切である。たとえば、清掃に関する指導も、清掃当番がうまくできるように役割分担を明確にしてやったり、手順を細かく指導することだけでは、学級指導の特質を生かした指導とは言えない。

以上の考えから、本年度は、「ひとりひとりを生かす」という大テーマを受けて、「発達段階に応じた学級指導のあり方」という研究主題を設定した。

(2) 研究への取り組み

昨年度は、①主題化のくふう ②効果的な資料の扱い ③学級指導の全校化、以上の3点を視点として「生活指導上の諸問題」をとりあげる場合について研究を進めた。しかし、現実には、低学年から高学年になるにつれて学校生活における望ましい生活習慣がくずれてくる傾向も見られる。そこで、本年度は、学校・学級生活への適応に関する指導を研究の中心として、集団と個の関係を追求しようと考えた。

つぎに、指導の展開に当って、最も大切なものは問題の意識化である。発達段階に応じてどういう問題をどのように意識づけたらよいか。このことを第2の視点として、どのような主題をどう指導するか。実際の指導を通して研究を進めることにした。

2. ひとりひとりの問題として学習主題をどう位置づけるか

今年度も、昨年に引き続いて、生活指導上の諸問題を取り上げ、特に適応指導を中心に学級指導のあり方を研究した。昨年度は、日常生活上の問題をどのように主題化するか、授業ではどんな資料を活用したら効果的であるかを、具体的な実践事例を通して研究し合った。実はその過程で問題となったのが、学年段階に応じた指導をくふうしなければその授業の効果は半減するだろう、ということだった。これが今年度の取り組みのきっかけとなったものである。

(1) 発達段階に応じた学習主題の設定

例を清掃指導にとってみよう。低学年では主として「清掃の順序」や「ほうきの持ち方」「ぞうきんのかけ方」「用具の移動や始末」などが学習主題となろう。また中学年では「ぞうきんのすすぎ方・しぼり方・かけ方」「清掃の分担と責任」等、きめ細かな指導がとり上げられることが多い。ところが高学年となると、指導計画としては、「身のまわりの美化」とか、「清掃用具の整備・補修」「能率的な清掃のあり方」といった学習主題が考えられるが、なかなか徹底しない。むしろ清掃の仕方も、分担もかえってへたになっていく場合が多い。これは、主題化の段階で考慮しなければならないことで、清掃をよくするためには、骨惜しみをしないような心情を持つ主題を設定するとか、男女協力のすばらしさを具体的に指導することによって清掃態度を変容させていくように配慮しなければならないと考えた。

同様に、「あいさつの仕方」も「言葉づかい」も「廊下の歩行」も、高学年になるにつれて、別の角度からの指導のきりこみを考えなければならないと思う。「手をよごそう」とか「仕事を見つけて身軽に動こう」といった主題で清掃態度を変えて行った実践が生まれ「班長と班員のあり方」といった一般的な生活問題を指導することによって自発的・協力的な清掃態度が育っていった事例も紹介された。これらは、発達の段階や、その学級や学年・学校の実態に応じて、学習主題の設定を工夫したよい事例と考える。

(2) ひとりひとりの問題として意識づけるために

学習主題を、(1)に述べたような観点で主題化することは特に肝要と考えるが、中高学年になればなる程、これらの問題は、技術論では解決がつかなくなってくるのではないかと考えている。子どもたちの行動の意義を、具体的な状況のかかわりの中で考え、成員間のコミュニケーションを常に配慮することによって、ひとりひとりの児童にとって自分の問題として意識づけることが可能となろう。道徳の授業とは違った次元で道徳性の指導にとりくまなければならないわけである。

3. 人間関係を大切にした学級指導のあり方

(1) おたがいの長所をたたえ合う学級

学級はひとりひとりの異なった個性が寄り合って一つの目的を志向する集団である。そこでの人間関係は複雑であり、多様である。この人間関係は思考の多様化、感情の多様化の世界である。そしてこの関係は時として学級集団の傾向を支配しかねない。

目的に向かってひとりひとりが生かされ、そしてなお、集団が向上する好ましい人間関係が求められるのはそのためである。わたしたちは、好ましい人間関係の条件(仮説)を次のように考え、実践を通して実証的に追求することにした。

① 好ましい人間関係の条件

- おたがいが認め合う。
- おたがいの長所を発見し、たたえ合う。
- 向上するために助け合う。
- 教師の指導方針。

ア. おたがいが認め合う

低・中・高の発達段階でいろいろと差があるが、おたがいの特徴(長所・短所)を理解し合い、支え合うことが大切である。さらに、家庭環境についても理解し合えることが望ましい。特に、身体的欠陥「鼻たらし」「びっこ」「でぶ」等々、相手を傷つけることをいうことは、教師の十分な配慮と指導が必要である。

イ. おたがいの長所を発見し、たたえ合う。

友だちのよい点や、すぐれた点を見つけ、拍手が起きる学級、このような学級こそ、ひとりひとりが認め合った集団であり、のびのびとしたふん囲気の学級である。

わたしたちは、一定の行動目標から子どもをはかる。そのような場合、いつもその消極面の指導に追われているのが現状である。ここで発想を思いきって転換し、長所というか積極面をはっきりと認め、それを高める努力をどうするか、さらに長所をふやすにはどうすべきかということ子どもに考えさせ工夫させる方がよいと思う。

学級指導の中では、結果として、優秀児のためのわずかばかりの子どもの成長を促す指導であってはならない。従来の指導が反省を厳しくさせる過程で、長所を見逃しがちであった。もちろん、そのような方法でもすばらしい成果が挙げられている例も少くはない。しかし、そのためにはそれなりの好ましい人間関係が確立されているからである。

わたしたちは、好ましい人間関係をどう確立するかというとき、積極面をたたえ伸ばす方法を大胆にとり入れたいと思う。よい点がすばらしくよくなり、その傾向が多くなればなるほど、わるい点はかすんで見えるものである。

ウ. 向上するために助け合う

友だちが困っているときにとんでいって「どうしたの」「大じょうぶ」という友だち関係が学校に定着していることが大切である。そして、何よりも目標に向かってそれぞれの立場で助け合える指導には、また十分な子どもの理解が必要になってくる。

以上三点については、相互に重なり合い、交錯している面もかなりあるが、好ましい人間関係の重要なポイントとして実践してみることにした。

② 実践事例「そうじの指導」〈40分〉 [1年生の事例]

ア. 「そうじをもっとはやくしよう」

ひとりひとりカードをならべながらその順序を考えたり、O.H.Pを利用して「ぞうきん」や「ほうき」の持ち方を考え合ったりした。

ぞうきんを四つ折りにして使う、つくえのせいとんは両はしに人が立ってみよう等々、子どもたちのくふうを出させながらの楽しい授業のあと、実際にやってみることにした。見ている子どもたちは、点検カード(評価)をもって見ている。

反省会は、意図的に「わかったところ」をはずし、「よいところ」ばかり言わせた。「つくえがピカピカです。」「Aさんはテレビのうらまで拭きました。」「B子さんとC子さんのふたりでつくえを運ぶようすは仲がよかったです。」「D君は遊ばないでそうじをしました。」等々。

イ. その後の様子

「いいことばかりいう反省会」は楽しく、またそうじそのものの向上は目を見張るものだった。「先生、10分間に挑戦してみる」「先生、見ていなくていいよ」等々、子どものそうじに対する意気込みは一年間近くもおとろえない。反省会もだんだんと友だちとの協力の点をふれるのが多くなってきた。

ウ. 私の感想

長所を発見したたえ合うことを強調したのは、それなりの理由があったのである。私のクラスに「自閉症児」に近い子どもがいたが、その子をどうつつみ、みんなが高まるかを考えた末のことである。今はその子は生き生きと活動しているので感無量である。

(2) “友だちの心を大切にする”ということに気づかせる 【4年生の事例】

① みんなでやるそうじ当番

清掃は、昼休み終了後の15分間に全校一斉に行うことになっている。終了と同時に5校時の学習が始まるので、短い時間の中で役割分担から反省までやり遂げねばならない。教師にとって初めての経験であるこの方法は、配当人数が多いので何とかなるであろうと3つの清掃箇所を生活班を2班ずつ組みあわせてやらせた。学年当初で子どもたちも張り切っていたが、終了チャイムがなってもきれいに仕上がっていない。

1週間後、よくなるようすが見られないので、学級指導(20分)を実施することにした。「そうじの仕方」ではなく、思いきって、うまくいったことだけに焦点をあててみた。

- ・うまくやっている友だちのこと
- ・協力したのでよくできたこと

以上の2つについて話し合いをさせたが、発表できるような体験をもつ子が少ないため活気がなく、授業は成功とはいえなかった。しかし、その日の清掃は見ちがえるように変わってきた。細かく分担を決めたことも効果があった。ほうきに当たった班は全員に道具があるので無駄なやりとりがなくなり、からぶきの子どもが、すみの方のごみを注意したり、落ちにくいよごれをぬれぞうきんでふきとってから、かわいた布でみがいたりする姿がだんだんふえていった。その後、水ぶきに当たった班が、面倒な教室をきれい、楽な場所に集まって問題になったことがあったが、「2人ずつ組んで交代にやるとよい」という意見が採用され、さらに改善されていった。

○ そのころの子どもの声

- ・前より熱心にやっている(31人)
- ・前と変わらない(4人…いずれもまじめな子)
- ・前より悪いようだ(1人)

—熱心にやるようになったわけは—

- ・楽しみを見出しているもの(10人)

きれいにするのが好き、おもしろい、こつがわかってきた、気持ちがいい

- ・人間関係にふれたもの(11人)

みんながよくやっている、〇〇君に負けないように、班のきまりを作った

班長をきめた、班長になったから、ほめられたから

- ・心がまえにふれたもの(8人) やる気が出た、責任がある、きちんとやるもの
- ・マイナスの要素をもったもの(5人) 注意されたくない、よい班の〇をもらいたい

—さぼりたくなるときは—

- ・人間関係にふれたもの(12人) 班の人がふざけているとき、友だちと話したいとき、なかよしの友だちといっしょのとき
- ・そうじの仕方によるもの(14人) 手がかれたとき、だいたい終わったとき、やることがわからないとき、いやな場所のとき
 - 一友だちがなまけているのをみると一
- ・気にならない(14人) どうも思わない、自分も悪いときがあるから仕方がない
- ・気にする(22人) 注意したくなる、班長が注意すればよいのに、反省会でいおう時間に間に合うかな、いやだな、どうしようもない

② 以上の調査から、子どもなりにやる気が増していることがわかる。この結果を資料として話し合ったら「みんなやる気があるんだ。なまけていられない。」「なまけているのを見ても気にしないでやる人が大ぜいいる。」「そうじを楽しんでやっている人がいるのに感心した。」などの声があり、友だちの考え方ややり方が大いに参考になったようだ。

そうじの手順・方法など実演をいれて何度か指導しても、じきに元の状態にもどってしまうことを考えると、中学年では、友だちのよいやり方を知る、ほかの班の工夫をみつけて知らせ合う等、人間関係にポイントをおいた学級指導がより効果的であろうと考えられる。

② 楽しい班づくり………班日記を活用して………

「学校の帰り、何だか元気がない。下を向いて歩いた。わたしは班長なのにとっても無責任だ。みんな正直にやっているのに、わたしはすぐにケチをつけてしまう。そんなこと言う気じゃないのに、わかってください。みんなごめんね。と今さら言えない。ただ笑っているだけだ。いつの間にか 以下略 」

「Tさん。いい班長さんになろうとしているのがわかりました。そんなことを思っているなんて知りませんでした。昼の放送のとき、注意することもあるけれど、いっしょになってふざけているときもありますね。 以下略 」

班日記の1こまが、学級指導の資料として効果的に活用できる。ひとりひとりの子どもが、より楽しく豊かに学校生活を送るには、人の立場をわかりあうこと、思いやりの気持ちが必要なことを、班活動を通し身につけさせたいと計画していたので、学級指導の主題として設定した。

友だちの生の声がひしひしと感じとられたのか、真剣な話し合いが展開された。知らないうちに友だちを喜ばせたり、傷つけたりすることに気づかせ、今後、嬉しかったことを

知らせあおうと決まった。日常生活の中で小さな親切に気づく子がしだいにふえていく。

(3) “集団の中の個”という意識を高めるまで 【5年生の事例】

4月当初、学級編成替えのないままのクラスを担当してまず気づいたことは、生活や学習に対する取り組みの安易さであった。グループは仲のよい者に固定され、男女がはっきり分かかれ、そのため仲間には入れないでいる児童も目についた。当番活動もやる気のある者にまかせて遊ぶ、失敗した者に対して冷笑する等、利己的な考えの児童が多かった。

① 一学期のグループ作り

児童の特徴がほぼとらえられた4月下旬、等質の班の編成を行った。

- ・今まで好きな人同志で並んでいたのに、どうして男女で並ばなくちゃいけないの？
- ・A君が忘れものばかりするので、班のがんばり表に○がちっともつかなくていやだ。
- ・先生は「班で話し合いなさい」というけど、ぼくは自分のやることはきちんとしているんだから、話し合いなんかなくても個人の自由じゃないんですか。

はたして、さまざまな反応が現われてきた。そこで、“集団の中の個”という意識を持たせるべく、いろいろな手立てを講ずることにした。

② 好ましい人間関係を育てるための指導事例

ア. あいさつをしよう 4月 <20分>

友だち意識を持たせるための手立てとして、朝、教室へはいる時に「おはよう。」と声をかけあっているかどうか話し合う。ほとんど全員がだまっではいるとのこと。S子の「あいさつしてもだれも答えてくれないし、笑い人もいるのでやめた。」という発言をとりあげ、あいさつの意義と効用について話し、教師も共に実践することになった。

※ その後の様子

- ・6月 実践していない者は約3分の1。理由は“はずかしい”“あいさつしても返事をしない”……そこで、だれに対してもあいさつを返すことを強調した。

- ・9月 ほぼ全員が実践するようになった。

イ. 男女が仲よくしよう 7月 <40分>

班会議や清掃時のトラブルに男子対女子の問題が多く、話し合いの際なども内容を考えずに同性同志で賛成するという風潮がみられたので、友だちへの思いやりということも含めて話し合う。児童たちはようやく本音を出すようになり、教師としては特に友だちを差別しないよう強調した。これについては、その後も数回の即時指導を行った。

※ その後の様子
・班の中の男女の分裂が少なくなり、話し合いの際も男女に関係なく正しいと思う意見を賛成するようになった。

・9月末ごろから、男女いっしょに遊ぶようになった。

・11月初め、ある女子が嘔吐した時など、教師が保健室へ連れていってもどつてみると、男女7人で、新聞紙・ぞうきん等を持ってきてあと始末をしている最中だった。

ウ. そうじの反省について 10月 <15分>

二学期半ばごろ、“T男がそうじをなまける”という反省が2日連続で出たため、そうじの反省のあり方について考えさせる。反省とは次の日に生かしてこそ意味があること、仕事の分担を考え、自分の仕事がすんでも他を手伝って班全体の仕事として早く終わらせるよう努力すべきこと、の話をもとに、班で話し合わせた。

※ その後の様子

・なまける者への他児童の働きかけが活発になる。(なまけていられないムード作り)

・反省の方法についても、ゴミ・道具の整とん・机の並べ方等を全員で細かく点検する班もあらわれ、ことばだけの反省でなくなろうとしている。

エ. 班日直の実施 学級全体の一日の生活をスムーズに進行させるために、数多くの役割を日直に持たせている。従って班全員に、必然的に話し合い・分担・協力が要求されるわけで、その中からも人間関係の深まりが期待できるのではないかと思う、輪番で書く班日記の効用と相まって……。

③ 三学期のグループ作り

生活、学習全般に対する取り組みが前向きになり、“班・学級の中の自分”という考えがたつて、進んで“班をよくしよう”“友だちのためになろう”という意識が育ってきたと思われる。三学期の班作りの際「同じ班になりたい人とその理由」を書かせた中に、

・あまりつきあったことがないので、Yさんと同じ班になりたい。

・わがままなところを直してあげたいから、K君といっしょにやってみたい。

・U君は忘れものが多いので、いっしょに組んで直してあげたい。
等の見られるのは、その現われのひとつではないだろうか。

4. 学年の発達段階を配慮した指導計画

(1) 清掃・美化に関する指導計画

学級指導は、児童の発達段階や学校学年の実態に則して指導計画をたてて指導することにより、学級指導の目標を達成することができるものとする。清掃・美化の指導も同様であり、発達段階を配慮した計画をたてることにより、心身の健康増進、望ましい人間関係などを育てることができるものとする。

1年生は、そうじをしない学校が多いが、この時期に教室や校庭などに紙くずやごみなどを捨てないようにする指導が必要である。2年生は、そうじをはじめの時期であるので、そうじの仕方やそうじ用具のあとしまつなど、そうじの基本となることを身につけさせなければならない。中学年では、能率的なそうじの仕方や協力について指導し、高学年においては学校全体の美化や責任・協力に関する指導をすることが必要であるとする。以上のように低学年からの積み重ねや発達段階を配慮した指導がたいせつである。

(2) 学年の【主題名】例

学年	清掃・美化に関する主題例		
1	○身のまわりの整理	○教室をきれいにしよう	○みんなで使う場所
2	○正しい清掃の仕方	○きれいな仕上がり	○そうじの時間
3	○じょうずな清掃	○そうじの時の身じたく	○そうじ用具のあとしまつ
4	○清掃の順序や分担	○協力して時間内に	
5	○能率的なそうじ	○責任や協力できれいにやろう	
6	○学校の美化	○そうじの仕方の改善	○男女の協力で能率的に

○ この主題名は、学年の発達段階を配慮してとりあげてみたが、まだ、ことばが精選されていない。また、学校によっては、1年生から清掃をはじめの所もあり、学級の編成替も2年生の所や3年生の所などがあり、学校の規模や実態に合った主題をとりあげることがたいせつである。

(3) 指導計画

学年	主題名	ねらい	指導内容(その他)
1	教室をきれいにしよう	○らくがきをしたりごみをちらかしたりしない	○そうじは上級生がしていることを話し合う。 ○1年生として、どんなことをしたらよいか話し合う。紙やごみ ・らくがき ・せいとん

2	じょうずな そうじ	○そうじの順序・そ うじ用具の使い方 協力のたいせつさ。	○毎日のそうじのようすを話し合う。 ○そうじの順序を確認する。 ○協力してきれいに早くする。
6	そうじの仕 方の改善	○そうじの能率的な 方法を考え実行さ せる。	○そうじについて問題点は何かを話し合う。 ・男女の対立 ・おしゃべりや遊び ・そうじ の分担や協力 ○これからの実践を具体的にだして守らせる。

(4) 指導案

① 主題 [そうじ用具の使いかた] (4年)

② 主題設定の理由

友だち間の協力の不足やそうじ用具の不備などが原因で能率のあがる清掃ができない。そこで、用具の不備に目を向け、用具の数量関係と能率よい使い方に気づかせ、さらにはきそうじ、ふきそうじに分けて正しい使い方を指導するため本主題を設定した。

③ 指導のねらい 能率よく清潔にふきそうじをする習慣をつける。

④ 展開 (20分)

段 階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	備 考
導 入 (意識化)	1. 汚れた雑布・乱雑にかけた雑布が けを見せて感じたことを発表させる。	○雑布の重なりぐあいとかわき 方、よごれのぐあいなど。	乱雑な 雑布掛
展 開 (原因追 求)	2. 雑布・バケツの使い方を考えさせる ○雑布をすすぐ時、流し場まで行く のと、バケツ使用との能率を比 較。	○机の数、すすぐ回数と速さ。 ○三種ほど水量のちがうバケツ ですすがせ、やりよさ、散水 のようすを比べる。	バケツ 3個 雑布数
解 決	○バケツに入れる水量について、使 いよい量を考えさせる。 ○ふくときの雑布の扱い方について 工夫して発表させる。	○手の大きさ位に折り、汚れた ところを折りなおして使う。	枚
終 末 (意欲化)	3. ふき終ってからの用具のしまつ ○雑布のすすぎ方、しぼり方 ○雑布がけの使い方の反省 ○バケツのかた付けかた 4. 詩を聞き実践意欲を高める。	○バケツの水切り、雑布を日光 にあてることなどをとりあげ る。 ○自分の雑布に愛着をもつ。	詩 私の雑 布

① 主題 [学校の美化] (6年)

② 主題設定の理由

高学年として、環境の美化についての認識を深め、自主的にいつも身のまわりを清潔に保つようにし、美しい環境は美しい心を育てるという因果関係をおさえて、清掃活動の問題点、清掃用具の整備と補修、大そうじのしかたなどを指導し、望ましい清掃活動の実践が行われるようにこの主題を設定した。

③ 指導のねらい

(2) 清掃用具の基本的な整備・補修・清掃のしかた・大そうじの意味などを理解し、環境美化の実践をさせる。

④ 展開

段階	学習活動	指導上の留意点	備考
導入 (意識化)	1. こわれたほうき, 絵, 問題場面の指摘などを通して, 問題の所在に気づく。	○ 身のまわりの美化について 関心をもたせる。他の場面にも関心をひろげるようにする。	ほうき ちりと り, 絵
展開 (原因追 求・改 善解決)	2. いつもきれいにしておくにはどうしたらよいか, 問題をもつようにする。 3. 清掃の仕方について話し合う。 ・清掃用具の種類と目的 ・使い方について ・補修および整備について ・大そうじの目的について ・清掃活動の方法について	○ よごさないことにも留意させる。 ○ 清掃用具は種類によって使う場所, 使う目的, 方法, 扱いなどが異なることを理解させる。	用具の 絵図又 は実物 の準備
終末 (意欲化)	4. 清掃全般についてのまとめ, 実践意欲を高める。	○ 清掃活動によって, 環境の美化が保たれ, 精神的にも大切であることを理解させる。	

⑤ 評価 清掃活動の方法, 用具の扱い, 環境美化の重要さがわかり, 実践できたか。

(5) まとめ

紙面のつごうで, 低学年の指導案がのせられなかったが, 発達段階を配慮した指導計画と指導案の一例を提示した。このような「清掃・美化」に関する指導に限らず「安全や生活習慣」などの指導も低学年からの積み重ねが肝要であり, 発達段階に応じた指導が大切である。

5. 全校体制のもとで、ひとりひとりを生かす学級指導

学級指導の指導内容の中には、学級のわくの中だけにとどめず、全校的な体制の中で指導することによって一層効果をあげることができるものが多い。学級集団から学校集団へと関心を向け、より大きな集団への適応をはかることによって、学校成員の一人として、実践的社会性を身につけさせることができる。

このような学級指導の主題の性格を考えると、昨年度の研究でも明らかにしたように、次の二面があると思う。

一つは、運動会・学芸会・展覧会などの事前に、会場図などをつかって、学級のひとりひとりがどのような行動をとったらよいかを考えさせるものである。図書館の利用指導や出張清掃のあり方などもこれに属する。

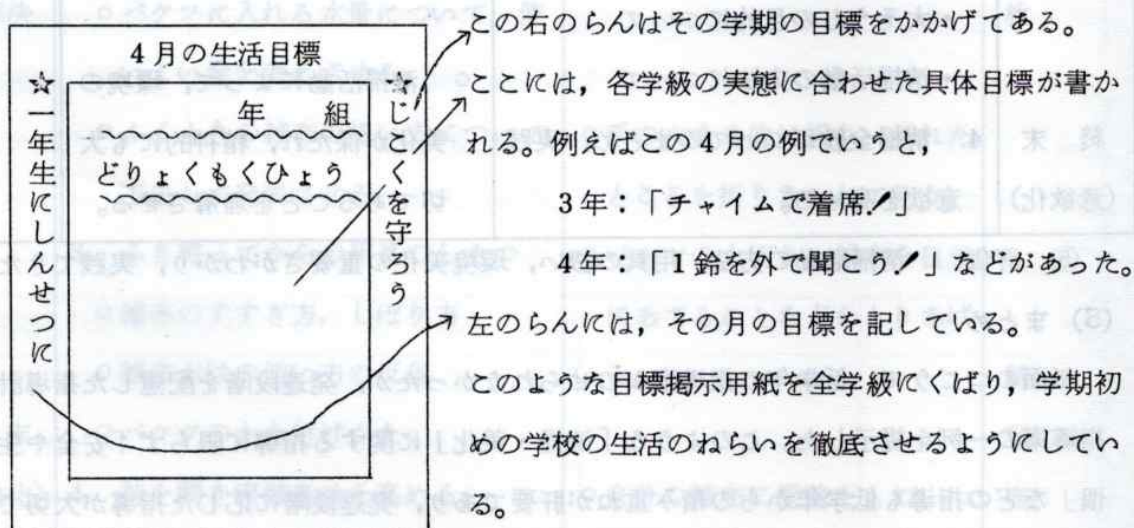
もう一つは、廊下・階段の歩行、全校体力づくり（マラソンやなわとび等）の日常化など、自分の学級だけでなく、全校体制の協力の中ではじめて効果が倍増するものがある。これを一層確実にするためには指導計画の段階で、教職員の共通理解をはかっておく必要がある。今年度の研究では、この後者の事例として、以下に2例をあげ、ご批判を得たいと思う。

(1) 学期初めの全校一斉学級指導

各学期の初めに、全校一斉の学級指導の時間をとり、その年度の、また学期の生活がスムーズに開始できるように指導している実践例について述べる。

指導事項は、学校のその時の実態に応じて設定しているが、主として次のようなことをとり上げ効果をあげている。

- ① その年度の、またその学期の生活指導の目標を、学年に応じて指導する。



この右のらんはその学期の目標をかかげてある。

ここには、各学級の実態に合わせた具体目標が書かれる。例えばこの4月の例でいうと、

3年：「チャイムで着席！」

4年：「1鈴を外で聞こう！」などがあつた。

左のらんには、その月の目標を記している。

このような目標掲示用紙を全学級にくばり、学期初めの学校の生活のねらいを徹底させるようにしている。

② 基本的な生活の躰となることについて全校一斉の指導を徹底する。

廊下の歩行、すのこの使い方、くつ箱のくつの入れ方、朝は元気にあいさつを、等について各学年の段階に応じて指導する。

③ 学級の話し合いの中から、提案事項があれば、生活指導部がとり上げ、全校にPRしている。例えば、階段の上り下りに対して『階段は、一段一段一秒二歩』とか、『階段は、下り小まわりあわてずに』などのスローガンが取り上げられた全校にキャンペーンされた。

(2) 子ども会で遊ぼう (T校の事例)

全校の児童を地域子ども会別に1班20人内外で編成し、夏休み直前の話し合いと夏季休業中の子ども会行事を主たる活動として行っている。日常活動としては学期に1~2回ずつ20分休みを使って、班長を中心に遊ぶ機会をつくり、活動させている。低学年の児童は、これをたいへん楽しみにしている。この活動の事前に、各学年毎に学級指導を行っている。高学年では遊びのリードの仕方、低・中学年では遊びへの参加の仕方などを取り扱い、全校体制の活動に意欲的に参加できるようにしている。このようなゲームをすること自体、実は学級指導のねらいである“人間関係の育成”に直接結びつくよい事例の一つであろう。

(3) たてわりの清掃指導を通して

学級指導の目標の一つに、「学級における好ましい人間関係の育成」があげられている。

学級の好ましい人間関係を横のつながりとすれば、学校の全校児童の好ましい人間関係、上級生と下級生がいっしょになって行う教育活動はタテ軸の人間関係といえることができる。たてわりの教育活動は全校体制の中でひとりひとりを生かしながら、全校で一つの目標にむかって活動する好ましい人間関係をつくる活動である。その活動の一つに、たてわり式の子供会活動がある。

たてわりの清掃活動は、学年学級の枠をはずして上級生と下級生が共に清掃作業する中できれいな環境をつくりだしたいという意識と、学校をいつもきれいにしようとする公共心を育て、さらにグループの協力や連帯の心の育成をねらいとしている。

清掃活動は学校教育活動の中で、生活指導目標の徹底が困難なもののひとつであり、指導上の問題が多い。それらの点をふまえて、清掃美化の学級指導のくふうと実践をつぎのように行ってきた。

① たてわり清掃活動の概要

ア. 実施計画案は生活指導部・特活部・保健委員会が中心になり、分担区域・実施時間

班の編成、清掃の手順などの原案を作った。

- イ. 学年の発達段階や子どもの体力、経験などを考慮した班の編成を行い、ひとりひとりが楽しく意欲的に勤労する中で、子どもの人間関係と心の交流をはかることを配慮した。
- ウ. 実施にあたっては学校行事として時間をとり、全児童(3~6年)に清掃のねらい、時間、方法、手順などの説明をした。
- エ. 実施後、問題点が出た場合は随時職員間で問題点を提出しあい、全職員の共通理解の上で、学級指導で解決していった。

② 清掃活動を通して助けあいの心を育てる

学級指導は学級単位の指導として行われるものと、子どもをとりまく実態から指導の必要と認められるものがある。指導の内容や指導の方法は学級の独自性がある。ただたてわり清掃活動の指導の場合、子どもの日々の清掃活動の実態や働く態度行動の中から学校・学年の中で問題となった題材をとりあげ、各学級におろして内容や方法を具体化して指導するようにしていった。

この一年間に共通の題材としてとりあげられたものは、「掃除の正しいやり方」「掃除のときの協力」「反省のしかた」などである。

ア. 高学年はリーダーとしての指導性と責任感をもつように強調して、下級生に対して親切に掃除のしかたや道具の使い方を教えるとともに仕事に対して進んで取り組むことを指導した。

イ. 下級生は、上級生といっしょに作業する中で、清掃のしかた、道具の正しい扱い方、反省のしかたなどをすなおに教わり、その方法を身につけていくように指導した。

ウ. 清掃活動は、だじな教育活動であることを、子どもも教師も認識して、学校の美化に対する意識化と勤労を尊ぶ心を育てた。

③ 今後の課題

子どもの清掃に対する関心の低さ(勤労をきらう態度)は減少してきたが、生活指導上学校生活全般をみると、まだまだ学級指導の時間での指導が徹底していない。

学校の生活には、さまざまなきまりや活動があるが、言われて行動する子どもでなく、ひとりひとりが、気づき、考え、実践する子を育成するよう努力していかななくてはならない。

6. 実践事例

(1) 3年生の事例

① 主題 「整理・整とん」。(40分)・3年

② 主題設定の理由

3年生ともなると、行動が活発になり、休み時間になると早く外へ出たくて自分の身のまわりの始末も、まただらしがなくなってきた。

特に、この地域の家庭の職業は、印刷製本関係が多く、家の中はいつも紙類がたくさん積みあげられ、裁断したくずの中での生活に慣れてしまったためか、だらしない子が多い。

最近、特に、机の中やロッカーの中が雑然としていて、口先でいくら注意してもきちんできない。この期にもう一度、入学当初に指導した整理整とんの仕方に目を向けさせ、さらに広く学級内の物の整とんの仕方を考えさせるとともに具体的な実践方法を実行させたいと考え、本主題を設定した。

③ 指導のねらい

身のまわりの整理整とんに目を向けさせ、どうすれば気持ちよく合理的な生活ができるか机の中の整理をとおしてくふうさせ実践させる。

④ 展開

指導過程	学 習 活 動 と 内 容	指導上の留意点と資料
問題の 具象化	1. スライドを見て、自分たちの学級の様子を話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 机のせいとん 机のわきの荷物 ロッカーの中 机の中 	<ul style="list-style-type: none"> 導入段階を省略してあるが、簡単な言葉による動機づけをする。 自作スライドの活用
問題解決 の方法	2. 整理・整とんの必要なわけについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> 乱雑になった原因を考える。 整とんの必要なわけについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 整とんが悪いために困った事例を通して考えさせる。
	3. どうしたらじょうずな整理・整とんができるか考える。 <ul style="list-style-type: none"> 机の中にいれる物 その日の学習用具だけ(大きい物はロッカーへ) 机の中のいれ方 	<ul style="list-style-type: none"> TP「整理・整とん」の活用

	ノート・教科書・筆記用具……位置・重ね方	
動作化	4. 自分の机の中の整理・整とんをする。 ・友だちどうし正しくできているか確認する。	
実践への意欲化	5. 机以外のところについても、整理・整とんをするよう実践への意欲づけをする。 ・後日、各自整とんするよう約束する。	・よい例，スライド 実践への意欲づけのための活用

⑤ 評価

整理・整とんの具体的方法を理解して実践しようとする意欲を持ったか。

※ その後のようすと考察

ア. ベルが鳴ると、我先に飛び出す児童たちも、この授業後はそうはいかなくなった。飛び出そうとする子を見ると「飛び出すな！整理整とん30秒」とはやし声とぶ。この授業の終末で全員で確認し合った合ことばである。教師が叱責したり注意するより効果があり、お互いに注意を喚起するようになった。

イ. だらしがない習慣は、一度の指導でなおるものではないが、児童たちの心の中には、整とんの必要性が、以前よりも深く印象づけられたようである。この認識は、授業で活用したスライドによって、日常の室内のようすがいかにだらしなかったかを個々の児童に印象づけたため、一層高まったものと考えられる。

ウ. 本時は、一番乱雑であった机の中にだけしぼって指導が展開されたが、動作化を前のグループの話し合いは大変活発で、ノートに図を書いたり、実際に机の中の道具をとり出し実演したりするようすが見られた。これは、主題をひとりひとりがとらえられたからと考えられる。他の面の整理・整とんについては、教師の補足と全員の話し合いで意識づけを用い、後日の日常活動へ結びつけた。

エ. 翌日のショートの子指導の時間に「整とんコンクール」として、ひとりひとりが思いの工夫によって、ロッカーの中の整とんをするように本時の授業を発展させたのは、指導の効果を一層深めるのに役立った。

オ. さらに、給食ロッカーやくつ箱など身のまわりの整理整とんに目を向けるように指導を続けている。

カ. 3年生の児童に、1時間の授業で身につけさせることはできない。時がたつとくずれがちであるが、学校生活全体の中で、何度もくり返すことで根気よく指導を続け、ひとりひとりの児童に習慣化させる努力が大切であると痛感している。

(2) 6年生の事例

① 主 題 「班長と班員のあり方を考えよう」 (40分)

② 主題設定の理由

運動会、展覧会、連合音楽会と続いた行事も社会科見学で一段落し、落ちついた学級生活をさせたいと考えた。

ところが、班日記や学級新聞の中に「班長や当番長の役割」について書かれることが多くなった。そこで、次の2点について調査を行い、児童たちの実態を把握した。

①自分の所属している生活班は、なかよく活動できているか。

②所属する班長はどんなところがよいか。どんなところが悪いか。

その結果は次ページの通りであった。そこで、各班とも他の班のようすを知り、意見を交換させる必要があると考え、学級新聞を利用して意見交換をさせてきた。それにつれて、各自の不平、不満もあきらかになってきた。

あと一ヶ月余で進学試験の時期。学級集団として一段と好ましい人間関係を育てる必要があると考え、この主題を設定した。

③ 指導のねらい

班長の役割や立場を理解し、班員のひとりひとりが力を合わせて、よいグループづくりをしようとする実践的態度を養う。

④ 展 開

指導過程	指導 (活動) の 内容	指導上の留意点
問題の具象化	録音テープを聞いたり、トラペンを見て、どんな時、班長と班員の関係がうまくいかないか話し合う。	問題の意識化をねらい、現に児童たちが困っている点について具体的に話させる。
問題解決の方法	どうしたら、グループの活動がうまくいけようか班ごとに話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・班長の役割は、 ・班員はどう協力したらよいだろうか。 班で話し合ったことを発表する。 班長と班員が協力して、よりよいグループを作るには、どんな約束をしたらよいか決める。	机間巡視をし、児童のすぐれた発言をとり上げ、はげますなどして話し合いを深めるよう助言する。 自分がどちらの立場にあってもよいように考えさせる。
	委員会活動や係活動においても同じ気持ちが必要	

実践化への意欲	なことを確認し、決まった約束についての感想や決意を新聞の原稿にまとめる。
---------	--------------------------------------

⑤ 評価

班長・班員の役割や立場を理解し、協力して、よいグループを作ろうとする実践的態度ができたか。

○ 調査結果

〔質問〕 1. あなたのグループはなかよく活動できていますか。

〔回答〕

	うまくいっている	まあまあうまくいっている	よくない
1 班	1	2	2
2 班	1	4	1
3 班	1	4	1
4 班	4	2	0
5 班	0	6	1
計	7	18	5

〔質問〕 2. 班長さんはどんなところがよいですか。

〔回答〕

責任感がある…………… 3 いやなことでも進んでする…………… 2
 仕事をする…………… 1 みんなの中心になってくれる…………… 2
 分担を忘れても教えてくれる… 1 みんながわかるようにしてくれる… 1
 悪いことを注意してくれる… 1 会の司会などよくしてくれる…………… 5
 ふざけない…………… 1 適当にふざけて暗い感じにしない… 2
 いばらない…………… 2 ひいきしない…………… 1
 自分勝手にない…………… 1 おこらない…………… 1

〔質問〕 3. 班長さんはどんなところが悪いですか

〔回答〕

責任感がない…………… 2 進んでしない…………… 4
 もんくを言いすぎる…………… 2 人に注意しながら自分でしない…………… 4
 最後まで意見をきかない…………… 1 悪いことをしていても注意しない… 4
 自分の意見ばかり言う…………… 1 ひっぱっていつてくれない…………… 3
 分担をちゃんとしてくれない… 2 人にまかせて楽な仕事をする…………… 1
 注意してもなおしてくれない… 1
 不平等…………… 2 男女平等でない…………… 1

ふざける……………	4	逃んでしまう……………	3
真剣でない……………	1		
おしゃべり……………	2	ことばが悪い……………	1
声が大きすぎる……………	1	冷静でない……………	6
お天気や……………	1	暴力をふるう……………	3
時間にルーズ……………	1		

※ 指導後の反省と考察

ア. 清掃, ことばづかい等の適応問題を考えるとき, 低学年より高学年の方が悪くなるという声も多い。低学年でできたことが高学年でできないということを考えると, 作業の分担とか進め方が問題でなく, 人間関係を深める指導がたりないのではないだろうか。「班長と班員のあり方を考えよう」という主題をとりあげたことはその一つの試みとしてよかった。

イ. 指導案をたてる時, 子どもの思考の順序だてを大切にすることは大切だが, そのすべてをもち込もうとして, 形式的に終わってしまうことが多い。それを防ぐため, 事前に実態をつかまえておく必要がある。実態をつかむということは, 実態調査そのものではない。「問題をどうとらえようとしているか」という問題意識をとらせることである。本授業でも, 班長の役割とか, 立場を考えさせることは, 朝の会等でしておき, 「集団の中で自分がどう役割を身につけなければならないか」という意識を持たせて授業に参加させればもっと効果的な学習ができたのではないか。

ウ. 子どもの要求の解決, つまり, 人間的要求そのものを出させるためにはどうしたらよいか考える必要がある。班で問題点を出し合い, 学級全体で確かめ, 班全体で解決法をさがし全体で話し合う方法をとったのは, ひとりひとりの本音を出させるためによかった。

また, 「班長のいうことを聞かなかつたら班長にする」とか「死刑にする」といったことばを教師がとりあげ, 追求していったのも, 実践的な解決法を考えさせるのに効果があった。

エ. ひとりひとりを生かす学級指導を行うためには, 日常の学級経営が大切である。高学年に多い男女の対立など, 「男が悪い, 女が悪い」と決めつけず, 問題が何故生じたか考えさせ, 思いやりを持って考えさせるよう努力したい。

オ. 学級新聞を全員で書くのは, 問題の投げかけにもなるし, ことばで表現できない子どもに本音を出す機会を与えることにもなっている。

7. 研究の反省と今後の課題

現場では、学級指導の時間の確保が未だ困難であるとの声も聞く。また、指導内容の精選はひとりひとりを生かし、児童の実態に即して指導されなければならない学級指導の課題である。

限られた時間を有効に活用して指導効果を高めるために、発達段階に即してどんな主題をどのように展開したらよいか。適応に関する指導を中心に指導のあり方を追求してきた。

- (1) 学級指導の本来のねらいである「人間関係の育成」は極めて大切である。改めてこの点を認識したい。たとえば、給食前の手洗いの指導も、集団に所属する一員としての立場をおさえて指導されなければならない。即ち、手をきれいにすることが、友人とのかかわり合いの中でなぜ大切なのかを指導する。
- (2) 清掃に関する指導にしても、ひとりひとりが集団にどのように適応しているか、また、所属感をもって適応しようとする意識をもっているかということとかかわり合いがある。清掃がうまくできないという生活上の現象を深く掘り下げて考え、その実態を見つめて適切な主題を設定することが大切である。
- (3) 児童の主体性とは、児童が価値内容（教材）を自分の目的活動のために自由に使うような時にはじめて成り立つものである。学級指導においても、児童の目的活動を第一次的に考えることである。そして、目的を達成するために、それを阻害する条件を克服する喜びを持たせることが「学級指導の本質」に迫る指導と言えよう。
- (4) 知的な情報が中心になっている学級指導が多いのではないだろうか。
- (5) 教師が準備した資料に児童がどう反応しているかを確かめないままにずっと流したような指導が多くなっていないだろうか。突っこみの足らない指導になっていないだろうか。

以上のようなことが、研究会で話題となった主なことであり、今後、さらに発達段階に応じて実証的に追及しなければならない課題である。

おわりに

研究部の幹事の先生方は、地区の研究会や校内の研究会の重要なメンバーである。本研究会が、それぞれの研究会と重なり苦慮されることが多かった。それらの悪条件を克服して出席、研究された幹事の先生方、中でも積極的に公開授業に取り組まれた、吉仲ミチ子教諭、橋本肇教諭に敬意を表す。同時に、毎回会場を提供して戴いた文京、柳町小に御礼を申し上げる。

最後に、講師として有益、適切なお指導をたまわった都研指導主事・時松茂親先生、運営についてご助言をいただいた石川和男先生に厚くお礼を申し上げる次第である。

昭和51年度

東京都小学校特別活動研究会 役員・本部幹事・理事名簿

一 役 員 一

会 長 白井 健二 千代田・今川小長
 副 会 長 久納 六郎 練 馬・富士見台小長
 " 立川 弘 目 黒・油面小長
 " 小島 明 江戸川・下小岩小長
 庶務部長 佐藤 弘 文 京・駒本小教
 副 " 石川 和男 文 京・柳町小頭
 会計部長 中田 英義 荒 川・第七峡田小長
 副 " 竹石 善一 文 京・窪町小頭
 専門部長 外村 近 港 ・桧町小頭
 副 " 岩下 紀夫 世田谷・桜 小
 " 岩園 敏明 八王子・第七小頭
 児童会研究部長 松野 彰夫 板 橋・板橋第四小
 学級会 " 笠井 光夫 板 橋・北 野 小
 クラブ " 小川 国寿 港 ・桜 川 小
 学級指導 " 安岡 正凱 練 馬・光 和 小
 事業部長 広瀬 英二 北 ・堀船小頭
 副 " 島田 泰介 町 田・南第二小頭
 編集部長 古橋 宏 江戸川・第二葛西小長
 副 " 峰田 涉 足 立・竹之塚北小頭
 会計監査 小谷 威 清 瀬・清瀬第八小長
 会計監査 大西 弘 墨 田・第四吾嬬小長

一 本 部 幹 事 一

庶 務 嶋根 弘子 板 橋・三 園 小
 " 池田 令子 文 京・千駄木小
 " 鎌田 清美 文 京・駒本小
 " 佐々木洋子 文 京・元町小
 " 野々村勝男 文 京・柳町小
 " 吉仲ミチ子 文 京・柳町小
 " 池田 蔭 北 ・滝野川七小
 " 武内 郁夫 北 ・赤羽台東小
 会 計 西川 妻子 板 橋・板橋第六小
 " 古川 絢子 千代田・佐久間小
 " 蛸井 聡 北 ・滝野川七小
 事 業 木場 住郎 世田谷・多聞小
 広 報 合原 渡 板 橋・板橋五小
 " 尾上 庄三 新 宿・落合四小
 " 桜井 博 世田谷・赤堤小

一 理 事 一

千代田区 石井 善一 佐久間小長
 中央区 中島 武 京橋小長
 港区 宮之原和親 高輪台小長
 新宿区 大山 隆徳 早稲田小
 文京区 桧山清之助 金富小

台東区 高橋 之子 小島小長
 墨田区 三木茂三郎 柳島小長
 江東区 早坂 一 七砂頭
 品川区 岡野 高雄 旗台頭
 目黒区 山田 一夫 東根小長
 大田区 梅沢 久胤 馬込三小長
 世田谷区 古市 辰威 千歳小長
 渋谷区 仁保 義和 神宮前小頭
 中野区 竹内 宏 桃園三小
 杉並区 宮本 武 松庵小
 豊島区 石田 岬 池袋三小長
 北区 高田 明正 桜田小
 荒川区 福田 澄雄 赤土小
 板橋区 笠井 光夫 北野小
 練馬区 宮倉 敏男 光和小長
 足立区 酒井 孝雄 湊江小長
 葛飾区 高橋 讓 渋江小頭
 江戸川区 小河 一久 上小岩二小頭
 八王子市 吉田 守秀 鹿島小
 立川市 瀬崎 耕一 南富士見小
 武蔵野市 伴 貞男 四 小
 三鷹市 佐藤 治子 大沢台小
 青梅市 村山 美春 十小頭
 府中市 塚本 貞男 南白糸台小
 昭島市 久保 信盛 中神小
 調布市 佐藤 達也 八雲台小
 町田市 田中 秋生 三 小
 小金井市 相沢 秀美 前原小
 小平市 宮坂 岩男 十小長
 日野市 内藤 達夫 四小長
 東村山市 松井 兼則 大岱小
 国分寺市 守屋 博行 七小頭
 国立市 佐久間定吉 六小頭
 田無市 増沢喜美夫 西原小頭
 保谷市 興石 修一 中原小頭
 狛江市 古田 耿介 六 小
 東大和市 中村 立身 一 小
 清瀬市 難波 武夫 五 小
 東久留米市 井上 芳子 七 小
 武蔵村山市 藤沢 良行 六 小
 多摩市 布施 篤美 連光寺小頭
 稲城市 波木井昌嘉 七小長
 福生市 千葉 兆助 四小頭
 大 島 横田 正一 岡田小長

編 集 後 記

「本年度の研究をふりかえって」で、6つの研究視点に触れたが、9つの研究方法は、紙面の都合で割愛してしまった。ここにあらためて記録に止めておこう。即ち、① 授業研究 ② 活動記録の分析、整理 ③ 討議法 ④ 観察法 ⑤ 面接法 ⑥ 作文・日記等の分析整理 ⑦ 質問法 ⑧ 投影法 ⑨ 集団心理テスト等である。このような研究方法についてオリエンテーションをしたわけであるが、結果的には、 $\frac{1}{2}$ の意図が生かされた研究物を編集することができ、深甚の感謝と共に所属感や連帯感を受感するわけである。

さて、教育課程の基準の改善により、今や教育界は、人間性豊かな児童の育成に向って創造性がいやがうえにも発揮できる情勢である。その中にあって、児童は自発的・自治的に活動する時間を強く要望し、片や教師側は、毎月4時間のクラブ活動も満足にとれず、委員会活動に至っては同じ仲間の名前すら満足に覚えなくて活動を終る状況である。また、大規模校では、4年参加のクラブ活動ができないとすら報告されている。学級指導また然りである。

そもそも、特活は全人教育をめざす大きな役割をもつ領域と言われながら、その実、時間が少なく、一部の熱心な学校や教師たちを除いては十分な成果を期待できなかったのが現実であった。しかし、教育課程にもようやく創造性を生み出す時間が与えられそうである。つまり、教科の時数削減は、特活の時間も今まで以上にとることができるという大きな、未だかつてない期待が寄せられるのである。その意味でも本研究が一つの資料を提供してくれたことに深い感謝と勇気と自信をもつように感ずるのは編集子だけであろうか。いや、我々都特活研究会員の総意と歓声であろうと信ずるのである。

研究には限りがない。特活が余裕をもって指導に当れるのも今後であろう。私たちは、制約された時間の中で一人一人の子供を生き生きとさせ、生涯学習の基礎的指導を積み重ねてきたことを重ねて喜び合い、かつ特活の発展と自ら学ぶ子を育てるために最善の努力を誓い合いたいものである。ともあれ、素晴らしい原稿に感謝を捧げてこの項を終る。 (外村)

研究集録 第13集

ひとりひとりを生かす，特別活動の
指導のあり方

印刷 昭和52年2月25日

発行 昭和52年3月3日

編集 東京都小学校特別活動研究会

発行 会長 白井健二

千代田区岩本町2-15-14

今川小学校内

印刷所 株式会社 三誠社

代表取締役 茂呂 弥兵衛

文京区本郷2-11-5

TEL 812-0241・811-2062